

雖モ屠殺スルコトヲ得

第十一條 屠殺場及屠殺人住所ノ最寄ニ獸醫アラサルトキハ獸醫ノ檢按ヲ受ケサル獸類ト雖モ特ニ屠殺ヲ許スコトアルヘシ

第十二條 食料ニ供スル牛馬羊豚ハ屠獸場ニ於テ屠殺スヘシ

但屠獸場ニ牽來ルコト能ハサル場合ニ於テ警察署分署ノ特許ヲ得タルモノハ此限ニアラス

第十三條 屠肉ハ第十條第二項ノ證明書(第十一條ノ場合ニ於テハ此限ニアラス)ヲ添ヘ警察署又ハ警察分署ニ於テ檢印ヲ受クヘシ其間ハ第十條但書ノ檢印ヲ除却スヘカラス(三十年縣令四十七號ニテ改正)

第十四條 屠獸場内ニ於テハ疾病アル牛馬羊豚ヲ屠殺シ又ハ病死ノ牛馬羊豚ヲ屠ルコトヲ得ス

第十五條 警察官吏衛生官吏ニ於テ病獸ト認ムルトキハ其屠殺ヲ禁スルコトアルヘシ

第十六條 屠殺中ハ屠獸場ノ門戸ヲ閉鎖スヘシ

第十七條 屠獸場内ハ毎日清潔ニ掃除シテ汚物ヲ除却シ且屠室ハ屠殺了ル毎ニ之レヲ洗滌スヘシ

第十八條 屠獸場内ニ於テ收受スヘキ屠殺手数料ハ屠獸ノ種別ニ依リ其額ヲ定メ豫メ所轄警察署

又ハ分署ノ認可ヲ受クヘシ

第十九條 屠獸場ニ於テハ正當ノ事故ナクシテ屠殺ノ需ヲ拒絕シ若クハ手数料ノ外別ニ金錢ヲ請

求スルコトヲ得ス

第二十條 屠獸人ニ於テハ身元詳カナラサルモノヨリ屠殺スヘキ牛馬羊豚ヲ買入又ハ屠獸場ニ於

テ其依頼ニ應ジ之レヲ屠殺スルコトヲ得ス

但身元慥ナル保證人アルモノハ此限ニアラス

第二十一條 家畜傳染病流行ノ際ハ其種ニ屬スル獸類ニ限り屠殺ヲ差止ムルコトアルヘシ

第二十二條 屠殺場ニ於テハ付録第二號式ニ準シ毎月屠殺シタル牛馬羊豚ノ牝牡頭數斤數價格年

齡產地及賣渡人又ハ依頼人ノ住所氏名等ヲ詳記シ翌月二日マテニ警察署又ハ分署ニ届出ヘシ

第二十三條 屠獸場一切ノ事ハ持主又ハ管理者其責ニ任スヘシ

賣肉營業

第二十四條 賣肉營業ト稱スルハ食料ニ供スル牛馬羊豚ノ生肉ヲ販賣スルモノヲ云フ

第二十五條 賣肉營業ヲ爲サントスルモノハ戸長ノ與書ヲ受ケ所轄警察署又ハ分署ニ届出ヘシ其

轉住改氏名若クハ廢業シタルトキ亦同シ

第二十六條 無檢印ノ屠肉ヲ買入又ハ販賣スルコトヲ得ス

第二十七條 檢印アル屠肉ト雖モ日數ヲ經テ腐敗ノ徵アルモノハ販賣スルコトヲ得ス

第二十八條 他管下ヨリ買入レ販賣スル屠肉ハ其賣主ヲ證明シ所轄警察署又ハ分署ノ檢印ヲ受ク

ヘシ

第二十九條 屠肉ノ檢印ハ其肉片ヲ販賣シ終ルマテ之レヲ存シ置クヘシ

第三十條 肉樽ハ釣下ケ清潔ナル麻布又ハ金巾ノ類ヲ以テ之レヲ覆フヘシ

第三十一條 俎其他一切ノ器具ハ時々洗滌シ極メテ清潔ニスヘシ

第三十二條 肉樽置場ハ可成廣潤ニシテ空氣ノ流通ヲ自在ナラシムヘシ

第三十三條 肉燻置場ハ火焚場及暖爐等ヲ隔離スヘシ
第三十四條 警察官吏衛生官吏ハ臨時店舗ニ臨ミ賣肉ヲ檢査シ若シ不良又ハ腐敗ノ徴アルモノハ其販賣ヲ差止ムルコトアルヘシ

第三十五條 本則第三條第十一條第十三條第十四條第二十條第二十一條第二十七條第二十九條第三十條ニ違背シ又ハ第十六條第三十五條ノ命ニ從ハサルモノハ五拾錢以上壹圓五拾錢以下ノ科料ニ處ス

第三十六條 本則第七條第九條第十條第二十六條ニ違背シ又ハ第八條第十八條第十九條第二十三條第三十一條第三十二條第三十四條ニ違背シ督促ヲ受ケテ肯セサルモノハ拾錢以上壹圓以下ノ科料ニ處ス

(様式略之)

群馬縣訓令第六號 明治二十二年一月二十一日

郡役所

開業獸醫ニ於テ屠殺セントスル牛馬羊豚ヲ檢按シタルトキ衛生ニ害アリト認ムルニ於テハ之ヲ留置キ即時警察官吏ニ報告スヘキ様達示スヘシ

群馬縣訓令第四百六十四號 明治二十一年八月二十三日

郡役所

獸醫ニ於テ食料ニ供スル牛馬羊豚ヲ屠殺セントスルモノヨリ檢按ノ委託ヲ受ケタル時其手数料ハ左ノ金額ニ超過セサル様開業獸醫ニ達示スヘシ

一牛馬

金五拾錢以內

一羊豚

金貳拾錢以內

鑛泉場取締

群馬縣令第二十三號 明治二十一年四月五日

鑛泉場規則左之通相定ム

鑛泉場規則

第一條 鑛泉場トハ鑛泉取締規則ニ據リ許可ヲ得タルモノヲ云フ

第二條 鑛泉場ノ爲メ自ラ一區畫ヲナシタル地ハ其居住人中ヨリ互撰ヲ以テ取締役若干名ヲ設ケ其氏名ヲ縣廳ヘ届出ヘシ

但取締役ノ外相當ノ役員ヲ設ケルハ適宜タルヘシ

第三條 鑛泉場及ヒ其接近ノ地ニ於テ新タニ鑛泉ヲ發見セシトキハ直チニ縣廳ヘ届出其指揮ヲ受クヘシ

但原鑛泉ニ障害アリト認メタルトキハ之レヲ填埋セシムルコトアルヘシ

第四條 鑛泉場居住人ハ左ノ箇條ニ準據シ申合規約ヲ作り縣廳ノ認可ヲ受クヘシ

但規約中改正變更アルトキハ其時々縣廳ノ認可ヲ受クヘシ

一 鑛泉場一般清潔法實施ノ事殊ニ市街等ノ掃除ニ付テハ便宜其掃除受負人ヲ設ケテ之ヲ擔當セシムル事

一 飲料水及下水溝改良並其修繕ノ事

一 散歩場ヲ設ケ又ハ必要ノ場所ニ樹木ノ植付ヲ爲ス事

一 鑛泉ニ影響ヲ及ホスカ又ハ鑛泉場ノ風致ニ障害アル樹木ノ伐採若クハ堀取ヲ爲サル事
一 前記ノ外鑛泉場ニ必要ノ事項

第五條 毎年一月ヨリ十二月末日ニ至ル浴客數ヲ取調翌年一月十五日迄ニ縣廳へ上申スヘシ
● 群馬縣令第四十號 明治二十一年七月三日

明治十七年十一月甲第九十八號布達鑛泉取締規則左ノ通改正ス

鑛泉取締規則

- 第一條 鑛泉ヲ以テ營業セントスル者ハ郡役所ヲ經テ縣廳へ出願許可ヲ得ヘシ
- 第二條 鑛泉ヲ以テ浴用ニ供セントスル者及ヒ服用ノ爲メ採酌販賣セントスル者ハ左式ノ願書へ確實ナル定量分析表及効能書ヲ添へ縣廳へ差出スヘシ
但既ニ許可ノ鑛泉ハ分析表効能書ヲ添ユルニ及ハス其旨願書へ記入スヘシ
- 第三條 讓渡(双方連署)改姓名及廢業等ノ節ハ其旨速ニ届出ツヘシ
- 第四條 此規則中第一條ニ違背シタル者ハ五拾錢以上壹圓五拾錢以下ノ科料ニ處ス願書式

鑛泉浴營業(鑛泉販賣)願

何那何町何番地(字何々)ヨリ湧出スル鑛泉(氣温(攝氏)又ハ華氏)何度ノヲ以テ浴用營業(採酌)販賣仕度他ニ故障無之候間別紙何々書相添此段相願候也

何那何町村何番地(寄留)

年 月 日

何 之 誰 印

知 事 宛

前書之通相違無之候也

戸 長

何 之 誰 印

警 察 署

● 群馬縣訓令甲第五百號 明治二十一年五月十九日

「郡長ニ合議シ」自今鑛泉場ニハ漸次左ノ各項ヲ實行候様取許フヘシ

一 浴室並衣脱場ハ男女區界ヲ立テ且外部ヨリ見透サ、ル様構造セシムル事

「一 男女混浴セシメサル事

但十二歳未満ノ幼年ハ此限ニアラス」

一 浴泉ノ火焚場ハ煉化若クハ石壘或ハ粘土ヲ以テ築造シ煙筒及天井ハ漆喰又ハ金屬等不燃質物ヲ用フル事

一 浴客ヲ止宿セシムル營業者家屋ノ便所ハ臭氣ノ浴室及客室ニ及ハサル所ニ設ケ尿管窩ハ石敲陶器類ヲ用非其上部ノ地面ハ漆喰等ヲ以テ漏斗狀ニ塗固メ尿管ノ地中ニ滲透セサル様構造スヘキ事

墓 地 取 締

● 群馬縣令第三十三號 明治二十三年四月二十八日

明治十八年八月本縣甲第五十九號墓地及埋葬取締細則別冊ノ通改定ス

(別冊)

墓地及埋葬取締細則(廿九年縣令六十六號ニテ一三、六)
(一) (二) (三) (四) (五) (六) (七) (八) (九) (十) (十一) (十二) (十三) (十四) (十五) (十六) (十七) (十八) (十九) (二十) (二十一) (二十二) (二十三) (二十四) (二十五) (二十六) (二十七) (二十八) (二十九) (三十) (三十一) (三十二) (三十三) (三十四) (三十五) (三十六) (三十七) (三十八) (三十九) (四十) (四十一) (四十二) (四十三) (四十四) (四十五) (四十六) (四十七) (四十八) (四十九) (五十) (五十一) (五十二) (五十三) (五十四) (五十五) (五十六) (五十七) (五十八) (五十九) (六十) (六十一) (六十二) (六十三) (六十四) (六十五) (六十六) (六十七) (六十八) (六十九) (七十) (七十一) (七十二) (七十三) (七十四) (七十五) (七十六) (七十七) (七十八) (七十九) (八十) (八十一) (八十二) (八十三) (八十四) (八十五) (八十六) (八十七) (八十八) (八十九) (九十) (九十一) (九十二) (九十三) (九十四) (九十五) (九十六) (九十七) (九十八) (九十九) (一百)

第一條 墓地ハ從前許可シタルモノニ限ル若シ一市町村以上ノ共葬墓地ニシテ已ムヲ得サル事情アリテ之ヲ取廣メ又ハ新設セントスルトキハ願書ニ市町村長ノ證明ヲ受ケ該地地種段別並ニ四隣ノ地種形狀ヲ詳記シタル圖面ヲ添ヘ縣廳ニ出願スヘシ

墓地ヲ廢セントスルトキハ市町村長ノ證明ヲ受ケ縣廳ニ出願スヘシ

第二條 墓地ヲ新設スルハ國道縣道鐵道大川ニ沿ハス人家ヲ距ルコト六十間以上ニシテ土地高燥

飲用水ニ障碍ナキ場所ニ限ルヘシ

第三條 墓地及ヒ火葬場ハ種族宗旨ヲ別タス其市町村ニ本籍ヲ有シ又ハ寄留シ若クハ其市町村ニ

於テ死シタル者ハ之ニ葬ルコトヲ得何人ニテモ之ヲ拒ムコトヲ得ス其從前別段ノ習慣アルモノ

ハ此限ニアラス

但死刑ニ處セラレタルモノハ墓地ノ一隅ヲ區劃シテ其内ニ埋葬スヘシ

第四條 墓地ノ周圍ニハ樹木ヲ栽ニ又ハ牆塼ヲ設クヘシ

但從前設置ノ墓地ニシテ道路又ハ鐵道人家ニ沿ハサルモノハ此限ニアラス

第五條 墓地ノ内ニハ地盤ノ乾燥ヲ妨クヘキ樹木塼塼ヲ存スヘカラス其從來現存スルモノハ此限

ニアラス

第六條 火葬場ヲ取擴メ又ハ新設セントスルトキハ第一條ノ手續ニ依リ縣廳ニ出願スヘシ

火葬場ヲ廢シタルトキハ市町村長ノ證明ヲ受ケ十日内ニ縣廳ニ届出ヘシ

第七條 火葬場ハ國道縣道鐵道人家及ヒ人民輻輳ノ地ヲ距ル百二十間以上ノ地ヲ撰ミ火爐煙筒ヲ

準備ヘ臭煙ヲ防クノ裝置ヲ爲シ且周圍ニ牆塼ヲ置クヘシ

但山林原野ニ於テ臭煙ハ人家ニ達セス又ハ往來ノ目ニ觸レサル場所ハ火爐煙筒塼ヲ設クル

ニ及ハス

第八條 火葬ハ日出前日没後ニ於テ之レヲ行フヘシ

但傳染病死屍及人家遠隔ノ火葬場ニ於テハ此限ニアラス

第九條 凡ソ墻穴ノ深サ傳染病患者ノ死屍ハ八尺以上其他ハ六尺以上タルヘシ土地ニヨリ六尺ニ

至リ難キモノ及ヒ火葬ノ遺骨ヲ埋葬スルモノハ此限ニアラス(廿九年縣令四十四號ニテ改正)

第十條 墓地及ヒ火葬場ハ常ニ清潔ニ掃除シ且火葬ノ灰燼ハ一定ノ地ニ埋没スヘシ

第十一條 墓地火葬場ニハ管理者ヲ置キ其住所氏名年齢ヲ所轄警察署又ハ警察分署及ヒ市役所又

ハ町村役場ニ届ケ出ヘシ其異動アリタルトキ亦同シ

第十二條 死屍ヲ埋葬又ハ火葬セントスルモノハ左ノ書面ヲ添ヘ死亡地市役所又ハ町村役場ヘ届

出市町村長ノ認許證ヲ受ケ之ヲ管理者ニ渡スヘシ

一 醫師ノ治療ヲ受ケタル者ハ主治醫師ノ死亡届書

二 醫師ノ治療ヲ受クルノ猶豫ナクシテ死亡シタル者ハ醫師ノ檢按書

- 三 妊娠四ヶ月以上ノ死胎ニ係ルモノハ醫師若クハ産婆ノ死産證
- 四 變死ニ係ルモノハ検視官ノ檢印ヲ受ケタル立會醫師ノ檢按書
- 五 囚徒ノ死屍ハ司獄官ノ檢印ヲ受ケタル監獄醫ノ死亡證書ノ寫書
- 六 死刑ニ處セラレタル者ノ死屍ハ司獄官ノ證明書
- 第十三條 改葬セントスルモノハ左ノ各項ヲ具シ原埋葬地所轄ノ警察署又ハ警察分署ニ願出許可證ヲ受ケ之ヲ原埋葬地ノ管理者ニ示シテ後改葬地管理者ニ渡スヘシ
 - 一 改葬スヘキ死者ノ死亡當時ノ氏名年齢職業住所
 - 二 死亡ノ年月日及ヒ病名又ハ因由
 - 三 埋葬シアル墓地名及ヒ改葬セントスル墓地名
 - 四 改葬スヘキ事由詳細
 - 五 血統ノ最近親族二名以上ノ連署
- 第十四條 變死刑死ニシテ相當官吏ノ許可ヲ得タルモノ及ヒ傳染病死者死産見ハ二十四時間ヲ經過セスト雖モ埋火葬スルコトヲ得
- 第十五條 誌銘傳贊等ヲ刻スル碑表ヲ建設シ若クハ移轉セントスル者ハ左ノ各項ヲ具シ(移轉ノ場合ハ第一項第二項ハ具スルニ及ハス)建設地警察署又ハ警察分署ニ願出允許ヲ受クヘシ但死者ノ氏名族籍官位勳爵法號及生死ノ年月日建立者ノ氏名ヲ記スルニ止ル墓標ハ願出ニ及ハス

- 一 碑表ニ記スヘキ人ノ氏名族籍及ヒ履歷ノ詳細
- 二 碑文ノ寫
- 三 碑表建設地並碑石ノ圖面
- 四 碑表建設地ニシテ他人ノ所有ニ係ルトキハ其ノ地主ノ承諾書(廿三年縣令四十號ニテ八字削除)碑表建設地ニシテ官有又ハ社寺境内若クハ準境内ニ係ルトキハ更ニ相當手續ヲ經テ其ノ使用又ハ貸下ノ許可ヲ受クルニアラサレハ建設スルコトヲ得ス
- 第十六條 墓碑ハ擅ニ之ヲ移轉シ又ハ除却スルヲ得ス
- 第十七條 管理者ハ墓地ノ明細圖面及ヒ墓籍ヲ調製シ其墓籍ニハ死者ノ族籍氏名法號及ヒ死亡ノ年月日等ヲ詳記スヘシ
- 第十八條 管理者ニ於テ認許證又ハ許可證ヲ受ケタルトキハ其證書ノ紙尾ニ施行ノ年月日時ヲ記入シ署名捺印シテ編纂保存スヘシ
- 第十九條 管理者ハ墓地圖面ト墓籍及ヒ埋葬證書ノ對照ニ便スル爲メ各符號ヲ付シ置クヘシ
- 第二十條 従前許可シタル墓地火葬場ニシテ衛生上有害ト認ムルモノハ改良ヲ命シ又ハ埋火葬ヲ禁スルコトアルヘシ
- 第二十一條 規則第五條第七條細則第一條第三條第六條第一項第十五條末項ニ違背シタルモノハ五拾錢以上壹圓五拾錢以下ノ科料ニ處ス
- 規則第三條第六條細則第六條二項第十三條第十六條ニ違背シタルモノ又ハ細則第七條ニ違背シ

テ督促ヲ受クルモ尙火爐煙筒塀ヲ設ケサルモノ又ハ細則第二十條ニ違背シ埋火葬ヲ禁シタル場所ニ埋火葬シタル者ハ貳拾錢以上壹圓貳拾五錢以下ノ科料ニ處ス細則第四條第五條第十七條第十八條第十九條ニ違背シ督促ヲ受ケテ命ニ從ハサルモノ又ハ細則第八條第九條ニ違背シ制止ヲ肯セサルモノ又ハ細則第十條ニ違ヒ制止又ハ督促ヲ受クルモ掃除ヲ爲サス若クハ火葬ノ灰燼ヲ一定ノ場所外ニ埋没シタルモノ又ハ細則第二十條ニ違ヒ督促ヲ受クルモ改良ヲナサルモノハ拾錢以上壹圓以下ノ科料ニ處ス

規則第四條細則第十二條ニ違背シタルモノハ刑法第四百二十七條第十項官許ノ墓地外ニ埋火葬シタルモノハ刑法第四百二十六條第十三項ノ刑ニ科セラルヘシ

◎群馬縣訓令甲第百九號 明治二十三年五月二十七日

郡役所 警察署 警察分署 監獄 町村役場

墓地及埋葬取締細則執行手續別冊ノ通定ム

第一條 市役所又ハ町村役場ニ於テ細則第一條第一項第六條第一項ノ願出ヲ受ケタルトキハ書類(願書圖面及廿一年縣令第十九號地種目取調表三題四鄰明細實測圖二葉)ニ就キ細則第一條第一項第二條第七條ニ抵觸ノ有無明記アルヤ否ヲ調査シ明記ナキモノハ記載セシメ土地臺帳字地番地目反別地價地租等ヲ土地臺帳及地圖ニ照合シ若シ相違アルトキハ訂正セシメ捺印ノ上證明スヘシ

細則第一條第二項ノ願出又ハ第六條第二項ノ届出ヲ受ケタルトキト雖モ亦本文ニ準シ取扱フヘシ(廿九年訓令甲七十七號六號ニテ追加改正)

第二條 郡役所ニ於テ前條ノ願出ヲ受ケタルトキハ審査ヲ遂ケ意見書ヲ添ヘ所轄警察署又ハ警察分署ニ移牒スヘシ

第三條 警察署又ハ警察分署ニ於テ前條ノ移牒ヲ受ケタルトキハ署長自ラ實地ヲ踏査シ願書ト相違ノ廉アラハ訂正セシメ細則第二條第七條ニ抵觸ノ有無ヲ詳記シタル踏査書及許否ニ關シ必要ノ事實(墓地新設又ハ取廣メハ止ムヲ得サル事情アルヤ否等)ヲ詳記シタル意見書ヲ添ヘ縣廳ニ進達スヘシ

第四條 細則第四條第七條ノ樹木及塀塙ハ見苦シカラサル裝置ニ依リ顯ワニ外部ヨリ洞見シ得サル様設置セシムヘシ

第五條 細則第十二條ニ依リ葬主ヨリ埋火葬認許證ノ下附ヲ請フモノアルトキハ町村長ハ書類ヲ檢按シ事實相違ナシト確認シタルトキハ附錄第一號式ノ認許證ヲ下附シ其疑アルトキハ速ニ警察官吏ニ通報スヘシ

第六條 變死ニ係ルモノハ検視官(檢事豫審判事ニ於テ檢証シタル時ハ立會警察官)ニ於テ立會醫師ニ檢按書ヲ四徒ノ病死ニ係ルモノハ司獄官ニ於テ監獄醫ニ死亡證書ヲ差出サシメ其紙尾ニ檢閱ノ年月日及官氏名ヲ記載捺印シテ葬主ニ下附スヘシ

第七條 監獄ニ於テ刑死者ノ遺骸ヲ其親族若クハ故舊ニ下附スルトキハ刑死者タルノ證明書ヲ與フヘシ

第八條 細則第十三條ノ願出ニシテ虎列刺、痘瘡、發疹室扶斯ノ死屍ニ係ルトキハ傳染病豫防規

則ニ依リ如何ナル事情アルモノト雖モ許可スヘカラス
第九條 警察署又ハ警察分署ニ於テ細則第十五條ノ願出ヲ受ケタルトキハ實地署長自ラ精査ノ上
許否スヘシ

但シ允許シタル場合ニ於テ其ノ建設地ノ官有又ハ社寺境内若クハ準境内ニ係ルトキハ同條末
項ノ注意ヲ與フヘシ(廿九年訓令中七
十六號ニテ改正)

第十條 従前許可シタル墓地火葬場ニシテ細則第二十條ニ依リ改良ヲ命シ又ハ埋火葬ヲ禁スルノ
必要アリト認ムルトキハ其事由ヲ詳記シ郡長警察署長又ハ警察分署長連署シテ知事ニ具狀スヘ
シ

第十一條 警察署警察分署ニハ附録第二號式ノ墓地火葬場原簿ヲ備置キ増減變更アルコトニ詳細
記入スヘシ

附録第一號式 用紙半紙野

埋 葬 認 許 證

縣郡町(村)番地(寄留ノ者ハ
寄留地トモ)

身分

氏

名

年 齡

右明治何年何月何日何時(病)(變)(刑)(胎)死タルコトヲ確認シ葬主縣郡町(村)番地何某へ此埋

(火)葬認許證書ヲ與フルモノ也

縣 郡 町 (村)

町(村) 何

某

職印

附録第二號式

何郡町墓地及火葬場

種 別	位 置		段 別	土 地 所 有 主		管 理 者 氏 名
	大字	小字		大字	番地	
何町共葬墓地	何々	何々	何反何畝歩	何々	何番	何町(村)又 何ノ誰
大(小)字何々共 葬墓地	同	同	同	同	同	何々共有又 何ノ誰
何ノ誰外何人共 葬墓地	同	同	同	記名者一 人ヲ掲ク	同	誰某外何人 又ハ誰某
一個人埋葬墓地	同	同	同	何々	同	何ノ誰
舊何々寺院墓地	同	同	同	同	同	誰某外何人 又ハ誰某
火葬場モ前例ニ 倣フ	同	同	同	同	同	同

說 明

一何町村共葬墓地ハ新町村現在住人ハ誰彼ヲ問ハス共葬シ得ルヲ云フ

一大小字共葬墓地トハ大字ナリ小字ナリ其字中ノ現住民ハ誰彼ヲ問ハス共葬シ得ルヲ云フ

一誰外何人共葬墓地トハ大字ニ在ルト小字ニ在ルトヲ問ハス共葬シ得ヘキ人家ニ限リアルモノヲ云フ

一舊何々寺院墓地トハ或ル一家ノ所有ニシテ他家ノモノハ埋葬シ得サルモノヲ云フ

一舊何々寺院墓地トハ舊寺院地ニシテ現今ハ檀家共有ニ屬スルモノヲ云フ

◎群馬縣令第六十二號 明治二十二年九月二十七日

東群馬郡前橋町及西群馬郡高崎町墓地ノ内別紙ニ記載シタル箇所ハ火葬シタル遺骨ノ外埋葬ヲ禁止ス

夫婦ノ一人ニ已埋葬シアル者ハ其配偶者ニ限リ同墓地ニ埋葬スルコトヲ得

本縣令ハ本年十一月一日ヨリ高崎町ニ施行シ明治二十三年一月一日ヨリ前橋町ニ施行ス(廿九年縣令五十八號ニテ削除追加)

埋葬禁止ノ箇所

郡町名	大字及地番	坪數	郡町名	大字及地番	坪數
東群馬郡前橋町	立川町第十番	六百五十四坪八合八勺	同	同第十七番	四百八十五坪六合八勺
同	同第五番	五百五十八坪五合	同	同第七番	十八坪二合七勺
同	片貝町第八番	百七十五坪六勺	同	榎町第五十三番	百九十九坪一勺

同	同第廿一番	四百三十五坪七勺	同	堂町第二十五番	三百十八坪二合三勺
同	立川町第五十九番	二百九十八坪八合四勺	同	神明町甲第七十番	千六百八十五坪三合九勺
同	同丙第七十番	百四十二坪四勺	同	堀川町甲第三十七番	二百二十二坪六合三勺
同	同乙第三十番	百四坪八合九勺	同	芳町第五十五番	七百四十六坪四合二勺 <small>(以下前橋ノ分追加)</small>
同	同六十六番	三百七十四坪七合	同	同六十九番	六百五十五坪七合
同	向町甲百十七番	三百八十八坪七合一勺	同	同乙百十八番	百四十四坪八合五勺
西群馬郡高崎町	通町第八十番	六百六十九坪二勺	同	同第九十七番	百四十四坪八合五勺
同	元紺屋町第二十三番	二百七十七坪八合四勺	同	同第九十五番	五百三十七坪五合五勺
同	羅漢町第七十三番	四百六十五坪九合二勺	同	同第九十八番	百二十坪四合八勺
同	同第九十三番	三百十九坪七合	同	同第五十二番	六百坪八合五勺
同	嘉多町第五十二番	五十七坪四合二勺	同	同第五十一番	三百三十坪三合九勺
同	下横町第十一番	四百四十二坪七合九勺	同	中紺屋町第十八番	三百六十坪四合六勺
同	下横町第七番	四百二十三坪一合二勺	同	新町第十八番	五百四十七坪四合五勺
同	同甲三十一番	百五十坪五合	同	赤坂町七十八番	百七十坪五合 <small>(以下追加)</small>

◎群馬縣令第五十七號

明治三十一年十二月二十八日

左ノ墓地ハ火葬シタル遺骨ノ外埋葬ヲ禁止ス
碓氷郡安中町大字中宿村字在家六百八十一番
一蓮華寺墓地反別七畝二十九步

變死中毒誤藥

●群馬縣甲第八十九號 明治十二年七月四日

凡ソ變死傷人有之候節ハ原態ヲ存置シテ檢視官ノ臨場ヲ俟ツハ勿論ニ候得共夫レカ爲メ多少ノ時
刻ヲ移シ終ニ救活スヘキ機會ヲ失ヒ候テハ實ニ不相濟儀ニ付右等ノ者有之候時ハ無猶豫一而醫師
ヲ延キ相當ノ手當相施シ一而訴出ツル儀ト可心得此旨布達候事

但日數ヲ經タル死屍ヲ發見シタル如キハ必スシモ本文ノ手續ヲ須ユルニ及ハス

●群馬縣甲第四十五號 明治十九年四月二十一日

明治十六年十月甲第六十五號布達左ノ通改定ス

變死人又ハ重傷人ヲ發見シタル者ハ其地戶長役場ニ急報シ同時ニ所轄警察署又ハ分署ニ口述ヲ以
テ届出ヘシ

但最寄警察署分署又ハ巡查派出所若クハ巡行巡查ニ届出ルモ妨ケナシ
右布達候事

●群馬縣甲第四十三號 明治十五年五月二十九日

飲食物ノ中毒及藥物誤用等ヨリ死ヲ致ス者届出方之儀「明治十二年五月本縣甲第六十四號同十三

年十月甲第六號同甲第八號ヲ以テ布達候處」向後飲食物ノ中毒及ヒ藥物誤用等ヨリ死ヲ致シ
又ハ劇烈ノ症狀ヲ發スル者アラハ其族籍住所姓名年齢及ヒ誤用ノ顛末患者ノ容體共詳細取調毒物
相添所轄郡役所ヲ經テ縣廳ヘ可届出且最寄警察署或ハ分署ヘモ届出檢視ヲ可受儀ト可心得此旨布
達候事

●群馬縣戊第五十二號 明治十三年十月一日

警察本署 各警察署

飲食物ノ中毒及藥劑ノ誤用等ニ依リ死ヲ致ス者檢死ノ義令般「甲第六號」ノ通布達及ヒ候就テハ
自今右等ノ死者届出候ハ、速カニ出張左ノ手續ヲ以テ檢視致シ其ノ段可届出此旨相達候事(百六號
年甲四十三號
ニ規定セラレ)

中毒及誤藥死屍檢視手續

- 第一 中毒誤藥ノ死屍ヲ檢視スルハ其毒物ヲ用ヒシ原因年月日及死シタル事由
- 第二 身體ノ變色吐下痢物吐血ノ度數及多少
- 第三 檢視ノ節ハ父母兄弟姉妹夫妻、伯叔父母子等可成親屬ノ近キ者二名以上(親屬二名以上アラサレ
ハ隣保人ノ内一名ヲ加
フ)及醫員ヲ會同セシム
- 第四 會同醫員ハ左ノ諸項ヲ鑑定書ニ明載スルヲ必要トス
 - 一 毒物ノ品質其ノ死ニ堪ユヘキカ否
 - 一 致命ノ原因
 - 一 消毒ヲ用ヒシ者ハ其消毒ノ法
- 第五 解剖セサレハ致命ノ原因判別シ難キモノハ其趣長官ヘ飛報シ長官允許アルニアラサレハ解

剖スルコトヲ得ス

但解剖ハ其ノ必要ノ部分ニ止マリ他所ニ及ボスコトヲ聽サス(明治十年布告第二十二號ニ抵觸ト認ム)

●群馬縣無號 明治十四年一月四日

毒ウツキ(方記) 昨明治十三年六月本縣衛生報
毒ウツキ(マシ) 告第二十四回ニ圖ヲ以テ示ス

毒ウツキ樹ノ儀ハ其實ノ醜麗ナルヲ以テ兒童喜テ之ヲ玩弄シ遂ニ誤テ之ヲ食スルヨリ中毒ニ罹リ非命ノ死ヲ遂ルモノ屢有之甚タ恐ル可キナリ又檜樹ハ古來佛前及ヒ墓所等ニ供スルモノニシテ衆人其毒樹ナルコトヲ知ラス然ルニ是レ亦甚可恐有毒物ニシテ既ニ近頃或ル一二ノ地方ニ於テ該實ヲ食シ又該根ノ煎汁ヲ飲ミ之レカ爲メニ死ニ陥リシモノアリ今之レ等ノ危害ヲ防止ヒンニハ該樹ヲシテ盡ク絶滅セシムルニ在リ然レトモ山野等ニ至テハ一概ニ之ヲ盡スコト固ヨリ容易ナラス故ニ寺院並ニ墓地田圃其他人家ノ近傍ニ在ル者ハ悉皆之ヲ堀取リ或ハ伐採ノ上燒盡候様可致此旨諭達候事

●群馬縣告諭第四號 明治二十五年六月十六日

本月中不熟ノ梅實ヲ食シ之レカ爲メニ中毒シタルモノ四名(内死亡三名)ニシテ悉ク小兒ナリ元來青梅中ニハ青酸ト云フ毒物ヲ含ムコトアルニ付小兒ヲシテ之ヲ食セシメサル様父兄ニ於テ篤シ注意スヘシ

●群馬縣告諭第六號 明治二十一年十月六日

松茸椎茸初茸濕茸此中ニモ有毒ノ種類アル故注意スヘシ等ノ如キ是迄衆人ノ用ヒ來リ害ナキモノハ素ヨリ宜シト雖モ間々中リ易キ又ハ名種ノ詳カナラサル菌茸ハ狼リニ食セサル様屢々告諭及ヒ置キ候處去月二十三日縣下山田郡下久方村ニ於テ十名同二十四日同所ニテ七名同二十八日碓氷郡碓氷峠ニテ九名皆山林中ヨリ採リ來リシ菌茸俗ニ二本シメテト云フモノニ似タルアリヲ食セシニ一同其毒ニ中リ苦悶ヲ發シ吐瀉數回ナリシモ幸ヒ性命ニハ恙ナク孰レモ追々全治ニ趣ケリ此頃ハ菌茸發生ノ時季ニハ深ク注意シテ貴重ノ身體ヲ害スコト勿レ

●群馬縣告諭第七號 明治二十七年九月二十日

菌類發生ノ時季ニ際シ誤ツテ有毒ノ菌ヲ食シ爲メニ中毒シ甚タシキハ貴重ナル生命ヲ損スルモノアルニ付前年來屢告諭及ヒ置タルモ既ニ本月十六日多胡郡入野村大字黒熊村ニテ方言布茸、チヨコ茸、チヨボウ(一名粟茸)ト名ツクル菌ヲ混食シタルモノ九名中毒ニ罹リ幸ニ醫療ニ依リ死ヲ免ガレタルモ時下菌類發生ニ適スルノ候ナレハ是ヲ食スルモノ深ク注意スヘシ

傳染病豫防

避病院隔離病舎

●群馬縣令第十三號 明治三十三年二月二十三日

明治二十八年五月群馬縣令第二十九號避病院及患者隔離所設備規則左ノ通改正ス

傳染病院隔離病舎設備規則

- 第一條 傳染病院、隔離病舎ノ位置ハ風水ノ害ナク可成高燥ノ地ヲ選ミ患者運搬ノ便利ヲ圖リ道路險惡交通不便ノ地ヲ避クヘシ
- 第二條 傳染病院、隔離病舎ヲ新築改築若クハ増築セントスルトキハ市ハ直ニ町村ハ所轄郡役所ヲ經テ縣廳ニ報告スヘシ
- 第三條 市ニ於テ設置スヘキ傳染病院、隔離病舎ノ個數及位置ハ知事其市ノ意見ヲ聞キ之ヲ定メ町村ニ於テ設置スヘキ傳染病院、隔離病舎ノ個數及位置ハ郡長其町村ノ意見ヲ聞キ之ヲ定メ知事ノ認可ヲ受クヘシ
- 第四條 傳染病院ハ左ノ建物ヲ設クヘシ
 - 一 重症患者室(一棟十人以上ヲ容ル、ニ足ルヘキモノ)
 - 二 輕症患者室(同上) 若干棟
 - 三 快復期患者室(同上) 一棟
 - 四 快復期患者室ニハ浴室厠ヲ設クヘシ
 - 五 醫員其他事務員詰所調劑所看護人室炊場等(人員十三人以上ヲ容ル、ニ足ルヘキモノ)一棟但浴室厠ヲ設クヘシ
 - 六 消毒所(洗濯所ノ附)屍室汚物置場及燒却所物置各一ヶ所
- 第五條 傳染病院ハ町村ノ狀況ニヨリ患者二十人以上ヲ容ル、ニ足ルヘキ同一建物中ニ重症患者

室輕症患者室及快復患者室ヲ區別シテ設クルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ醫員事務員看護人室炊場等ハ人員七人以上ヲ容ル、ニ足ルヘキモノ一棟ヲ設クヘシ

第六條 隔離病舎ハ左ノ建物ヲ設クヘシ

- 一 患者室(患者十人以上ヲ容ル、ニ足ルヘキモノ) 一棟
- 二 醫員及事務員室看護人室炊場(人員六名以上ヲ容ル、ニ足ルヘキモノ)浴室厠アル建物一棟但浴室厠ハ患者健康者ヲ區別スヘシ
- 三 消毒所(洗濯所ノ附屬ヲ要ス)屍室汚物置場燒却所物置 各一ヶ所

第七條 傳染病院及隔離病舎ノ構造ハ左ノ各項ニ依ルヘシ

- 一 構造ハ平家ニシテ病室ノ廣サハ一人ニ付凡ソ一坪半ノ割合ヲ以テ造ルコト
- 二 病舎ノ周圍ハ眞壁ニシテ外部ハ總テ厚サ六分板ヲ以テ葺板張トナシ内部ハ總テ厚サ四分板ヲ以テ堅嵌目板張トスルコト
但外部ハ白漆喰ヲ以テ塗リタルモノハ六尺ノ腰葺板張トナスコトヲ得
- 三 床板ハ厚サ一寸板ヲ以テ實矧張リ長繼手ハ總テ一枚毎ニ乱繼張リトスルコト
- 四 消毒所ハ床ヲ漆喰敷周圍ヲ板張トシ避病院管理規程第十二條ノ甲部乙部ノ境界ニ設ク消已毒未消毒ノ區別ヲナスコト
- 五 屍室及浴室ハ床ヲ漆喰敷トナスコト

但屍室ハ人目ノ觸レサル場所ニ設クルコト

六 廁ハ滲透セサル甌ヲ伏セ漆喰敷ヲ以テ其上部周邊ヲ漏斗狀トナスコト

七 病舎敷地ノ周圍及甲部乙部ノ境界ニハ柵欄ヲ設ケ飲料水ハ乙部ヨリ甲部ニ導管ヲ設ケ一定ノ場所ニ導クコト

八 甲部ニハ洗濯用ノ井戸ヲ設ケ乙部ニハ飲料用ノ井戸ヲ設クルコト
但シ堅牢ナル井戸側ヲ伏シ飲料水ニハ井戸蓋及周圍ニ柵欄ヲ設ケヘシ

九 浴場庖厨洗濯所等ノ排水ハ一定ノ汚水溜ニ導クコト
但排水ノ徑路及汚水溜ハ汚水滲透ヲ防クニ足ルヘキ物質ヲ以テ之ヲ造リ飲料水ヲ距ルコト五間以上ノコト

十 病室ノ床下ハ可成漆喰敷トシ多少ノ傾斜ヲ付シ汚水ノ流下ニ便ニシ前項ノ汚水溜ニ導ク施設ヲナスコト

第八條 傳染病院、隔離病舎ニハ左ノ割合ヲ以テ係員ヲ置クヘシ
一 醫 員 患者二十人以内ニ付 一人 一 調劑掛 患者五十人以内ニ付 一人
一 看護人 患者五人以内ニ付 一人 一 事務員 若干
一 備 夫 若干

但町村ニ於テハ其狀況ニヨリ別ニ調劑掛ヲ置カス醫員ニ於テ之ヲ兼スルコトヲ得

第九條 傳染病院、隔離病舎ニハ常ニ消毒器具藥品ヲ設備スヘシ

◎群馬縣訓令第十四號 明治三十三年二月二十二日 郡役所 市役所 町村役場
傳染病院及隔離病舎設備細則左ノ通定ム

傳染病院及隔離病舎設備細則

第一條 明治三十三年二月群馬縣令第十三號傳染病院及隔離病舎設備規則第二條ニ依リ報告ヲナシヘキ場合ハ左ノ事項ヲ具スヘシ

一 病院病舎ノ實測圖(方位、隣地ノ地目及狀況ヲ記載スヘシ)

二 建築スヘキ病院、病舎ト其敷地トノ關係ヲ示シタル縮尺二百分ノ一ノ平面圖
但圖面ニハ各部ノ名稱(病室、醫員室、調劑室、看護婦室、事務室、應接所、小使室、炊事場、出入口、昇降口、窓、便所、浴室等)及左ノ各項ヲ記載スヘシ

- 敷地坪數
- 建物坪數
- 各部室ノ坪數(病室一室ニ收容スヘキ患者數)
- 消毒所ノ坪數
- 屍室ノ坪數
- 但増築ニ係ル圖面ハ從來ノ分ヲ墨書シ増築ノ分ヲ朱書スヘシ
- 三 建築スヘキ病院病舎設計說明
- 建築ノ種類平家建瓦葺若クハ板葺
- 幾 棟

天井及床下ノ裝置及其高サ
 縁側及廊下ノ幅
 浴室、便所及屍室ノ構造
 消毒所ノ裝置
 有毒部無毒部ノ區劃
 窓及出入口ノ幅
 飲料水ノ導引方法
 屋外樹木ノ配置

四 建築費ノ豫算額

第二條 縣廳ニ於テ前條ノ設計ヲ調査シ不完全又ハ不都合ト認ムルトキハ其設計ヲ變更セシムル
 エトアルヘシ

第三條 工事落成シタルトキハ建築ニ要シタル實費額ヲ具シ開申スヘシ

第四條 病院病舎ニ於テ常ニ設備スヘキ消毒器具藥品ハ左ノ如シ
 但器具ハ患者用健康者用ヲ區別スヘシ

熱瀛消毒器	檢溫器及釜	傳染病院	隔離病舎
擔架	籠付一切	二個以上	一個以上
		五個以上	二個以上

金盥、木盥、手桶、如露、 便器、刷子、帚、柄杓	十個以上	五十個以上	五個以上
風呂桶、脚湯盥	三個以上	三十個以上	二個以上
消毒草履	二十枚以上	十枚以上	二十枚以上
上草履	三十足以上	二十足以上	二十足以上
一ソトル入 硝子製液量器	三個以上	二個以上	二個以上
消毒藥			
石炭酸	十磅以上	五磅以上	五磅以上
生石灰	十罐以上	五罐以上	五罐以上
鹽酸	一磅以上	半磅以上	半磅以上

●群馬縣訓令甲第七十七號 明治二十九年七月十日

郡役所 市役所 警察署 警察分署 町村役場

避病院及患者隔離所管理規程左ノ通相定ム

避病院及患者隔離所管理規程

第一條 避病院及患者隔離所ニ於テハ醫員中ノ一人ヲ以テ醫長ト爲スヘシ

第二條 醫長ハ院内ノ醫務及衛生事務ヲ掌理シ醫員以下ヲ監督シ毎日一回以上回診シ治療ノ方法
 并ニ看護ノ方法ヲ醫員及看護人ニ指示スヘシ

第三條 醫員ハ醫長ノ指揮ヲ受ケ治療其他患者ニ關スル事務ヲ擔當スヘシ

第四條 調劑掛ハ醫長ノ指揮ヲ受ケ調劑ニ關スル事務ヲ擔當スヘシ

第五條 看護人ハ醫長及醫員ノ指揮ヲ受ケ懇切ニ患者ノ看護ヲ爲スヘシ

第六條 醫員以下ノ諸員ハ必ス宿直スヘシ

但患者ノ多寡及病況ニ依リ交替宿直スルモ妨ケナシ

第七條 看病人ハ醫長又ハ醫員ノ指揮ヲ受ケ懇切ニ患者ノ看護ヲナスヘシ

第八條 看病人ハ構内ニ宿泊シ交替ヲ以テ通宵看護ニ從事スヘシ

第九條 看病人ニシテ調劑所及ヒ附所等ニ往復スル者ハ豫カシメ之ヲ定メ置キ其他ハ猥リニ出入セシムヘカラス

第十條 患者ニ附添看護ヲ望ム者アルトキハ妨ケナキ限リハ之ヲ許スコトヲ得

但醫長以下ノ指揮ヲ遵守セシメ且ツ猥リニ外出ヲ爲サシムヘカラス

第十一條 消毒ニ從事セシムル爲メ豫カシメ其擔當者若干名ヲ定メ置クヘシ

第十二條 消毒ヲ便利ナラシムル爲メ構内ヲ左ノ二部ニ大別ス

一 甲 部

病室、看病人室、消毒夫室、患者浴室、屍室、汚物置場、並燒棄場ノ全部、及消毒室ノ一部

一 乙 部

事務室、醫員室、藥劑室、應接所、健康者浴室、附所、小使室ノ全部及消毒室ノ一部

第十三條 甲部ニ入ル者ハ必ス消毒衣ヲ着シ乙部ニ出ツルトキ其分界ニ於テ之ヲ脱シ手足ニ充分消毒ヲ施スヘシ若シ消毒衣ヲ着セザルトキハ其ノ衣類ニ消毒ヲナスヘシ

第十四條 消毒衣ハ二週二回以上消毒ノ上之ヲ洗濯シ若シ患者ノ排泄物ニ觸レタルトキハ其ノ都度消毒シ患者ヲ護送セシ人夫及運搬器具ハ十分消毒ヲナスヘシ

第十五條 病室其他ニ於テ患者又ハ其被服寢具器具等ニ觸接シタルトキハ速ニ手足其他觸接シタル部分ヲ消毒スヘシ

第十六條 飲料水及飲食物ハ必ス煮沸シタルモノヲ用ユヘシ

第十七條 醫長ノ許可ナクシテ他ヨリ飲食物ヲ運入ル、ヲ禁スヘシ

第十八條 患者用ノ飲食器具ハ陶器ヲ用非使用ノ都度必ス之ヲ煮沸シ置クヘシ

但附添人ノ用ユル飲食器具モ之ニ準シ毎回使用ノ前一旦煮沸スルヲ要ス

第十九條 患者ニ供シタル飲食物ノ殘餘ハ直チニ消毒ノ上一定ノ場所ニ棄却スヘシ

第二十條 患者ノ排泄物及其汚物ハ必ス一定ノ容器ニ受ケ嚴ニ消毒ヲナスヘシ

第二十一條 患者ヲ恢復期室ニ移ストキハ相當ノ消毒ヲナシ全癒退院ノ際ハ鼻流水又ハ石炭酸水ヲ以テ全身ヲ拭淨シテ入浴セシメ石鹼ヲ以テ身体ヲ清洗シ然ル後衣服ヲ更へ退院セシムヘシ

第二十二條 患者ノ被服又ハ寢具器具其他病毒汚染ノ疑アルモノハ消毒法ヲ行ヒタル後ニアラサ

レハ構外ニ持出スコトヲ禁スヘシ

病毒汚染ノ疑アルモノハ消毒法ヲ行ヒタル後ニアラサレハ構外ニ持出スコトヲ禁スヘシ

第二十三條 患者ノ寝具衣類其他ノ布片ヲ消毒スルニハ蒸溜消毒又ハ煮沸消毒ヲ行フヘシ
 但同法ヲ行ヒ能ハサルトキハ石炭酸水ニ浸漬スヘシ

第二十四條 革製物品ハ石炭酸水ヲ以テ拭淨ス

第二十五條 患者ニ觸接シタルモノニシテ蒸溜又ハ藥力ヲ以テ消毒シ能ハサルモノハ少ナクモ六日間日光ニ直射シ乾燥セル場所ニ曝スヘシ

第二十六條 患者ノ排泄物ニ觸接セシ物品ニシテ價格ノ低廉ナルモノハ成ルヘク之ヲ燒却スヘシ

第二十七條 床板側壁及家具中木製及金屬製ノ部分其他之ト類似ノ物品ハ石炭酸水ヲ濕シタル布片ヲ以テ拭淨スヘシ

但床板側壁等ヲ消毒スルニハ石灰乳ヲ用ユルモ可ナリ此場合ニ於テハ少ナクモ二時間放置シタル後洗滌スヘシ病室ハ消毒ヲ終リタル後成ルヘク二十四時間放置シ空氣ヲ流通セシムヘシ

第二十八條 死者アリタルトキハ直チニ石炭酸水ニ浸シタル布片ヲ以テ全身ヲ被包シ速ニ之ヲ屍室ニ移スヘシ火葬又ハ埋葬スル爲メ死体ヲ他所ニ移ストキハ棺中ニ生石灰ヲ入レ其上ニ死體ヲ置キ更ニ該藥ヲ撒布シテ之ヲ密閉シ其運搬ハ日出前又ハ日没後ニ爲スヘシ

第二十九條 避病院ニハ寢具其他必要ナル器具藥品及掛員外來者ニ使用セシムル爲メ消毒衣ヲ備ヘ置キ寢臺ヲ用ヒサル場合ニハ疊ノ上ニ油紙其他汚物浸透ノ慮ナキモノヲ敷クヘシ

豫防檢疫

●群馬縣訓令甲第九十二號 明治三十年八月十一日

郡役所 市役所 警察署 警察分署 町村役場

傳染病豫防手續左之通り相定ム

傳染病豫防手續

第一章 通規

第一條 傳染病豫防法施行規則第二條ニ依リ郡市役所ヨリ縣廳ヘ報告スル傳染病患者ハ別紙様式ニ依リ其日中ニ届出タル分ヲ取纏メ記入ノ上速ニ縣廳ニ送致スヘシ

同一患者ニシテ發病轉歸ノ届出ヲ同時ニ受ケタルトキハ患者報告書轉歸報告書ヲ共ニ送致スヘシ(廿三年訓令甲第十五號ニテ第一條改正)

第二條 市町村長又ハ豫防委員ハ患者ノ轉歸ニ至ル間時々其所在ニ臨ミ消毒方法清潔方法ヲ施行セシメ警察官吏ハ時々之ヲ巡視スヘシ

第三條 豫防消毒ノ施行上警察官署所轄ニ署以上ニ亘リタルトキハ先キニ患者又ハ其排泄物等ヲ發見シタル署ヨリ關係ノ署ニ急報スヘシ通知ヲ受ケタル署ニ於テハ直チニ市町村役場ニ通報スヘシ

但便宜其地駐在巡查ヨリ關係地ノ駐在巡查又ハ市町村吏員ニ急報セシメタル後本文ノ取扱ヲナスコトヲ得

第四條 左ノ場合ニ於テハ所轄郡市長警察署長又ハ警察分署長ハ事實ヲ具シ稟申スヘシ

一 傳染病豫防法第一條列記以外ノ傳染病流行ノ兆アリテ豫防法施行ノ必要ヲ認ムルトキ

二 同法第十九條列記ノ事項第一項第八項ヲ除クノ實施ヲ必要ト認ムルトキ
三 同法第二十七條ノ實施ヲ必要ト認ムルトキ

第二章 患者及死体其他ノ處置

第五條 傳染病患者ハ左ノ各項ニ依リ速ニ所置スヘシ(廿三年訓令甲第
十五號ニテ改正)

一 赤痢病、痘瘡病、發疹室扶斯病ハ直チニ病院病舎ニ收容スルコト

一 患者ノ居宅ト隔離シタル家屋アルモノ
一 索養アル看護婦アルモノ

一 主治醫アルモノ

一 一家屋ノ構造、消毒器具ノ具備大略隔離病舎ニ均シキモノ

一 飲料水ノ専用シ得ルモノ

但人家稠密ニシテ飲料水下水等隣保ニ關係シ又ハ交通遮斷ノ監督行届キ難シト認ムルモノ
若クハ豫防上必要ト認ムルトキハ假令本條ノ各項ヲ具備スルモノト雖モ病院病舎ニ收容ス

ヘシ

腸室扶斯病、實布埜里亞病、猩紅熱ハ左ノ各項ニ該當スル時ハ自宅治療ヲナサシムルコトヲ得

一 家族ノ居間ト隔離シ療養スヘキ室アルモノ

一 専從スヘキ看護人アルモノ

一 主治醫アルモノ

三 一患者ニ専用スヘキ家具什器ヲ有スルモノ

第六條 病室内ノ塵埃ハ覆蓋ヲ有スル一定ノ容器ニ溜置キ時々石炭油ヲ澀キ燒却セシムヘシ

第七條 患者ノ吐瀉物及病毒ニ汚染セル物品ハ一定ノ容器ニ受テ其都度消毒シ蚊蠅等ノ集ラサル
様注意セシムヘシ

第八條 病室内ニ於テハ患者ノ外飲食喫烟セシムヘカラス

第九條 患者ニ與ヘタル飲食物ノ殘餘ハ總テ消毒ノ上一定ノ場所ニ投棄スヘシ其器具ハ使用ノ都
度消毒セシムヘシ

第十條 患者ノ沐浴シタル湯水ハ之ヲ消毒セシムヘシ

第十一條 病室ニハ醫師看護人ノ外出入セシムヘカラス

但特ニ當該吏員ノ許可ヲ得タルモノハ此限リニアラス

第十二條 移送スヘキ患者ニシテ左項ニ該當スルトキハ一時移送ヲ停止スルコトヲ得

一 患者危篤ニシテ途中死亡ノ虞アルトキ 二 暴風雨降雪又ハ炎熱ノ時間

第十三條 患者ヲ移送スルニハ病狀ニヨリ飲料ニ供スヘキ湯水又ハ凍氷若クハ嗽盤其他必要ナル
藥品等ヲ準備セシムヘシ

第十四條 患者又ハ死体ヲ移送スルトキハ當該吏員之ニ附添ヒ其取締ヲ爲スヘシ

第十五條 公立學校、劇場、客席、興行場、宿屋、飲食店、其他多人數集合ノ場所ニ患者發生シタル

トキハ殊ニ注意ヲ加ヘ檢疫消毒等迅速ニ施行シ且ツ患者ニ觸接セス又ハ患者ノ居室等ニ出入セサルモノニシテ病毒附着ノ虞ナシト認ムル者ハ速ニ立退カシムヘシ

第十六條 患者又ハ死體ノ移轉ヲ請フモノアルトキハ其事由及移轉先ヲ調査シ左ノ事項ニ觸レサルモノ其他不都合ナキ場合ニ限り警察官吏市町村長豫防委員合議ノ上之ヲ認可スヘシ
一 流行ノ微アル地方ヨリ患者ナキ地方ニ移轉スルカ又ハ移轉ノ場所ハ現在ノ居所ニ比シ豫防上不便アリト認メタルトキ

第十七條 衣服履具等ノ消毒ニ際シ代用スヘキ物品ナキ爲メ充分ノ消毒ヲ施行シ得サルトキハ市町村ニ於テ其代用品ヲ調達スヘシ
第十八條 死體ハ總テ沐浴セシムヘカラス

第三章 交通遮斷

第十九條 虎列刺、赤痢、發疹室扶私、ヘスト患者發生ノ家又ハ其接近ノ家屋ニシテ左ノ一項又ハ數項ニ該當スルモノハ規定ノ期日間交通ヲ遮斷シ即時市町村役場ニ通報スヘシ
一 患者アリタル家屋全ク獨立ニシテ他ニ病毒傳播ノ虞ナキモノハ單ニ其家屋

二 患者ノ便所又ハ井戸ヲ共用スル家屋
但井戸ヲ共用スルモ病毒傳播ノ虞ナシト確認シ得ヘキモノハ此限りニ非ラス

三 患家ニ接近セル家屋ニシテ病毒傳播ノ虞アリト思料スルトキハ其家屋

第二十條 遮斷區域内ニ立入ラントスルモノアルトキハ事情已ムテ得サルモノニ限り特ニ之ヲ許

可スヘシ

第二十一條 交通遮斷ノ爲メ要スル左ノ事項ニ付テハ市町村ニ於テ之ヲ處辨スヘシ

- 一 日用品買入等ニ差問アルトキ取扱人夫ヲ定ムルコト
- 二 遮斷ノ爲メ自活シ能ハサルモノニ食料ヲ給與スルコト
- 三 患者ノ幼兒又ハ死者ノ遺族ヲ養育スヘキモノナキトキ又ハ保管者ナキ家屋器具ニ付キテハ相當ノ處置ヲ爲スコト

第四章 雜 則

第二十二條 舢舨内ニ於テハ患者ヲ治療セシムヘカラス

但交通遮斷ヲ要スルトキハ規定ノ期日間適宜ノ場所ニ繋留セシムヘシ

第二十三條 警察署長又ハ警察分署長ニ於テ病毒河川池沼ニ混入シ豫防ノ必要アリト認メタルトキハ即時關係アル官公署ニ急報シ必要ノ日時間左ノ豫防法ヲ施行スヘシ

- 一 河水ノ使用及其飲用ヲ停止スルコト
- 二 漁撈及游泳ヲ停止スルコト
- 三 衣服及物品ノ洗濯ヲ禁スルコト

第二十四條 病毒井水中ニ混入シ又ハ其混入ノ虞アルトキハ凡ソ水量百分ノ二ニ相當スル生石灰又ハ鹽酸ヲ投入シ攪拌ノ后之ヲ封鎖シ二十四時間后井戸浚ヲ爲シ尙ホ屢々水ヲ汲換ヘタル後ニアラサレハ使用セシムヘカラス

(様式略之)

●群馬縣訓令甲第七十八號 明治二十七年八月十七日 郡役所 市役所 町村役場
傳染病豫防ノ爲メ市町村ニ左記ノ消毒器具消毒藥ヲ備ヘ置クヘシ

消毒器具

第一 熱源消毒器

第二 患者用便器

第三 室内消毒器

消毒藥

第一 結晶石炭酸

第二 生石灰

第三 昇汞

解説中消毒器具解説及圖式畧ス

消毒藥

第一 結晶石炭酸

傳染病豫防心得書ニ詳記セリ

第二 生石灰 石灰乳

但石灰乳ハ用ニ臨ンテ之ヲ製スルカ故ニ生石灰、又ハ石灰(杜蠟殼ヨリ製シタルモノ)等ヲ備置ケハ
三足レリ石灰ハ生石灰ノ倍量ヲ使用スルヲ要ス

第三 昇汞

用ニ臨ミ千倍ニ溶シ製スルヲ良トス此液千分中ニ四分ノ塩酸又ハ酒石酸ヲ加フレハ消毒力著シ

糞便ニ使用スルモ消毒ノ効アリ

此ニ記載セルモノハ使用ニ慣レタル種類ヲ記載シタルモ傳染病豫防心得書中消毒藥ノ各種ヲ使用

シ妨ケナキハ勿論ナリ

●群馬縣訓令甲第四十三號

明治二十八年五月九日

郡役所 市役所 警察署 警察分署 町村役場

清潔法ノ施行上ニ關シテハ豫テ訓諭及ヒ置タルモ其ノ方法ニ至テハ特リ之ヲ人民各自ノ施措ニ委
スヘカラス市町村ニ於テハ「明治二十七年二月勅令第十四號」ノ旨モ有之ニ付之カ責ニ任スルハ勿
論傳染病流行ノ虞アル今日ニ在リテハ殊ニ周到ノ措置アルヘシ

又各戸ノ清潔法モ此際特ニ其ノ監督ヲ嚴ニスルヲ要ス而テ其實行ハ總テ左ノ諸項ニ準シ疎虞遺漏
ナキヲ期スヘシ

一 市町村ハ其市町村内ノ清潔ヲ保續スルノ方法順序ヲ定メ之カ施行ノ責ニ任スヘシ

二 溝渠下水汚水溜等ハ浚渫掃除ヲ爲シ其疎通ヲ良クシ若シ破損ノ箇所アルトキハ修繕ヲ加フヘ
シ

但傳染病流行時ニアリテハ妄リニ溝渠下水等ヲ攪擾スヘカラス

溝渠下水ノ汚水ヲ汲ミ取リ道路ニ撒布スヘカラス

三 溝渠下水ノ必要アリテ未タ其設ケナキ場所ニハ速ニ之ヲ布設スヘシ

吸込下水ハ可成之ヲ埋却シ更ニ流通ノ設ヲナスヘシ

四 公衆用ノ便所ハ毎週二回以上之ヲ汲ミ取リ溢流ヲ防キ糞地及周圍ニハ適當ノ消毒藥ヲ撒布ス
ヘシ

- 但市町村内戸口密集シ特ニ病毒萌生ノ虞アル場所ニ於ケル共同便所(總雪隠)モ之ニ準ス
 - 五 塵芥及汚物ハ散逸漏泄ノ虞ナキ容器ヲ用ヒ各戸ニ就キ毎週二回以上集收シ一定ノ場所ニ運搬シ更ニ衛生上無害ノ地ニ棄却シ若クハ焼却スヘシ
但旅人宿飲食店寄席劇場工業場等ノ如キ衆人群集ノ場所ニ於テハ一層周密ノ方法ヲ設クヘシ
 - 六 飲料水及使用水ノ近傍ハ常ニ注意ヲ加ヘ汚水ノ滲透汚物混入等ノ虞ナカラシムヘシ
 - 七 市町村内戸口密集シ特ニ病毒萌生ノ虞アル部分ハ傳染病豫防心得書中虎列刺ノ部第五條ニ準シ消毒的清潔法ヲ施行スヘシ
 - 八 傳染病流行ニ際シ病毒潛伏ノ疑アル溝渠下水便所并溜等ニハ相當ノ消毒藥ヲ投入シ嚴重ニ清潔法ヲ行フヘシ
 - 九 前數項ハ町村ニシテ人家稠密ナラサル地ニアリテハ之ヲ參酌施行スルコトヲ得
 - 十 當該吏員ハ時々巡視ヲ爲シ清潔法ノ施行ヲ監督スヘシ
- 群馬縣訓令甲第八十七號 明治三十年八月一日
- 郡役所 市役所 警察署 警察分署 町村役場
- 警察署長警察分署長又ハ檢疫委員ニ於テ傳染病豫防上必要ト認ムルトキハ本年內務省令第十一號傳染病豫防法施行規則第十條ノ檢診ヲ爲サシムヘシ此場合ニ在テハ市役所町村役場ニ於テ不都合無之様取計フヘシ

- 群馬縣訓令甲第五十七號 明治二十八年六月八日 郡役所 市役所 町村役場
- 市町村ハ其市町村内ノ傳染病豫防ノ爲メ適當ノ醫師ヲ定メ患者ノ救療消毒ノ指示其他檢疫豫防ニ從事セシムヘシ
- 群馬縣訓令甲第四十一號 明治二十八年五月六日 郡役所 市役所 警察署 警察分署
- 傳染病豫防ノ爲メ左ノ各項ニ就キ合議ノ上其施設ヲ計畫スヘシ
- 一 市町村ニ避病院、隔離所、消毒器具、藥品、擔荷等ノ整理ヲナスコト
 - 二 清潔法ノ施行ヲ怠ラサルコト
 - 三 市町村吏員、衛生組合長等ヲ會同シ醫師ヲ列席セシメ傳染病ノ性質及傳染ノ筋道等ヲ諭示シ且時宜ニ依リ消毒藥ノ製法使用ノ方法等ヲ演習スルコト
 - 但シ此場合ニ於テハ請求ニ依リ縣廳ヨリ主任ヲ派出セシムルコトアルヘシ
 - 四 衛生組合未設ノ箇所ハ之ヲ設クシメ既設ノ箇所ハ其組合長ニ於テ規約ノ活動勵行ヲ計ルコト
 - 五 市町村ニ便宜通俗衛生談話會ヲ開設シ衛生豫防ヲ平易ニ談話シ各自ノ衛生心ヲ喚起スルコト
 - 六 避病院隔離所ハ可成善良ニシテ患者カ入院ヲ望ムニ至ルノ計畫ヲナスコト
 - 七 避病院、隔離所ニ於テハ重症及輕症患者ハ總テ覆蓋ヲ備フル便器ヲ使用シ職員等ノ便所ハ病毒ノ地中ニ滲透セサル様構造ヲ完全ナラシムルコト
 - 八 避病院ニハ醫師及看護人ヲ豫定シ置クコト
 - 九 入院患者ニ要用ノ爲メ對面ヲ乞フモノアルトキハ可成病室ニ立入ラサル様又ハ排泄物ニ觸レ

サル様ニシ不得止事情アルトキハ職員ノ監督ヲ以テ接近セシムルコトヲ得
 八 但面會人ニハ備付ノ上衣ヲ着セシメ面會ヲ終リタル後之ヲ熱湯消毒シ置クコト
 十 患者ニ自宅治療ヲ許ストキハ嚴ニ交通ヲ遮斷シ且家屋内ニ於テ隔離ヲ嚴重ニシ患者ノ排泄物
 看護人ノ糞便ハ毎次消毒ヲナスコト
 十一 飲食物及衣服、食器、手口、等ノ洗滌ニ供スル水ハ必ス一旦煮沸シタルモノヲ使用スル様
 カメテ一般ニ告知スルコト
 十二 患者及排泄物便器ハ蠅ヲ防ク爲メ必ス蚊帳ヲ用意スルコト
 十三 患家消毒ノ際ハ必ス井戸換ヲナスコト
 十四 患者ノ届出ヲ迅速ナラシムルコトヲ醫會又ハ開業醫等ニ協議シ置クコト
 十五 汚穢物運搬者及洗濯者ヲ豫定シ置キ一日三四回以上患家ヲ巡視シ以テ汚穢物ヲ河川等ニテ
 洗滌スルノ弊ヲ豫防スルコト
 十六 他但汚穢物ノ附着シタルモノハ必ス熱湯消毒ヲナシタル後ニアラサレハ洗濯セサルコト
 十七 縣廳ニ於テハ避病院隔離所患者取扱及ヒ消毒藥調製等ノ爲メ請求ニ應シ相當ノ看護人ヲ派
 出セシムルコトアルヘシ
 但費用ハ時宜ニヨリ請求者ノ支辨タルヘシ

●群馬縣訓令甲第六十七號

明治二十七年七月二十八日

郡役所 市役所 警察署 警察分署 町村役場

清潔法施行之儀ハ豫テ訓諭致置候處近年赤痢病流行ノ狀況ヨリ察スルニ該病毒ハ益東漸シ管内ニ
 侵襲セントスルノ虞ナシトセス且ベスト病及ヒ虎列刺病ノ如キ何時流行シ來ルヤモ難計是ニ對ス
 ル唯一ノ豫防ハ清潔法ノ周到ヲ期スルニ在リ故ニ今ノ時ニ當ツテ之カ實施上充分ノ督察注意ヲ加
 ヘ慘害ヲ未然ニ防止スルコトヲカムヘシ

●群馬縣訓令甲第五十四號

明治二十八年五月三十一日

警察部 「臨時檢疫部」 郡役所 警察署 警察分署

傳染病(虎列刺病赤痢病)患者報告ニ使用スル電信符號左ノ通相定ム

符	號	(注意 變更ノ郡ハ名稱及符號ヲ削レリ)
虎列刺	コ	赤痢
發生	ハツ	傳染
特發	トハ	原因
舊患者	キウ	死亡
昨日	サク	午前
不詳	フ	傳播ノ患ナシ
入院セシメタリ	ニウ	隔離セシメタリ
		カシ
		前橋市
		(マ)

町村名	流行經過		戸數	人口	患家數	患者	死亡
	發	熄					
一病毒侵入セサル町村數							
何ヶ町村							

◎群馬縣訓令甲第六十五號

明治二十五年六月九日

郡役所 警察署 警察分署 町村役場

虎列刺病ノ豫防ニ就テハ是迄屢々訓令スル所アリト雖モ就中其病毒ノ發生スルヤ之ヲ當初ノ局部ニ撲滅スルヲ以テ最モ必要ノコトトナス然ルニ一兩年來虎列刺病ノ病原タル虎列刺菌ニ非常ノ重キヲ置キ其弊ヤ虎列刺菌ヲ見サル中ハ其虎列刺病タルノ感覺ニ薄ク從テ豫防法ノ施行ニ於テ幾分カ緩慢ニ陥ルノ傾キアルハ甚タ憂フヘキコトナリトス尤モ虎列刺患者アルニ當リ病毒ノ有無ヲ檢シテ以テ爾后ノ方針ヲ定メ或ハ之ヲ報告シテ一般ノ警戒ヲ促ス等ハ固ヨリ必要ノコトナレトモ其未タ之ヲ檢出セサルトテ豫防法ヲ緩徐ニスヘキ者ニアラサルハ勿論ナリ蓋シ虎列刺菌ノ檢査タル瞬間ニ之ヲ爲シ得ヘキモノニアラス必スヤ多少ノ時間ヲ要スヘシ管ニ時間ヲ要スルノミナラス劇烈眞性ノ患者ニ於テ時ニ或ハ虎列刺菌ノ存在ヲ認メ得サルコトアルカ故ニ該菌ノ檢出ヲ待テ而シ

赤痢病

◎群馬縣訓令甲第二百二號

明治二十九年九月十二日

警察部 「臨時檢疫部」 郡役所 警察署 警察分署

テ後豫防ニ從ハントセハ終ニ病毒ノ爲ニ先セラル、所トナリ又追フ可カラサルニ至ラン故ニ苟モ醫師ニ於テ虎列刺病ト診斷セシ上ハ類似症タルト假性タルトヲ問ハス迅速豫防法ヲ施行スルヲ要ス今ヤ時季方ニ惡疫ノ發生ニ適ス宜シク上來述フル處ノ趣旨ヲ體シ特ニ當初ノ豫防ニ注意シ以テ其未タ蔓延セサルニ先チ撲滅センコトヲ期スヘシ

◎群馬縣令第三十七號

明治三十年八月二日

赤痢病ノ疑似症ニ對シ傳染病豫防法ノ全部ヲ適用ス
 一幅一寸ノ白絹布ニ豫ト朱記ス

◎群馬縣令第三十七號

明治二十七年七月三日

傳染病豫防ニ關シテハ從來告諭スル處少ナカラスト雖モ要スルニ公衆各自ニ於ル自衛ノ途ヲ獎メ深ク戒慎注意ヲ促カスニアリ近年四國及九州地方ヲ侵掠シ猖獗ヲ極ムル赤痢病ノ如キ本縣ハ未タ幸ニシテ多數患者ノ發生ヲ見スト雖モ年々其流行ノ區域ヲ擴大シ次第ニ其病毒ヲ東漸シ來リ客年ニ至テハ既ニ神奈川縣下ニ流行ヲ見ルニ至リタルヲ以テ推考スレハ本年ハ將ニ大ニ東北地方ヲ侵

襲スルノ虞アリトス加之客月清國廣東及香港地方ニ發生シ現ニ其暴威ヲ逞フスル傳染病「ペスト」(黒死病)ノ如キ其傳染ノ迅速ニシテ病勢ノ猛烈ナル殆ント虎列刺病ノ上ニアルカ如シ其筋ニ於テモ之カ豫防ニ對シ施設最モ努ムト雖モ何時内地ニ侵入發生スルヤモ測リ知ルヘカラス又タ近年稍鎮靜ノ狀況ヲ呈シタル虎列刺病ノ如キモ暑熱漸ク加ハルニ從ヒ多少注意ヲ懈リ隙ノ乘スヘキアラフ歟是亦流行ヲ來スヘキ虞ナキ能ハス殊ニ本縣ノ如キ交通ノ便ハ病毒ノ輸入傳播ニ好機ヲ與フルヤ必然ナルカ故ニ特ニ充分ノ注意ヲ要スヘキハ勿論ナリトス抑モ傳染病毒ハ凡テ汚濕不潔ノ地ニ浸染傳播シ引テ其慘毒ヲ逞フスルハ從來ノ經驗ニ徴シ疑ナキ事實ナレハ此際舊テ清潔法ノ周到ヲ期シ是等ノ病毒ヲシテ侵襲スルノ餘地ナカラシムルハ今日ニ處スル先要ノ急務ナリトス然リト雖モ清潔法ノ事タル隣保相互ノ扶助制裁ニヨリ各自注意戒慎勉勵以テ事ニ從ヒ兼テ當該吏員ノ督勵注意ヲ遵行恪守スルニアラサレハ到底完全ナル効果ハ望ムヘカラス若シ不幸ニシテ一旦患者ノ發生ヲ來シ漸ク蔓延ノ兆アルニ方リ急ニ之カ撲滅終熄ヲ期スルモ徒ニ力ヲ費スコト大ニシテ其効ヲ收ムルハ却テ少シ去レハ宜シク今日ニ於テ住屋内外ノ清潔各私有地内下水ノ浚渫廁圍芥溜ノ掃除飲料水ノ選擇等ヲ怠タラサルハ勿論其他身心ノ過勞ヲ避ケ飲食其度ヲ慎ミ努メテ發病ノ原因及誘引トナルヘキ事物ヲ排除シ以テ豫防ノ實効ヲ收ムル様深ク注意スヘシ

●群馬縣訓令乙第七八二號 明治三十三年十月十三日

檢疫委員本部 檢疫委員事務所 郡役所
警察署 警察分署 市役所 町村役場

本縣ニ於ケル赤痢病ハ既往數年間猖獗ノ威ヲ逞フシ其餘藥到ル所ニ伏在スルヲ以テ尙ホ本年之レカ流行ヲ反覆セシコト殆ント疑ヲ容レサリシ所ナリ故ニ之レカ防禦ノ處置ニ關シテ夙ニ周到畫策スル所アリ爰ニ縣令ヲ以テ傳染病院隔離病舎設備規則ヲ改正シ以テ之レカ完整ヲ計リ延テ五月更ニ各郡市ニ檢疫委員事務所ヲ設置シテ防疫ノ機關ヲ完フシ專ラ豫防制遏ニ努メタルノ結果之ヲ既往ニ比シテ著シク患者數ヲ減却セシメタルハ縣下ノ爲メ以テ幸福トスヘキナリ然レトモ其數已ニ千百八十餘名ニ達シ之ヲ全國ニ對照比較スルトキハ尙ホ屈指ノ斑ニ在ルハ未タ以テ遺憾トスル点ナキニアラサルナリ孰ラ既往ノ經驗ニ徴シ其流行ノ因トナルヘキモノヲ考覈スルニ或ハ病院病舎ノ不完全ナル消毒法ノ不適當ナル等其數擧テ數フヘカラスト雖トモ要スルニ清潔法ノ持續セサルト冬季ニ於ケル一般豫防上ノ注意ヲ欠クカ如キハ亦重大ノ一原因ダラスンハアラス今ヤ秋冷ノ候ニ際シ病勢漸ク衰ヘタルヲ以テ官民共ニ之レカ注意ヲ怠ラントスルノ時ナリ然レトモ若シ一旦其處置ノ要領ヲ失シ肯綮ヲ得サルモノアランカ病毒ノ散蔓未タ容易ニ侮ルヘカラサルモノアリ加之累テ翌年ニ及ホスコト明ナリ宜ク今ノ時ニ當テ善後ノ手段ヲ講スルト共ニ將來ニ資スル諸般ノ施設ヲナサ、ル可ラサルナリ就テハ各官署市町村ハ一齊協力シテ左ノ方法ニ依リ其順序ヲ誤ラス適當ナル措置ヲ爲シ防疫上疎虞ナキヲ期スヘシ

一赤痢病豫防法中最モ必要ナルコトハ患者ノ隔離ニアリ然ルニ傳染病院隔離病舎ノ設備不完全ナルトキハ到底豫防ノ目的ヲ達スルコト能ハサルヲ以テ市町村ハ本年縣令第四十九號ニ依リ速ニ修築ノ工事ヲ竣ルヘシ

一入院患者ノ處置ハ假令少數ナリト雖モ待遇消毒等ニ厚薄遺漏ナキハ勿論冬春ノ季間ニ際シ流行ノ全ク終熄セルトキト雖モ尙患者ノ發見ニ注意シ直ニ隔離消毒ノ方法ヲ誤ラサル様注意スヘシ

一衛生事務講習並ニ衛生講話ハ市町村吏員以下實務者及個人ノ衛生思想ヲ發達セシメ其注意ヲ喚起スルノ實益アルヲ以テ冬春間ニ於テモ各地ニ於テ之ヲ催スヘシ

一各市町村ハ一定ノ日時ヲ定メ來ル十一月三十日迄ニ消毒の又ハ普通清潔法ヲ施行シ尙ホ衛生組合ヲシテ冬春間ニ於ケル清潔持續ノ方法順序ヲ定メシムヘシ

但市町村ハ十月二十五日迄ニ其日割ヲ各郡市檢疫委員事務所ニ報告スヘシ檢疫委員事務所ハ各市町村ノ報告ヲ取纏メ十月三十日迄ニ檢疫委員本部ニ申報スヘシ

一病院備付ノ器具ニシテ破損シタルモノハ修繕ヲ加ヘ且ツ器具藥品等ノ員數不足セサル様處置スヘシ

痘 瘡

一各檢疫委員事務所長ハ可成檢疫委員ヲシテ各市町村ニ出張セシメ前項ノ方法ヲ指示監督シ並ニ器具藥品ヲ点檢シ其狀況ヲ檢疫委員長ニ申報スヘシ

●群馬縣訓令甲第四十八號 明治三十一年四月九日 郡役所 市役所 町村役場

明治二十九年訓令甲第一百九號痘苗請求手續左ノ通り改正ス

痘苗請求手續

第一條 市町村長ハ豫メ定規(春季秋季)種痘期日ヲ定メ種痘名簿ニ就キ當季接種人員ヲ点檢シ其

ノ所要痘苗ノ數ヲ概算シ春季ハ前年十二月中秋季ハ其年六月中東京痘苗製造所ニ對シ第一號ノ書式ニ準シ直接報告スヘシ

第二條 市町村長ハ前項定期種痘施行期日凡ソ一ケ月前ニ於テ其所要ノ痘苗員數ヲ測定シ東京痘苗製造所ニ對シ第二號書式ニ準シ直接請求スヘシ

第三條 臨時種痘ヲ施行スル場合ニ於テハ第一條ノ概算報告ヲ要セス何時タリトモ便宜痘苗ノ請求ヲ爲スコトヲ得

但シ員數五百以上ナルトキハ可成前以テ其ノ手續ニ及フヘシ

第四條 定期臨時ノ別ナク多數ノ痘苗ヲ要スルモノハ其ノ發送期日ヲ數回ニ分割シ請求スヘシ(第一號)痘苗員數概算報告書式

明治何年(春秋)季所要痘苗概數

痘苗員數	所	要	期	日	請	求	所	名
	何	員	至	何				
		自		群馬縣何市役所又ハ何郡何町村役場				

右及報告候也

右

年 月 日

何市役所又ハ何郡何(町村)役場

東京痘苗製造所宛

(第二號)痘苗具數請求書式

痘苗請求書

一痘苗何具

發送期日何月何日

(數回ニ分送ヲ要スルモノハ左ノ如ク内譯スヘシ)

内

何 具

何 月 何 日

何 具

何 月 何 日

右 請 求 候 也

登記
印紙

年 月 日

東京痘苗製造所宛

群馬縣何市役所又ハ何郡何(町村)役場

●群馬縣訓令乙第二〇三號

明治三十三年三月九日

郡役所

市役所

町村役場

痘苗請求ノ義ニ關シテハ明治三十一年訓令甲第四十八號ヲ以テ請求手續規定シアルモ近來各市町村ノ狀況ヲ見ルニ該手續ニ依リ其所要概數ヲ報告スルモノ少ナク現ニ本年春季所要概數ヲ報告シタル町村ハ僅ニ三十三ヶ所ニ過キス右ハ全ク該訓令ノ意ヲ體セサルノ致ス所ニシテ甚タ不都合ナルノミナラス延テハ種痘ノ効果ニモ影響スル次第ニ付自今痘苗ヲ使用スル場合ハ必ス右手續ニ依

リ取計フヘシ

●群馬縣甲第八號 明治十八年二月七日

天然痘患者アル家ニハ赤色紙片(寸法適宜ナリト雖モ他人ノ認メ易キ大サヲ要ス)ヲ警察官ニ於テ其門戸ニ貼付スルモノトス

但避病院(又ハ治療所)ニ移セシモノハ此限ニアラス

●群馬縣乙第四十六號 明治十九年五月二十九日

戸長役場

自今五十年以下ノ者轉籍ノ節ハ管内外ヲ問ハス其送籍証ニ天然痘及種痘濟否ノ詳明書ヲ添付シ(全戸送籍ノトキハ本年本縣甲第十八號布達種痘規則中種痘簿ニ就キ其金)寄留者ハ原籍戸長ヨリ寄留地戸長ヘ其區別ヲ通知スヘシ

右相達候事

●群馬縣甲第十八號 明治十九年二月十二日

明治十八年第三十四號布告種痘規則第十一條ニ據リ種痘細則別紙ノ通相定ム

但明治九年本縣第九號布達種痘規則ハ廢止ス

(別紙)

種痘細則

第一條 一戸長役場部内ニ種痘所ヲ設置シ戸長ニ於テ之ヲ管理スヘシ

但便宜ニ由リ一役場所轄部内ニニヶ所以上設置シ又ハ二役場以上聯合設置スルモ妨ケナシ

第二條 種痘所ハ毎年一度乃至二度之ヲ開クヘシ尤モ天然痘流行ノ兆アルトキハ臨時之ヲ開クモ
ハトス

但開閉月日ハ其時々所轄郡役所ヘ届出ヘシ

第三條 戸長ハ其部内種痘スヘキ人員ヲ調査シ種痘所開設ノ前其場所及時日ヲ部内ニ報告スヘシ

第四條 種痘所ニハ第一號雛形ノ標札ヲ掲クヘシ

第五條 種痘料ハ一回金拾五錢ヲ超過スヘカラス

第六條 種痘所ニ關スル費用及赤貧者ノ種痘料ハ町村衛生費ヲ以テ支辨スヘシ

但赤貧者ニ非サル種痘料ト雖モ町村會ノ評決ニ因テハ本條ニ據ルヲ得

第七條 種痘ハ其組合種痘所ニ就キ種痘料ヲ納メ之ヲ受クルモノトス

但便宜組合種痘所外ニ於テ受クルハ妨クナシト雖モ其旨戸長役場ヘ届出ヘシ

第八條 規則第四條ニ依リ病氣又ハ事故ノ届出ヲ爲スモノハ第二號若クハ第三號書式ニ仍リ書面
ヲ作リ差出スヘシ

但病氣全快又ハ事故相解ケタルトキハ直チニ種痘スヘシ

第九條 規則第六條ニ依リ種痘又ハ天然痘濟ノ届出ヲ爲スニハ種痘証若クハ天然痘證ヲ一週日以
内ニ戸長役場ヘ差出シ檢印ヲ受クヘシ

但証書ハ保存シテ臨時點檢ノ用ニ供スヘシ

第十條 規則第一條ニ據リ滿一年以内ニ初種ヲ行ヒ不善感ナルトキハ六ヶ月以内ニ再接種ヲ行ヒ

尙不善感ナルトキハ又六ヶ月以内ニ三接種ヲ行フヘシ

第十一條 規則第一條ニ依リ既ニ三種ヲ行フタルモノ並ニ同第二條ニ依リ再三種ヲ行フタル者ハ

不善感ト雖モ各其期ノ責メヲ了レルモノトス

第十二條 規則第三條ニ依リ臨時種痘ヲ行ヘルモノト雖モ同則第一條第二條ノ期限ニ至レハ種痘

ヲ行フヘキモノトス

但臨時種痘ニシテ規則第一條第二條ノ期限ニ恰當スルモノハ此限ニアラス

第十三條 規則第八條ニ依リ付與スル證書ハ第四號書式ニ仍リ檢診ノ後十日以内ニ交付スヘシ

第十四條 規則第八條但書ニ依リ付與スル證書ハ第五號書式ニ仍リ全治ノトキ交付スヘシ

第十五條 戸長役場ニ於テハ第六號樣式ノ種痘簿ヲ製シ轉籍寄留生死等アルトキハ其時々之ヲ加

除スヘシ

第十六條 戸長役場ニ於テハ第七號樣式ノ種痘明細表ヲ製シ毎年兩度(上半期一月ヨリ六月迄ノ

分七月十日限リ下半年七月ヨリ十二月迄ノ分翌年一月十日限リ)所轄郡役所ヘ差出スヘシ

第十七條 郡役所ニ於テハ第八號樣式ノ種痘明細表ヲ製シ毎年兩度(上半期一月ヨリ六月迄ノ分

七月二十日限リ下半年七月ヨリ十二月迄ノ分翌年一月二十日限リ)縣廳ヘ差出ヘシ

(變形書式略ス)

●群馬縣丁第二十四號 明治十九年七月廿一日

公立病院 開業醫師

種痘ハ別冊種痘施術心得書ニ據リ施術スヘシ

右相達候事

(別冊)

種痘術心得書 (明治十八年内務省甲第九號)

種痘術ヲ施ス者ハ種痘ノ適否接種ノ方法痘苗採收及貯蓄ノ法善感不善感ノ鑑別種痘ノ注意等ヲ詳知セサル可カラス其要左ノ如シ

第一 種痘ノ適否

- 第一條 種痘ハ左ニ掲クル者ニハ施サ、ルヲ可トス
 - 一 生後七十日ヲ經サル者
 - 二 種痘ノ爲ニ一時増進スヘキ病患アル者
- 三 丹毒流行ノ土地ニ居住スル者
- 四 蔓延性ノ皮膚病アル者
- 五 熱性病ニ罹リ居ル者

第二條 種痘ニ適スル時期ハ春(三月四月五月)秋(九月十月十一月)二期ヲ以テ最良トス然レトモ四季共ニ之ヲ施シテ妨ナシ

第二 接種ノ方法

第三條 種痘ヲ施スハ上膊^{三稜筋抵}ニ於テ各々三針乃至五針^{受痘者ノ年齢體質等ニ隨フ}トシ各針ノ距離曲尺五分以上ニシテ痘胞ノ量輪互ニ密接セサル様注意スヘシ

第四條 施術ニ先チ針尖ヲ拭淨シ一時ニ數人ニ接種スルトキハ一人毎ニ之ヲ拭淨スヘシ

第五條 眞性ナル痘漿ヲ採リテ移種スルヲ確實ノ良法トスレトモ此法ヲ行フコト能ハサルトキハ

貯蓄ノ痘苗ニシテ成ルヘク新鮮ナル者ヲ撰ヒ用フヘシ

但痂皮ハ用ヒサルヲ可トス

第三 痘苗採收及貯蓄ノ法

第六條 痘苗ハ左ニ掲クル者ヨリ採收スヘカラス

- 一 痘胞ノ成形過度及過大ノ者 發量非常ニ大ナル者 痘縁又ハ量部ニ水泡ヲ生スル者 痘胞非常ニ隆起シテ澄明ノ漿液ヲ漏出スル者 一種ノ疑フヘキ色例ヘハ紅藍色ヲ呈セルカ如キ者

但此等ノ異常痘胞ノ近傍ニ在ル正痘モ亦同シ

- 二 痘漿ノ血液ヲ混セル者 痘ノ中央ニアル痘漿ノ腐敗ニ向ハントスル者 痘胞ノ已ニ化膿ニ傾キシ者 爬搔又ハ摩擦ノ爲ニ痘胞破潰セシ者
- 三 梅毒腺病及皮膚病ニ罹リ居ル者 營養不良ノ者
- 四 丹毒ヲ併發セル者 經過不整ニシテ不善感ノ疑アル者^{第十四條ヲ參觀スヘシ}
- 五 天然痘ヲ經タル者 再三種ノ者

第七條 痘漿ヲ採ルハ通常接種後第八日^{二十四時間ヲ以テ一日ト算ス下皆同シ}ヲ以テ佳トスト雖モ時候ノ寒暖及各人ノ

性質ニ隨ヒ第七日又ハ第九日ヲ以テ適度トスルコトアリ痘胞ハ善感眞性ノ者ニシテ其含包セル處ノ漿液ハ渾濁セス粘稠露滴ノ如クナルヘシ

第八條 漿液ヲ採ルニハ痘胞ノ中心ヲ避ケテ胞面ヨリ斜ニ淺刺シ深ク刺シテ出血セシムヘカラス

第九條 發痘一顆ナル者ノ痘疱ハ其漿液ヲ採ルヘカラス又數顆アルモ其一顆ハ傷クヘカラス
 第十條 痘苗ヲ貯蓄シテ接種ノ用ニ供セントスルニハ硝子板ニ貯ヘテ密封シ又ハ硝子製毛細管ニ
 ニ吸入セシメテ其兩端ヲ固封シ日光及寒熱ノ劇度ヲ避ケ貯フヘシ(痘苗ノ貯蓄法甚宜シキヲ得
 ルトキハ五月間充分ノ効力アリ)

第四 善感不善感ノ鑑別

- 第十一條 種痘ノ善感不善感ヲ鑑別スルニハ左ノ各項ヲ以テ要點トナス
- 一 接種後第二日以外ニ成形ヲ始メシヤ否
 - 二 痘疱常形ニシテ其大サ及硬サハ皮下皮上共ニ同一ナルヤ否
 - 三 紅暈ハ常形ナルヤ否
 - 四 經過整然トシテ其時期ヲ誤ラサルヤ否
 - 五 第八日ニ至リテ微熱ヲ發スルヤ或ハ然ラサルモ其他ノ微候ヲ呈スルヤ否
 - 六 痂皮黯褐色又ハ黑色ニシテ其厚サ及硬サハ常度ナルヤ否
- 第十二條 種痘善感ノ徵候ハ左ノ經過ニ就キテ知ルヘシ
 接種後第一日第二日ノ間ハ他ノ刺湯ニ異ナルコトナシ施術後針痕ノ周圍ニ淡紅色ノ小暈ヲ發ス
 レトモ暫時ニシテ消失ス(或ハ此暈ヲ見サルコトアリ)
 第三日ニハ針痕ノ部ニハ小ナル紅點ヲ生シ試ニ指頭ヲ以テ之レニ觸ルレハ移々隆起セルヲ覺ユ
 (經過緩慢ナル者ハ第四日第五日ニ至リ始メテ紅點ヲ生スルコトアリ)

- 第四日ニハ紅色ニシテ硬ク且ツ隆起セル圓形若クハ橢圓形ノ小結節ヲ生ス
 第五日ニハ結節細小ノ水疱トナリ其周圍ニ狹キ紅暈ヲ見ル
 第六日ニハ水疱稍々増大ナシ其邊緣隆起シテ疱ノ中央ニハ陷凹ヲ呈シ疱中ニハ稀薄透明ニシテ
 稍々帶藍色ナル液ヲ充實シ周圍ノ紅暈稍々増大ス
 第七日ニハ諸症益々増進ス
 第八日ニハ痘疱全ク成形ス其大サハ豆大ニシテ周圍ハ脈腫シ微ク疼痛アリ疱中ノ液ハ倍々充實
 シ紅暈亦著シク増大ス此期ニ當リ(或ハ此期以前)微熱ヲ發シ或ハ全ク熱候ナク顔面ハ蒼白色ヲ
 呈スルコトアリ又腋下ニ疼痛ヲ覺ヘ水脈腺腫起スルコトアリ
 第九日ニハ紅暈更ニ増大シ其色澤モ亦加ル
 第十日ニハ疱液化膿シテ白濁或ハ紅色ノ膿稠液トナリ疱ノ中央稍々凸隆ス然レトモ其形必ス扁
 圓ナリ
 第十二日ニ至ルマテハ痘疱其形狀ヲ變スルコト無ク此日ヨリ收斂ヲ始メ疱ノ中央ヨリ邊緣ニ向
 ヒテ次第ニ乾固シ漸ク褐色ニ變シ周圍ノ紅暈モ亦漸ク消退ス
 爾後黯褐色又ハ黑色ニシテ堅實ナル厚痂ヲ結ヒ初ハ皮膚ニ堅着シテ容易ニ剝離セス結痂後八日
 乃至十日ニ至リ始テ剝脫ス其剝脫ノ後ニ遺セル癩痕ハ圓形又ハ橢圓形ニシテ淺キ凹窩ヲ爲シ其
 窩内ニハ更ニ數多ノ小凹點ヲ呈ス
 但一回種痘セシ者ニ再三種シテ感染スルコトアルモ其痘顆小ニシテ七八日間ニ全ク經過スル

ヲ常トス

第十三條 種痘不善感ノ諸徴ハ左ノ如シ

- 一 接種後第二日以内ニ成形ヲ始メ常形ニ違セスシテ直ニ廣ク蔓延セル炎症ヲ發シ皮下ニ硬キヲ覺ヘスシテ紅暈ハ不整形ナリ痘疱ハ速ニ化膿シ其隆起ノ狀或ハ半球形或ハ圓錐形ト爲リ
- 二 乾固スレハ黃色ニシテ鬆疎ナル痂皮ヲ結フ(時トシテハ第二日後ニ成形ヲ始ムル者アレトモ其形總テ不整ナルヲ以テ自ラ善感ノ者ト區別スルコトヲ得ヘシ又不善感ノ者ト雖モ腋下トニ疼痛ヲ覺ヘ微熱ヲ發スルコト無キニ非ス)
- 三 接種後第一日ニ大ナル赤色ノ疱ヲ生シ速ニ漿液ヲ充實シ上皮破レテ膿面ヲ呈シ或ハ濕潤セ
- 四 膿面淡色ノ痂皮トナルヲ見ル
- 五 紅暈速ニ増大シテ腫起シ或ハ遂ニ潰瘍ニ陥ル
- 六 第八日ニ至リ數泡相合シテ一大潰瘍トナリ或ハ一面ノ痂皮ヲ結ヒ其潰瘍又ハ痂皮ノ周圍ニ廣ク赤色ヲ呈ス
- 七 痂皮剝脫ノ後ニ遺セル癍痕ハ深クシテ不整形ヲ呈シ其底面平滑ナリ
- 八 第五條ノ種痘ノ注意
- 九 第十四條ノ初種ノ不善感ハ痘苗ノ不良ナルカ或ハ其人一時ノ不感性ヲ有セルニ因ル者ナルカ故更ニ三四週ノ後善良ナル痘苗ヲ撰ヒテ再ヒ接種スヘシ
- 十 第十五條 種痘ヲ施スニ當リテハ併發症ヲ防キ殊ニ天然痘流行ノ際ニハ接種後第八日ニ至ルマテ

ハ嚴ニ其感染ヲ防禦スヘシ然レトモ受痘者已ニ暗ニ天然痘ニ感染シ其潜伏期ニ於テ接種スルコト間々之アリ

第十六條 天然痘流行シ種痘ヲ猶豫ス可カラサル際ニハ第一條各項ニ掲クル者ト雖モ熱性病ヲ除クノ外ハ總テ接種スヘシ

第十七條 種痘中ハ寒冷ヲ避ケシメ成ヘク清潔ノ空氣中ニ居ラシムヘシ平常慣習セル食物等ハ總テ禁忌スルニ及ハス又別ニ醫藥ヲ要セス

●群馬縣乙第七十五號 明治十九年七月二十一日

「戸長」役場

種痘施術之儀ニ付丁第二十四號之通公私立病院開業醫師へ相達候條此旨相心得ヘシ

右相達候事

●群馬縣訓令甲第一百十一號 明治三十年十月七日

郡役所 市役所 警察署 警察分署 町村役場

從來本縣下ニ於ケル種痘施行ノ時期ハ多ク春季ヲ主トシ秋季ハ全ク施行セサルモノ、如シ蓋シ秋季ハ農家收藏繁忙ノ時ナルヲ以テ自然此習慣ヲ生シタルモノナルヘシト雖モ元來痘瘡病ノ流行時期ハ既往ノ實歴ニ徴スルニ十二月ノ交ヨリ翌年四五月ニ涉ルヲ常トス故ニ春季種痘後出生ノ兒童多ク種痘ヲ了ヘスシテ流行期ヲ迎フルヲ以テ其危險云フヘカラス依テ自今市街地ニ於テハ主トシテ秋季ニ於テ種痘シ其他村落ニアリテモ可成秋季種痘ノ一層行届候様措置スヘシ

發疹室扶斯腸室扶斯

傳染病豫防

發疹室扶斯腸室扶斯

●群馬縣無號 明治十三年八月二十三日

公(私)立病院 開業醫師

内務省衛生局報告第十五號發疹室扶斯腸室扶斯ノ辨識別冊爲心得相達候事

(別冊)

内務省衛生局報告第十五號 明治十三年八月十一日發行

發疹室扶斯及腸室扶斯兩症ノ辨識

發疹室扶斯及腸室扶斯ノ二病ハ其病候ヲ同クスル所アルヲ以テ從來此二症ヲ辨別スルヲ得ザリシニ二三十年以來病屍剖檢及診斷學ノ進歩セシヲ以テ其病ノ診徵及剖觀ノ大異アルト其傳染性ノ劇易アルトヲ知ルヲ得タリ今此二病ノ全然其性ヲ異ニスルヲ知ラスシテ唯其名稱ノ容相似タルヨリ診斷ノ際彼是ヲ辨セサルトキハ幸ニシテ其治療ノ法ヲ誤ルコトナシト雖モ其豫防ノ方法ニ至リテハ大ニ異ナル所アリ故ニ若シ腸室扶斯ノ患者ニ發疹室扶斯豫防ノ嚴法ヲ遵守セシメハ當ニ其目的ヲ達スル能ハサルノミナラス徒ニ病家ノ困苦ヲ招クコト多カルヘシ因テ二病ノ相異ナル所ヲ略記シテ茲ニ報告ス

發疹室扶斯

- 一 傳染ノ性最強烈ナリ
- 二 一回發スレハ蔓延流行スルヲ常トス
- 三 此病ニ罹ルハ其年齡ノ長幼ニ拘ハラスト雖モ亦時アリテハ多ク老者ヲ侵スコトアリ
- 四 發病ニ先チ前兆至テ短ク大概寒戰シテ後病候ヲ頓發ス
- 五 顔面潮紅眼目赤色ヲ呈ス
- 六 病初メヨリ譫語及ヒ精神痴鈍症ヲ發ス

- 七 發疹ノ色暗紅ニシテ全身ニ布滿ス
- 八 体力大ニ虛脱ス
- 九 腹部ノ發症ナシ大抵便秘ス
- 十 肺充血及肺炎ヲ併發ス
- 十一 治癒ニ趣ク者ハ病候頓ニ減退シ腦症モ亦速ニ輕快ス
- 十二 本病ノ經過三週ヲ出ツルハ稀ナリ
- 十三 初週ノ終ニ死スル者少ナカラス多クハ二週以前ニ斃ル

腸室扶斯

- 一 傳染ノ性甚タ弱シ
- 二 流行ニ至ラスシテ不斷散在シ又時々大流行ヲ致スコトアリ
- 三 此病ニ罹ル者ハ通常十八年ヨリ三十五年ニ至ルノ間ヲ多シトス
- 四 發病ニ先チ前兆アルコト數日間ニシテ且病候ノ増進モ亦緩徐ナリ
- 五 面貌初メハ赤色ナレトモ後ニハ忽チ蒼白トナリ且ツ赤目ノ徵著シカラス
- 六 腦症漸次ニ發シ來ル
- 七 發疹淡色ニシテ通常四肢ニ及ホスコトナシ
- 八 身体大ニ羸瘦ス
- 九 腹部鼓肺シ或ハ下痢シ屢々下血ス
- 十 氣管支炎及肋膜炎ヲ合併ス
- 十一 治ニ趣クモノト雖モ諸症徐ニ退消ス
- 十二 經過必ス三週ヲ費シ或ハ四週ヲ過クル者アリ
- 十三 二週以前ニ死スルモノハ稀ニシテ通常三週乃至四週ノ後ニ斃ル
- 十四 腸ノ集腺腫起シ或ハ潰爛シ腸間膜腺モ亦腫脹シ脾臟軟腫ス

傳染病豫防

發疹室扶斯腸室扶斯

上文記スルカ如ク此二病ノ診候ノ自ラ區別アリト雖モ亦其二症候交互錯雜シテ病初發疹室扶私ノ
狀ヲナシ末期ニ及ンテ腸室扶私ノ經過ヲ取ル者又ハ發疹モ初メニ暗紅色ノ者ヲ生シ後ニ淡色ノモ
ノヲ發シ來ルコトアリ又或ハ腸室扶私ノ患者便秘シ發疹室扶私ノ患者下痢スル者アルカ如キ實ニ
彼此ノ辨識至難ナルモノ亦往々無キニ非ストス

黑死病「ペスト」豫防

●群馬縣令第四十八號 明治三十二年十一月十八日

ペスト病ノ疑似症ニ對シ傳染病豫防法ノ全部ヲ適用ス
本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

●群馬縣訓令甲第五十八號 明治三十三年六月一日

檢疫委員本部 郡市役所 檢疫委員事務所
警 察 署 警察分署 町 村 役 場

ペスト病豫防上必要ニ付左ノ事項ヲ施行スヘシ

- 一 樞要ナル市街地ニ於テハ一般ニ鼠族ノ驅除ヲ獎勵スルコト
- 二 停車場附近、貨物運送店倉庫等ニハ特ニ鼠族ノ驅除ヲ嚴行スルコト
- 三 貧民部落木賃宿貨物集散場附近其他必要ト認ムル部分ニハ時々檢病的戸口調査ヲ行ヒ疑アル
トキハ醫師ヲシテ檢診セシムルコト
- 四 急性病者ノ死亡届ニ注意シ必要ト認ムルトキハ當該吏員ニ於テ豫防ニ注意スルコト

●群馬縣告示第九十八號 明治二十七年六月二十五日

清國廣東及香港地方ニ流行スル黑死病追々蔓延ノ景况アリ何時本邦ニ侵入スルモ計リ難ク依テ
今般該病ノ病狀及豫防法等成書ニ就キ内務省衛生局ニ於テ取調タル處左ノ如クナリト云フ
黑死病(一名ペスト)黑死病ノ起原ハ遼トシテ考フヘカラス歴史上記事ノ存スルモノハ耶蘇生後五
百三十一年ヲ始トス此年君士但丁ニ於テ「ペスト」様ノ疾病發生シテ漸次蔓延シタリシカ五百四十
二年ニ至リ波斯ヨリ起リテ猛烈ナル流行ヲ來シ廣ク東洋諸邦ヲ侵襲セリ降テ第十四世紀ニ至リテ
ハ一層ノ猛威ヲ振ヒ全世界ヲ横行シ清國ヨリアイスラント、ギリオトクランドニ至ルマテ黑死病
途ニ滿チ野ニ耕夫ナク都市ニ行人ヲ見ス僅ニ生存セル者モ飢寒ノタメニ死亡ノ危難ヲ免レサル程
ノ慘劇ヲ呈シタリ當時流行ノ狀態ヲ推考スルニ駱駝行商等ノ通路ニ伴ヒタルノ形跡著シク總テ商
賣交通ニ依リテ亞細亞ヨリ歐羅巴ニ達シタルハ蔽フヘカラサルノ事實ナリ此流行ニ際シテ獨逸一
國ニ於テ該病ノタメニ斃レタル者百二十五萬ニ下ラス(ヘツケルノ説ニ依ル)東洋ニ於テハ二千三
百萬乃至二千四百萬人ノ死亡者アリシト云フ其慘狀今日ヨリ之ヲ追想スルモ覺ヘス肌膚ノ粟立ヲ
生スルニ餘アリ

五百四十二年君士但丁ニ於テ流行シタル「ペスト」ノ症狀ハプロローブノ記述ニ據レハ左ノ如シ
強熱ヲ發シテ往々躁狂狀ヲ爲スコトアリ鼠蹊、腋窩等ノ淋巴腺耳下腺等腫脹ス此等諸腺ハ炎症ニ
陥リテ暗黑色(壞疽色)ヲ爲ス此腺腫化膿スルトキハ患者恢復スル望アリ之ニ反シテ扁豆大黑色ノ
膿疱滿身ニ發生シ諸所ニ「カルブンケル」ヲ發シ或ハ吐血ヲ來ストキハ日ナラスシテ死ニ至ルヘシ

是レ最モ悪性ノ症トス膿疱ノ色ニ依リテ黒死病ノ稱アルナリ通例發病後三日以内ニシテ死亡スル者多シ尤モ第三日ヲ經過スルトキハ之ヲ佳候ト見做スコトヲ得ヘシ
 第十四世紀ノ「ベスト」ハ其症候少シク之ニ異ナリ一層劇甚ノモノタリシハ疑ヲ容レヌ
 高熱腺腫「カルブンケル」渾身ノ黒斑等ハ前流行ニ異ナラサリシモ一層ノ厭フヘキ新症候ヲ發シタ
 即チ該症ノ患者ハ胸痛ヲ發シ咳嗽頻發シテ非常ニ惡臭アル血液ヲ咯出セリ斯ノ如ク咯血ヲ來セ
 ル患者ハ三日目迄生存スルコト殆ト絶無ニシテ多クハ其前ニ於テ死亡セリ而シテ該患者ノ惡臭アル
 呼吸氣ト血液トハ病毒蔓延ノ媒介ト爲リテ空前絶後ノ慘劇ヲ呈セシト云フ（ヘツケル、ヒルシユ
 シ説ニ依ル）

ヒルシユノ説ニ據レハ出血性肺疾患ヲ合併スル黒死病ハ印度ノ西北地方殊ニヒマラヤ山ノ南側ニ
 位スルガルワール、シマオン州ノ地方病ニシテ畢竟東洋ニアル腺腫「ベスト」ノ一症ナリト云フ或
 ハ埃及ニ於テモ地方性ニ發スルノ説アレトモ信シ難シ第十四世紀ノ流行以來「ベスト」ノ流行セシ
 ハ事實ナレトモ何時モ東洋ニ止リテ遠ク西洋ニ及ハス千八百五十三年ニハ西亞刺比亞ニ發シ千八
 百五十八年乃至五十九年ニハ北阿非利加ノベンガチー州ニ發シ千八百六十三年、千八百七十年、
 同七十一年ニハ波斯領タルヂスタンニ發シ千八百七十三年、同七十四年ニハオアフチーニ發シ
 千八百七十四年ニハ再ヒベンガチーニ發シ千八百七十六年乃至七十七年ニハシマオンノ山間ノ村
 落ニ流行シ千八百七十八年同七十九年アストラハン及一般ニウオルガ地方ニ流行セリ「ベスト」ノ
 流行スルヤ饑饉、洪水、畜疫、汚物蓄積等必ス之カ前驅ト爲リテ先ツ人民ヲ疲弊セシメ次テ大舉

シテ侵襲スルモノトス總テ濕温ナル空氣、陰尾ニ多人數住居スル事、動物性及植物性腐敗物ノ住
 家近邊ニ鬱積スル事、食料ノ缺乏、心身ノ疲勞公私衛生法ノ不注意等ハ本病ノ發生ニ與テカアル
 カ如シ

「ベスト」ノ感染ニハ必スシモ健者ト病者ト觸接スルヲ要セス是レ其室扶斯ニ類スルノ點ナリ但シ
 交通ニ依リテ感染スルハ疑ナキカ如シ故ニ此病毒ハ或ハ空氣ノ媒介ニ因リテ傳播スルヤモ計リ難
 シ

潜伏期ハアルノ一ニ依レハ五日乃至六日ニシテ八日ヲ超エサルモノトスヒルシユハ短キハ二三日
 長キハ八日ニ涉リ平均五日位ナリト云ヘリ
 近世ノ「ベスト」ハ之ヲ三類ニ分ツコトヲ得ヘシ

第一假性「ベスト」鼠蹊、腋窩、頸部等ニ腺腫ヲ發スルモ發熱ヲ來サス患者歩行ニ耐フ腺腫ハ腺病
 性腺腫ト異ニシテ大約十四日ヲ經レハ全癒ス但シ稀ニハ化膿スルコトアリ此症ハ流行時ノ初期ト
 其終期ニ於テ目擊スルヲ常トス然レトモ果シテ傳染性ナルヤ否ハ詳ナラス

第二重症「ベスト」此症ハ普通見ル所ノモノニシテ渾身倦怠シテ關節痛ヲ發シ少時ニシテ惡寒戰慄
 ヲ來ス二日目ヨリ四日目ノ間ニ於テ鼠蹊、腋窩、頸、下顎、顎關節等ニ沿ヒテ腺腫ヲ來シ劇甚ナル
 頭痛ニ伴ヒテ譫妄ヲ發シ顔面潮紅、結膜充血シテ眼球光輝ヲ失ヒ皮膚熱シ舌ハ乾燥シテ黒苔ヲ帶
 ヒ龜裂ヲ生ス時トシテハ舌縁ニ紅色ヲ呈シ中央ニ濃苔ヲ帶ルコトアリ腺腫ハ疼痛ヲ伴ヒテ漸々腫
 脹ノ度ヲ増シ七日目頃ニ至リテ化膿ス此時期ニ達セサルモノハ黒斑「カルブンケル」等ヲ發シテ死

ニ歸ス化膿ハ佳良ノ徵候ニシテ屢々治癒ヲ促スコトアリ
 此類ノ「ベスト」ニ於テハ前驅トシテ頓發ノ眩暈搖擗ヲ發シ瞬時失神スルコトアリ
 最モ重症ナルモノニアリテハ強熱ノ際咯血ヲ來スコトアリ脈ハ發熱期ニ於テ一分時百及至百三十
 搏ニ至リ體温ハ四十度又ハ四十二度ニ達ス發熱歇止スルトキハ體温急速ニ下降シ多量ノ發汗ヲ爲
 シテ暫時間三十三度半ニ至ルコトアリ患者往々頸部ノ熾熱ニ苦シミ胸部ニ刺痛ヲ訴フルコトアリ
 又惡心ヲ發シ膽汁様物稀ニハ咖啡様物ヲ吐出スルコトアリ「ベスト」ハ通例便祕スルモノニシテ若
 シ下痢アルトキハ之ヲ佳候ト見做スコトヲ得ヘシ尿ハ著シキ變化ヲ受ケス粘膜(鼻、肺、胃、腸、陰、
 尿道)ノ出血ハ轉歸不良ノ患者ニ於テ目撃スルヲ常トス
 腺腫ヲ發スルノ前多クハ全身違和ヲ覺ユ但シ稀ニハ腺腫ノ發生緩徐ニシテ患者疾病ニ罹リタルヲ
 自覺セザルコトアリト雖モ多クハ腫脹ヲ來スニ先チテ其腺ニ疼痛ヲ感スルカ故ニ上記ノ如キハ異
 數ニ屬スルモノトス死ニ歸スル患者ニ於テハ腺ノ化膿スルコト稀ナリト雖モ發作ノ初日ニ於テ腫
 起減退シテ扁平ト爲ルハ豫後不良ノ患者ニ於テ最モ多シ發疹ヲ來スモノハ豫後不良ナルモノニ限
 ル其大サハ粟粒大乃至扁豆大ニシテ且非常ニ多ク全身ニ瀰蔓シテ患者早ク已ニ屍色ヲ帶ルコトア
 リ死後ハ一層濃厚トナリテ殆ト黒色ヲ呈スルニ至ル「ベスト」ハ上記ノ症狀ヲ呈スルカ故ニ室扶斯
 又ハ回歸熱若シハ爾餘ノ惡性熱病ト誤診スルノ憂ナシ腺腫ト粘膜炎トハ能ク本病ヲ確診スルノ
 價値アリ

第三劇症「ベスト」此症ハ重ニ「ベスト」流行ノ初期ニ目撃ス患者卒然等... 數時ヲ出スシテ死ス而

シテ本病特有ノ徵候(腺腫「カルブンケン」等)ヲ呈スルコトナシ生前ニ於テ... 神經系統ノ侵害(播
 擲、昏睡)紫斑ノ發生、吐血等ヲ以テ診定スルヲ得ヘク死後剖檢スレハ淋巴腺腫脹ノ初期ニアル
 ナ目撃スルヲ得ヘシ

トツブチルハ千八百七十八年、同七十九年下ウオルガニ於テ「ベスト」ノ研究ニ從事シタリ氏ハ本
 病ノ症候ニ依リテ二種ニ分類セリ

(甲)劇甚ナル前額痛、顛瀉痛、關節痛、強熱、速脈(百二十搏)全身熾熱、腹部膨滿、肝臟腫大(鬱血)等
 ナ以テ始ム兩三日ニシテ發汗ヲ來ス時ハ假令初發ノ衰弱甚シキモ痊癒ノ望アリ然レトモ多クハ兩
 三日ニシテ熱度一層亢進シテ四十二度ニ昇リ譫言ヲ放チ同時ニ不眠不安ニ陥リ舌ハ乾燥シテ裂傷
 ナ呈シ兩便失禁シ尿ハ其量僅微ニシテ紅色ヲ帶ヒ遂ニ死ニ歸ス

(乙)此症ニ於テハ患者卒然心機亢進ヲ起シ脈搏不整ト爲リ嘔吐ヲ發シ時トシテ吐血ヲ來シ瞳孔散
 大ス此際患者非常ニ脱力シテ數時ニシテ發熱譫語ヲ併發ス兩便閉止シ全身ニ斑點ヲ生シ次テ昏睡
 ニ陥リテ死ス此症ニ於テハ腺腫ヲ目撃セズ但シ輕症ノ者ニアリテハ此流行時ニ於テモ屢々腺腫ヲ
 目撃シタリ診斷ハ困難ニアラス腺腫ニ兼テ神經系、循環系、胆汁系ノ重症疾患ヲ發スルハ他病ニ
 類例ヲ見サレハナリ

豫後ノ卜占上腺腫ノ化膿ハ高熱ノ存スルニモセヨ佳候ト見做スコトヲ得ヘシ之ニ反シテ神經性出
 血性胆汁性ノ症候ヲ呈スルハ必然死ニ就クテ期スヘシ下痢モ亦佳候ノ一ニ算入シテ可ナリ
 本病ノ死亡數ハ他ノ流行病ニ同シク一定ナラズ流行ノ初期ニ於テハ非常ニ多ク(九十三乃至百%)

末期ニ於テハ漸々減退スルコト爾餘ノ流行病ニ於ケルカ如シ故ニ之ヲ平均シテ六十乃至七十ノ死亡數ト見做ストキハ大差ナカラン(ヒルシヨハ八十二%ナリト云フ)病體解剖上ノ所見ハ近時新説ヲ聞カス往年ノ剖驗ニ於テハ腦脊膜心囊、網膜、腹膜等ノ出血、脾臟腫大及軟化、腸胃粘膜ノ出血、傷間膜腺ノ暗紅色腎臟ヲ圍繞シタル細胞組織ノ漏血、腎臟腫大腎臟實質ノ出血等ヲ目撃セリ又淋巴腺ハ焮衝ヲ呈シ或ハ全身ノ腺ヲ侵スモノアリ或ハ然ラサルアリ通例腺ハ多少腫大充血シ且血樣液ヲ以テ浸潤セラレ

療法ハ對症療法ノ他未タ詳ナラス或ハ室扶斯療法ノ如クナスモ可ナリ但シ浴ヲ避ケテ温浴ヲ施スヘシ或ハ單ニ洗滌スルモ可ナリ其他適宜ノ滋養物ヲ給シ衝動劑ヲ處スヘシ豫防法ハ個人ニ於テモ公衆ニ於テモ清潔法ヲ行フテ最上トス故ニ住屋又ハ其近傍ニ汚物ヲ蓄積スヘカラス其他個人ハ身心ノ過勞ヲ避ケ飲食其度ヲ過タサル様注意スヘシ消毒法ハ他ノ傳染病ニ則リテ大差ナカルヘシ

●群馬縣告諭第三號 明治三十二年十一月二十二日

「ベスト」病ハ諸種ノ傳染病中最モ猛惡ナルモノニシテ從來支那印度ノ沿岸並ニ臺灣ニ流行セルモ是迄幸ニシテ我内地ニ侵入セザリシカ本月五日廣嶋市ニ於テ「ベスト」患者發見シ神戸市ニ於テモ八日以來陸續播生ノ兆アリ又大坂ニ於テモ該病發生シ何時該病毒ノ侵入スルヤモ計ラレス就テハ各自ニ於テ一層平素ノ攝生ニ留意スヘキハ勿論此際相當ノ豫防準備ヲ爲シ銳意之レカ豫防ニ注意スヘシ

檢疫官吏吏員

檢疫委員長 檢疫委員

●群馬縣訓令甲第九十一號 明治三十年八月十一日
檢疫委員職務章程左ノ通り相定ム

檢疫委員職務章程

- 第一條 檢疫委員長ハ知事ノ命ヲ受ケ檢疫委員ヲ監督シ檢疫豫防ニ關スル諸般ノ事務ヲ掌理ス副委員長ハ委員長ヲ補佐シ委員長事故アルトキハ其職務ヲ代理ス
- 第二條 檢疫委員事務所長ハ所屬檢疫委員ヲ指示シ其郡市内檢疫豫防ニ關スル事務ヲ處理ス副長ハ事務所長ヲ補佐シ事務所長事故アルトキハ其職務ヲ代理ス
- 第三條 檢疫委員ハ檢疫委員長又各郡市ニ於テハ檢疫委員事務所長ノ指示ヲ受ケ檢疫豫防ニ關スル事務ヲ擔任ス
- 第四條 檢疫委員長檢疫委員事務所長ハ知事ノ認可ヲ得テ處務規程ヲ設クルコトヲ得
- 第五條 檢疫委員長ハ左ノ各項ヲ專決スルコトヲ得
 - 一 檢疫委員ヲ管内ニ出張セシムルコト
 - 二 省府縣其他官廳等ニ發病ノ上申報告及豫防消毒執行等ノ件ニ付文書ノ往復ヲナスコト
 - 三 豫算ノ範圍内ニ於テ雇以下採用ニ關スルコト
 - 四 郡市役所、警察署、警察分署ニ對シ豫防消毒ノ施行方法ヲ通達スルコト
- 第六條 檢疫委員事務所長ハ左ノ各項ヲ專決スルコトヲ得
 - 一 所屬檢疫委員ヲ郡内ニ出張セシムルコト

二 豫算ノ範圍内ニ於テ雇以下採用ニ關スルコト

●群馬縣訓令第六十六號 明治三十三年六月十五日

内務部 警察部 檢疫委員本部 檢疫委員事務所

檢疫委員タル醫師藥劑師旅費支給額左ノ通相定メ其支給方法ハ明治三十年(九月)勅令第三百三十三號ノ規定ヲ準用ス

日 當 一日 金 五 拾 錢 宿 泊 料 一 夜 金 壹 圓
車 馬 賃 一 里 金 拾 五 錢 瀝 車 賃 一 哩 金 四 錢

●群馬縣訓令第八十六號 明治三十三年七月二十日

内 務 部 警 察 部 檢 疫 委 員 本 部

檢疫委員事務所 郡役所 警察署 警察分署

傳染病患者又ハ之ニ疑ハシキ者アリタルトキ檢疫ノ爲メ醫師雇上ノ場合ハ左ノ手當及旅費ヲ支給ス

明治二十八年八月訓令甲第六十二號ハ廢止ス

手 當 一 日 金 貳 圓 旅 費 一 里 金 貳 拾 錢

●群馬縣訓令第七十一號 明治二十八年七月一日 内務部 警察部 警察署 警察分署

檢疫事務助勤巡查旅費月額支給規則左ノ通り相定ム

檢疫事務助勤巡查旅費月額支給規則(赤痢病豫防出張巡查旅費月額支給規則ハ) (二十九年訓令甲第八十五號ニ規定アリ)

第一條 傳染病檢疫事務助勤トシテ他署ヘ十五日以上ノ出張ヲ命シタル巡查ハ普通旅費ヲ給セズ月額金九圓ヲ支給ス

第二條 前條月額支給者ノ往復ハ普通旅費ヲ支給ス

第三條 旅行日數一ヶ月ニ滿タサル場合ハ日割ヲ以テ支給ス

但日割ハ一ヶ月ヲ三十日トシ計算スヘシ

第四條 旅費月額ハ翌月五日以内ニ請求スヘシ

第五條 本則規定外ニ係ル支給方ハ總テ警察官吏其他旅費概則ニ依ル

●群馬縣訓令甲第八十五號 明治二十九年七月十六日 内務部 警察部 警察署 警察分署

赤痢病豫防出張巡查旅費月額支給規則左ノ通り相定ム

赤痢病豫防出張巡查旅費月額支給規則

第一條 赤痢病豫防ノ爲メ出張ヲ命シタル巡查ニハ知事ノ認可ヲ得テ旅費月額金拾貳圓ヲ支給スルコトヲ得

第二條 前條月額支給者中他署ヨリ助勤ニ係ル者ノ往復ハ普通旅費ヲ支給ス

第三條 旅行日數一ヶ月ニ滿タサル場合ハ日割ヲ以テ支給ス其日割ハ一ヶ月ヲ三十日トシテ計算スヘシ

第四條 旅費月額ハ翌月五日限リ請求スヘシ

●群馬縣訓令甲第二十六號 明治三十二年四月一日

內務部 警察部 檢疫委員本部 郡役所 警察署 警察分署
檢疫委員旅費ハ自今內國旅費規則及警察官吏其他內國旅費概則ニ依リ之ヲ支給ス

市町村傳染病豫防補助費

●群馬縣令第十五號 明治三十一年二月二十二日

明治三十年三月法律第三十六號傳染病豫防法第二十四條ニ依レル市町村傳染病豫防費補助規程左
之通り相定ム

市町村傳染病豫防費補助規程

- 一 傳染病豫防法第二十一條第四號第七號及第二十三條第二項ノ支出ニ對シテハ其精算額ノ五分
ノ一其他第二十一條各號ノ支出ニ對シテハ其精算額ノ六分ノ一ヲ縣稅ヨリ補助ス
 - 同法第二十一條第四號中建設費ノ支出ニ限リ特ニ其精算額ノ四分ノ一ヲ補助ス
 - 二 前項ノ場合ニ於テ支出ニ伴フ收入アルトキハ支出總額ヨリ其收入ヲ控除シタル額ニ對シ前項
ノ歩合ヲ以テ之ヲ補助ス
 - 三 市町村ノ支出其負擔ニ堪ヘスト認ムルトキ又ハ特別ノ事由アルトキハ其費途ニ限リ若クハ支
出總額ニ對シ全額迄ヲ補助スルコトアルヘシ
 - 四 補助ハ現品ヲ以テ之ヲ交付スルコトアルヘシ此場合ニ於テハ時價ニ依リ之ヲ金額ニ換算ス
- 群馬縣訓令甲第三十四號 明治三十一年三月二十三日

內務部 警察部 郡役所 市役所 町村役場

市町村傳染病豫防費補助規定取扱手續左之通相定ム

市町村傳染病豫防費補助規定取扱手續

- 第一條 市町村ニ於テ明治三十一年二月群馬縣令第十五號傳染病豫防費補助規定ニ從ヒ縣稅ノ補
助ヲ請フトキハ左ノ書類ヲ添ヒ所轄郡役所ヲ經テ(市ニ在テハ)直ニ縣廳ニ申出ヘシ
- 一 當該年度經常部臨時部歳入出豫算表(市町村費中區費組合費其他特別經濟ニ屬スル分トモ)
 - 二 傳染病豫防法第二十一條第四號第七號及第二十三條第二項ノ支出精算調書
 - 三 同法第二十一條第一號第二號第三號第五號第六號ノ支出精算調書
 - 四 同法第二十一條第四號中建設費內譯精算調書
 - 五 左記ノ稅額調書(本稅ニ對シ市町村稅ヲ附加セサル場合ト雖モ各其本稅額ヲ記入スヘシ)又
市町村費中區費組合費其他特別經濟ニ屬スルモノハ之ヲ區別スヘシ)
 - 一 地租額及之レニ附加スル市町村稅額
 - 一 營業稅額(國稅)及之レニ附加スル市町村稅額
 - 一 營業稅雜種稅額(縣稅)及之レニ附加スル市町村稅額
 - 一 營業稅附加稅(縣稅)及之レニ附加スル市町村稅額
 - 一 戶數制縣稅額及之レニ附加スル市町村稅額
 - 一 所得稅額及之レニ附加スル市町村稅額
 - 六 傳染病豫防費中患者ノ食費藥價等ヲ徵收シ又ハ其他ノ收入アルトキハ第一條第二第三第四

ノ各項ニ區分シタル收入金額調書

七 天災時變其他特別ノ事由ニ依リ其負擔ニ堪ヘサルトキハ其事由

第二條 郡役所ニ於テ前條願書ヲ受ケタルトキハ審査ヲ遂ケ其意見ヲ附シ進達スヘシ

●群馬縣訓令甲第一號 明治三十二年一月九日 郡役所 市役所 町村役場

明治二十一年三月訓令甲第三十四號市町村傳染病豫防費補助規定取扱手續ニ依リ市町村ヨリ差出スヘキ書類ハ左ノ書式ニ據ルヘシ

(書式畧ス)

「インフリュエENZA」

●群馬縣令第六十六號 明治二十五年十月三十一日

醫師「麻疹病又ハ」インフリュエENZA「(流行性感胃)病者ヲ診察治療シタル時ハ其患者及死亡數ヲ毎月一表ニ調製翌月五日迄ニ縣廳ヘ差出スヘシ

但明治十八年二月丁第七號及明治二十四年二月訓令甲第十四號ヲ廢ス

●群馬縣告諭第一號 明治二十四年一月二十六日

目下各地ニ流行スル「インフルエENZA」(流行性感胃)ノ儀其本性ニ於テハ敢テ恐ルヘキモノニ非サルモ若其經過宜シキヲ失フトキハ終ニ心臟病又ハ肺炎等ヲ繼發シ往々危險ニ陥ルコトアルヲ以テ豫防ヲ怠タラサルハ勿論患者ハ殊ニ治療攝生等ヲ忽カセニス可ラス

醫藥 產婆 鍼灸

醫師

●群馬縣令第十七號 明治二十九年二月十二日

公立又ハ私立病院ヲ設置セムトスルトキハ左ノ各項ヲ具シ縣廳ニ届出ヘシ

但規則其他ノ改正變更又ハ廢院ノ節モ其旨届出ヘシ

明治二十一年七月縣令第三十九號ハ廢止ス

一 位置名稱及管理ノ規程

一 施療ノ種別(内科、外科、眼科等ノ類)

一 管理者、醫長、醫員、調劑掛、事務員、看護人ノ氏名並職務規程

一 診察所、手術室、藥室、病室其他ノ坪數及圖面並病室ノ種別

一 醫療器械病室附屬器具消毒器具ノ品目

一 食費診察料手術料藥價及出納等一般病院ニ關スル規則

前各項中不完全ノ點アリト認メタルトキハ之ヲ改メシメ又ハ病院ノ名稱ヲ附セシメサルコトアルヘシ

●群馬縣訓令甲第十三號 明治二十九年二月十七日

本年二月縣令第十七號ニ依リ公立又ハ私立病院開設ノ届出アリタルトキハ郡市長ハ届書各項ヲ調

査シ入院施療ニ適スルヤ否ニツキ意見ヲ具シ縣廳ニ進達スヘシ

但從前病院ト稱スルモノモ更ニ此際届出サシムヘシ

●群馬縣丁第六十八號 明治十八年七月二十八日

公(私)立病院

公私立病院ニ於テ治療ニ從事スル醫員ハ醫術開業免狀所持ノ者ニ限り候儀ト心得ヘシ

●群馬縣甲第四十八號 明治十八年七月四日

醫師取締規則別冊ノ通相定ム

但從前ノ布達々中此規則ニ抵觸スル廉ハ消滅ノ義ト心得ヘシ

(別冊)

醫師取締規則

第一條 醫術ヲ開業セントスル者ハ免狀寫及履歷書相添縣廳ヘ届出ヘシ

但他府縣ヨリ寄留スル者又ハ休業ノ後更ニ開業スル者モ本條ニ準ス

第二條 居住町村外ヘ轉籍寄留スル者又ハ自己ノ都合ニヨリ一時休業スル者ハ其旨縣廳ヘ届出ヘシ

第三條 他府縣ノ醫師本縣下ヘ出張所ヲ設ケントスルトキハ免狀寫ヲ添ヘ縣廳ヘ届出ヘシ

但本縣下ノ者ニシテ出張所ヲ設ケントスル者モ本條ニ準スヘシト雖モ免狀寫ヲ添フルニ及ハス

第四條 前條出張所ヲ廢止シタルトキハ一週日以内ニ縣廳ヘ届出ヘシ

第五條 出張所ニ置ク代診者ノ儀ハ明治十七年七月本縣丁第二十七號達ニ準據スヘシ

第六條 開業免狀ヲ毀損亡失シ又ハ氏名本籍 變換ニ由リ免狀ノ書換ヲ要スル場合ニ於テハ醫師

免許規則第八條ニ由リ一週間以内ニ願書ヲ縣廳ヘ差出スヘシ

第七條 廢業又ハ死亡ノ節ハ醫師免許規則ニ從ヒ一週間以内ニ免狀ヲ添ヘ縣廳ヘ届出ヘシ

第八條 種痘術ヲ施サントスル者ハ其旨縣廳ヘ届出ヘシ

但齒科(又ハ口中科)整骨科専門醫ハ種痘術ヲ爲スコトヲ得ス

第九條 診察ヲ爲サル患者ニ藥劑又ハ處方書ヲ與フル事ヲ得ス

第十條 死体ヲ解剖セントスルトキハ其願書ヘ施術ノ場所時日ヲ記シ之ニ本人ノ願書若クハ其至

親二名以上連署ノ書面ヲ添ヘ縣廳ヘ出願許可ヲ得ヘシ

第十一條 醫師免許規則第五條ニ由リ免許ヲ得タル假開業醫師ハ免許區域外ニ出テ、區域外ノ患

者ヲ診察治療スルコトヲ得ス

但區域外ノ者ト雖モ區域内ニ來リテ診察治療ヲ乞フ者ハ此限リニアラス

第十二條 前數條ノ願書ハ戸長與書「ニ衛生委員一名ノ連署」ヲ要ス

但第三條他府縣ノ醫師本縣下ヘ出張所ヲ設ケントスルトキノ届書ハ別ニ其居住地區戸長ノ添

書ヲ要ス

●群馬縣丁第二十七號 明治十七年七月十二日

公私立病院 開業醫師

自今出張所ニ置ク代診者ハ開業免狀若クハ卒業証(醫學全科卒 業証ニ限ル)所持ノ者ニ限ル且其屬籍姓名等ハ所

轄那役所ヲ經テ縣廳ヘ届出ヘシ

但代診者變換ノ節モ届出ヘシ

●群馬縣甲第四十二號 明治十六年七月九日

他府縣下ニ於テ從來開業セシ醫師產婆(内務省免狀ヲ所
持セサルモノ)及針灸治療接骨師入齒師本縣下へ轉寄留ノ
上開業セント欲スルトキハ醫師ハ元管應產婆針灸治療接骨師入齒師ハ同ク郡區役所ヨリ從來開業
ノ者タルヲ証セル添書ヲ請ク所轉郡役所ヲ經テ縣廳へ出願スヘシ此旨布達候事

●群馬縣甲第五十一號 明治十八年七月八日

自今新ニ入齒齒抜口中療治療接骨術等ヲ開業セントスル者ハ明治十六年(十月)太政官第三十四號布
達醫術開業試驗規則ニ依リ試驗ヲ經テ免狀ヲ受クヘシ

●群馬縣甲第七十四號 明治十五年十月二十日

内務省免許及本縣舊開業醫ニ非サル整骨科口中科(本縣開業假免許証ヲ附與セシ
者及願書ニ開加指令モシモノ)ノ儀自今接骨師入齒師
ト改稱候條醫師ノ部内ニ非ル儀ト可相心得此旨布達候事

「但本文ノ醫師ニ非サル者へ從前下附セシ二科ノ鑑札ハ引直シ下附スヘキニ付來ル十一月三十日
迄ニ一旦相納ムヘシ」

●群馬縣令第十九號 明治二十七年四月十六日

入齒師出張所ニ置ク代理者ハ免許ノモノニ限ル且其族籍姓名等ハ所轉警察官署ヲ經テ縣廳へ届出
ツヘシ

●群馬縣訓令甲第二號 明治二十二年一月十二日

「戸長」役場

今般内務省衛生局ニ於テ醫籍刊行可相成候ニ付醫術開業免狀所持ノ者ハ總テ本月三十一日限り現
住所及免狀番號ヲ記シ直ニ同局へ届出候様指示スヘシ

但本文届出後住所ヲ轉セシ者ハ其都度届出サシムヘシ

●群馬縣乙第四十四號 明治十六年七月九日

「戸長」役場 「衛生委員」

醫師產婆針灸治療接骨師入齒師自今轉籍寄留改姓名又ハ廢業死亡(開業等ノ証ヲ所持スル者他府縣へ轉籍寄
留スル歟又ハ廢業死亡ノ節ハ該証ハ届書
ハ添へ返納サセ改姓名ニ係ル者
ハ書替ノ儀同様出願致サスヘシ)ノ節ハ其旨所轉郡役所ヲ經テ縣廳へ可爲届出此旨相達候事

但甲郡ヨリ乙郡へ(此限ニアラス)轉籍寄留スル者ハ甲郡役所ヲ經テ縣廳へ爲届出然シテ別ニ乙
郡役所へ其旨届出サスヘシ

●群馬縣乙第七十四號 明治十九年七月十九日

「戸長」役場

明治十八年七月本縣甲第五十一號布達以前ニ係ル入齒々抜口中療治療接骨術營業者ニシテ他府縣へ
移轉ノ上尙其業ヲ營マントスル者ハ其旨届出從來營業者タルノ證明書ヲ乞ハシメ該府縣廳へ届出
サスヘシ

右相達候事

●群馬縣令第九十四號 明治三十三年十一月二日

明治三十三年九月内務省令第四十一號ニ依リ醫師ノ作爲スヘキ死亡診斷書死體檢案書及醫師又ハ
產婆ノ作爲スヘキ死産證書死胎檢案書ノ様式並ニ其ノ記載方ハ左ノ各項ニ準據スヘシ

第一 死亡診斷書、死體檢案書

(様式) 死亡診断書 (死體検案書)

- 一 氏名
- 二 男女ノ別
- 三 出生ノ年月日
- 四 職業(死亡者ノ職業、家計ノ主ナル職業)
- 五 病死、自殺、其他ノ變死、中毒ノ別
- 六 病名(自殺者ニ在テハ 手段 自殺以外ノ變死者及中毒者ニ在テハ 種類)
- 七 發病ノ年月日(變死者自殺者等ニ在テハ之ヲ除ク)
- 八 死亡ノ年月日時
- 九 死亡ノ場所

右證明(檢案)候也

年 月 日 住 所 醫師 何 某 印

記載例

- 一 戸籍上ノ氏名ヲ記スヘシ自殺者變死者等ニ在テ若シ氏名明カナラサルトキハ不詳ト記スヘシ
- 二 經久ノ死體ニシテ男女ノ區別明瞭ナラサルトキハ不詳ト記スヘシ
- 三 自殺者變死者等ニシテ出生ノ年月日明瞭ナラサルトキハ推定年齢何歳ト記シ若シ推定シ能ハ

サル場合ニ於テハ不詳ト記スヘシ

四 死亡者家計ノ主動者ナル場合ニ於テハ死亡者ノ職業ノミヲ記シ死亡者若シ幼者、老者、婦女等ニシテ一定ノ職業ナキ場合ニ於テハ家計ノ主ナル職業ヲ記シ死亡者ノ職業無シト記スヘシ又死亡者一定ノ職業アルモ他ニ家計ノ主働者アル場合ニ於テハ死亡者ノ職業ト家計ノ主ナル職業トヲ併記スヘシ

總テ職業名又ハ工等單一ノ汎稱ニ據ラスシテ何商又ハ何工等成ルヘク細密ニ記スヘシ自殺者變死者等ニ在テ其職業明カナラサル場合ニ於テハ不詳ト記スヘシ

五 病死ナルヤ自殺ナルヤ若クハ自殺以外ノ變死ナルヤ中毒ナルヤノ別ヲ記スヘシ

六 病死ノ場合ニ於テハ其死因トナリタル病名ノ外何等ノ事項ヲモ記スヘカラス

同時ニ二種以上ノ疾病ニ侵サレ死亡シタル者ニシテ一ノ原病アリテ他ハ繼發病若クハ胎後病ナルトキハ其原病名ノミヲ記シ又各種獨立ノ疾病ナルトキハ主トシテ死亡ノ原因トナリタル病名ノミヲ記スヘシ若シ以上ノ區別ヲ爲シ能ハサルトキハ各種ノ病名ヲ併記スヘシ

全ク死因タル病名ヲ診定シ能ハサルトキハ不詳ト記スヘシ

自殺者ニ在テハ其自殺ノ手段例之ハ縊死、又傷、入水等ノ別ヲ記スヘシ

自殺以外ノ變死者及中毒者ニ在テハ其種類例之ハ溺死、壓死、燒死、他殺、河豚中毒「アル

コール」中毒等ノ別ヲ記スヘシ

- 年何月何日ト記スヘシ又全ク推定シ能ハサル場合ニ於テハ不詳ト記スヘシ
- 八 病死、自殺、變死、中毒ニ拘ハラヌ死亡ノ年月日時ヲ記スヘシ若シ自殺者變死者等ニ在テ死亡ノ時明瞭ナラサルトキハ推定セル年月日時ヲ記スヘシ此場合ニハ推定ノ二字ヲ冠スルヲ要ス
- 九 死亡ノ場所ハ郡市町村大字名及番地若ハ地番ヲ記スヘシ若シ自殺者變死者等ニシテ漂著セル死體ナルトキハ其漂著シタル場所ヲ記スヘシ此場合ニハ其下ニ漂著ト記スルヲ要ス

第二 死産證書 死胎檢案書

(様式)

死産證書 (死胎檢案書)

- 一 父ノ氏名(私生子ノ場合ニ在テハ 母ノ氏名)
- 二 父ノ出生ノ年月日(私生子ノ場合ニ在テハ之ヲ除ク)
- 三 母ノ出生ノ年月日
- 四 父ノ職業(私生子ノ場合ニ在テハ 母ノ職業)
- 五 妊娠ノ月數
- 六 分娩ノ年月日時
- 七 分娩ノ場所
- 八 死胎ノ男女ノ別
- 九 死胎ノ嫡出子、庶子、私生子ノ別

右證明(檢案)候也

年 月 日

住 所

醫師(産婆) 何

某 印

記 載 例

- 一 死胎ノ嫡出子ナルカ又ハ庶子ナルトキハ其父ノ氏名ヲ記スヘシ若シ私生子ナルトキハ其母ノ氏名ヲ記スヘシ
- 二 死胎ノ嫡出子ナルカ又ハ庶子ナルトキハ其父ノ出生ノ年月日時ヲ記スヘシ
- 三 死胎ノ何タルニ拘ハラヌ其母ノ出生ノ年月日時ヲ記スヘシ
- 四 死胎ノ嫡出子ナルカ又ハ庶子ナルトキハ其父ノ職業ヲ記スヘシ若シ私生子ナルトキハ其母ノ職業ヲ記スヘシ
- 五 總テ職業名ハ商又ハ工等單一ノ汎稱ニ據ラスシテ何商又ハ何工等成ルヘク細密ニ記スヘシ 妊娠ノ月數ハ受孕ヨリ分娩ニ至ル妊娠ノ經過ニシテ死胎ハ四週日ヲ一月ト做シタル第幾月日ニ該當スルカヲ記スヘシ
- 六 分娩ノ年月日時ヲ記スヘシ若シ明瞭ナラサルトキハ推定シタル年月日時ヲ記スヘシ此場合ニハ推定ノ二字ヲ冠セシムルヲ要ス
- 七 分娩ノ場所ハ郡市町村大字名及番地若ハ地番ヲ記スヘシ
- 八 死胎ノ男女孰レニ屬スルカヲ記スヘシ若シ鬼胎等ニ在テ男女ノ區別ヲ爲シ能ハサル場合ニ於

テハ其事由ヲ添テ不詳ト記スヘシ
 九 死胎ハ嫡出子ナルカ又ハ庶子ナルカ若クハ私生子ナルカノ別ヲ記スヘシ
 ⑩ 群馬縣丁第二十七號 明治十三年十一月十八日 公立病院 開業醫師
 是迄差出候診斷書認方區々ニシテ取調上不都合モ有之ニ付向後官ニ對スル診斷書ハ總テ左ノ書式ニ據リ醫按其他共記載可致此旨相達候事(死亡診斷書式ハ三十三年內務省訓令第二十八號ニヨリ消滅)
 書式

診 斷 書

何府(縣)華(士)族平民
 國郡町(宿村)番地(寄留或ハ何之誰何男女何附籍)
 職 業

姓

名

年

齡

體 質

患者ノ體質強弱ヲ記シ死體檢按ハ此項ヲ省ク
 病名外傷ニ係ルモノハ刀傷火傷打撲溺死縊死ト題スルカ如シ餘ハ之ニ倣フ

原 因

傳染性ノ患者及中毒ハ感染或ハ獨發飲食其他發病ノ起因ヲ精細ニ記載ス其病傳染性ニ非ル者

及ヒ外傷ノ如キ原因ヲ記シテ益ナキモノハ此項ヲ省ク

症 候

現症ノ要領ヲ詳記シ疵アルモノハ疵ノ大小形狀或ハ死体ノ形狀ヲ記ス

經 過

初期ヨリ終期迄諸症ノ進退及ヒ變化ノ景况ヲ記ス又發病後日ヲ經テ診斷シ或ハ死後ニ診斷スルカ如キ初期ノ知り難キモノハ其理由ヲ記シ診斷以後ノ經過ヲ揭ク死體檢按ハ此項ヲ省ク

豫 後

頁不頁或ハ治不治等ヲ記ス又其病院ニ據リ明記シ難キモノハ題名ヲ揭クテ未詳ノ二字ヲ記シ又死體檢按ハ此項ヲ省ク

處 方

内服外用共ニ記載シ死體檢按ハ此項ヲ省ク

發 期

發病ノ月日時刻ヲ記ス

診 察 月 日

初テ診察セシ月日時刻ヲ記ス

終 期

治癒死亡ノ月日ヲ記ス(死亡ハ時刻ヲ加入ス)又患者治癒或ハ死亡前ニ診斷書ヲ出シ終期ノ知り難キモノ

ハ此項ヲ省ク
右之通診斷候也

年 號 月 日

國郡町(宿村)番地

公(私)立何病院印

或ハ

國郡町(宿村)番地或ハ寄留

開業醫師

姓

名 印

群馬縣令宛

郡 役 所

●群馬縣丙第二百二十六號 明治十三年十一月十八日

醫師診斷書式ノ儀ニ付丁第二十七號ノ通公(私)立病院並開業醫師へ相達候條爲心得此旨相達候事

●群馬縣告示第二十七號 明治二十四年五月十一日

本年五月内務省令第三號ニ據リコソキ結核病治療液使用ノ認可ヲ受クントスル者ハ其書面ニ左ノ事項ヲ記入スヘシ

一 院長若クハ醫師ノ履歷

一 病室ノ數其廣狹又該患者ヲ入ルヘキ豫定數

一 助手及看病人ノ數其每人ニ受持タシムヘキ患者ノ豫定數

但助手ハ履歷ノ概略ヲ添フヘシ

一 結核菌ヲ檢スルニ必要ナル顯微鏡ノ有無其他檢査用ノ器具

●群馬縣無號 明治十六年七月十八日

公私立病院 開業醫師

別冊病類細目要領内務省衛生局ヨリ通報有之候ニ付願付候條自今死亡届ハ右ニ照準記載候様可致此旨相達候事

(別冊)

病類細目要領

傳染性病

腸室扶斯、發疹室扶斯、赤痢、亞細亞虎列刺、實布の里亞、格魯布、義膜炎、痘瘡、變痘、水痘、麻疹、猩紅熱、脚氣、間歇熱、羅斯、膿毒症、敗血症、病院脱疽、百日咳、產褥熱、流行性、耳下腺炎、惡性睡腺炎、流行性腦脊髓膜炎、急性關節癱瘓質私、急性レウマチス熱花柳病淋病、梅毒、下疳動物性病恐水病、炭疽熱、其他傳染性疾患、馬鼻疽

發育及營養病

(發育的疾患、體質的疾患)初生兒ノ生活薄弱、産兒窒息、造構異常、畸形産、齒牙病、生齒ニ因スル諸病、腺病、佝僂病、小兒營養消耗症、癩病、全身水腫、糖尿病(密尿)尿崩(無味尿)脱疽、癌及腫瘍營養消耗、矢荷兒倍爾、貧血、白血病、甲狀腺腫、紫斑病(ウエルホフ非ル氏發斑病)フシオン氏病(銅色病)其他營養及發育ノ障害

皮膚及筋肉病

血瘍皮下結締組織癩衝、筋肉炎、水脈炎、初生兒ノ結締組織硬化症、臍諸患、漸進性筋肉萎縮、其他ノ皮膚及皮下結締組織ノ疾患

骨及關節病

骨及關節病、骨炎、骨膜炎、骨髓炎、骨瘍エス、疽關子ケロ、關節膿瘍、骨軟化、其他骨及關節ノ疾患

血行器病

心齋炎(心嚢水腫ヲ含ム)心臟肥大、心臟膨大、瓣膜病、心臟破裂、心臟麻痺、心臟脂化、動脈疾患、靜脈疾患、其他血行器ノ疾患

神經系統及五臟器病

腦膜炎、腦水腫、腦炎、卒中、腦麻痺、腦貧血、腦充血、精神病、癲狂、脊髓炎、脊髓膜炎、脊髓勞、脊髓麻痺(脊髓軟化ヲ含ム)子痲、癩癩、舞蹈病、破傷風、牙關緊急、其他ノ癱瘓搖擗、驚癇、其他神經病ヲ含ム、耳病、眼病

呼吸器病

喉頭炎、喉頭氣管支炎、急性氣管支炎、毛樣氣管支炎、慢性氣管支炎、肺炎、肺勞、肺結核、咯血、肺氣腫、喘息、肺壞疽、肺水腫、胸膜炎(胸水ヲ含ム)其他呼吸器ノ疾患

消化器病

口舌疾患、耳下腺疾患、胃管疾患、下腹炎、腹膜炎、下腹膿腫、骨盤膿腫、腹水、脫腸、腸管萎

塞、胃加答兒、胃潰瘍、胃狹窄、吐血、腸出血、腸破裂、下痢、腸加答兒、吐瀉病、即霍亂、胃腸炎、疝病、腸勞、腸間膜勞、脾臟疾患、膽石病、黃疽、肝臟炎、急性肝臟消耗症、慢性肝臟消耗症、其他消化器ノ疾患

泌尿生殖器病

尿道及膀胱炎(其他ノ膀胱疾患及男子生殖器ノ諸患ヲ含ム)尿毒、石淋、腎臟諸病、女子生殖器病、子宮外妊娠、流產、子宮破裂、妊娠及分娩(乳房膿腫ヲ含ム)子宮疾患(分娩產褥ニ非サルモノ)卵巢諸患

外襲性變死

火傷、凍傷、日射病、電擊、燃發、壓死及誤死、怪我、相擊、銃創、切創、刺創、咬創、手術出血、窒息、縊死、絞殺、溺死、自殺

中毒病

動物性及植物性毒、礦物性毒、毒性瓦斯、亞爾簡保兒中毒

一此類別中其他ノ疾患云々ト記載セシハ該類別中ニ列舉スヘキ各病名ヲ省略セシユヘナリ

◎群馬縣訓令甲第二十四號 明治三十一年三月八日 郡役所 市役所 町村役場

醫術開業試驗並藥劑師試驗願書ハ左ノ各項ヲ調査シ適否ニ關シ市町村長意見ヲ付シ進達スヘシ

一明治二十四年十一月內務省告示第五十七號ノ願書並ニ寫真ノ調査

一醫術開業試驗規則第八條ノ調査

但後期試驗出願者ノ履歴ハ左ノ例ニ據ル

前期試驗出願ノ時已ニ三ヶ年以上修學シタルモノハ前期試驗及第後一ヶ年半以上ノ修學ヲ要セヌ出願スルコトヲ得

前期試驗出願ノ時一ヶ年半以上修學シタルモノハ其前後ノ修學年月ヲ通算シ三ヶ年以上ノ學歴アルモノハ前項同様出願スルコトヲ得

前期試驗及第後一ヶ年半以上ノ學歴アルモノハ前期修學ノ履歴ヲ記載セサルモ妨クナシ一同則第九條ノ但書ノ保證ノ調査

官立府縣立醫學校又ハ私立醫學校卒業證書若クハ前期試驗及第證書及學說合格承認證等ハ本書ヲ點檢シ疑ナキモノハ其謄本ヲ徵シ疑アルモノハ其旨ヲ附記シ本書ヲ進達スヘシ

一出願者中醫事ニ關シ犯罪若クハ不正ノ行爲アリト認ムル時ハ其事實ノ詳記

●群馬縣訓令甲第二十五號 明治二十五年三月廿九日 郡役所 町村役場

本年三月内務省令第一號ヲ以テ醫師並藥劑師免狀新規及書替手数料ハ登記印紙ヲ以テ納ムヘキ旨定メラレタルニ付テハ免狀下付ノ節受書ヘ其金額相當ノ印紙ヲ貼付セシム可シ

藥 種

●群馬縣令第十三號 明治二十三年二月二十六日

藥種商製藥者取締細則左ノ通相定ム

藥種商製藥者取締細則

第一條 藥種商及製藥者タラント欲スル者ハ縣廳ヘ出願免許鑑札ヲ受クヘシ

第二條 藥種商及製藥者免許鑑札ヲ毀損亡失シ又ハ族籍氏名ヲ變換スル等鑑札面ニ異動ヲ生シタルトキハ其事由ヲ詳記シ再渡又ハ書換ヲ出願スヘシ

第三條 藥種商及製藥者廢業死亡又ハ他府縣轉住等ノ節十日以内ニ鑑札ヲ返納スヘシ

但死亡者ハ相續人ニ於テ其手續ヲナスヘシ

第四條 製藥者ハ左式ノ看板ヲ店頭ニ掲クヘシ

豎三尺

製藥者ノ印

○群馬縣製藥者
免許
何之誰

第五條 藥種商及製藥者ハ醫療用外ニ供スル藥品ハ其容器ニ醫療用外ノ名箋ヲ貼シ若クハ醫療ト

其置場ヲ異ニスヘシ

第六條 製藥者ハ製藥ノ封緘ニ貼用スヘキ印紙ヲ新調又ハ改訂シタルトキハ見本相添ヘ縣廳ヘ届出ヘシ

但封緘用印紙ノ衛生試驗所檢査印紙ニ紛ハシキモノト認ムルトキハ改訂ヲ命スルコトアルヘシ

第七條 製藥者ハ毎年一月ヨリ十二月迄製造セシ各藥品統計表ヲ調製シ翌年一月三十一日限縣廳
ハ差出スヘシ

第八條 藥劑師ニシテ藥局ヲ開設セス單ニ藥品販賣及製造ノ業ヲ營マントスルモノハ其旨縣廳ヘ
届出ヘシ廢業シタルトキ亦同シ

但第五條第六條第七條ヲ遵守スヘシ(二十三年縣令三十號ニテ三字刪除)

附 則

第九條 此細則施行以前當廳ヨリ附與シタル藥種商免許鑑札ハ有効ノモノトス

第十條 從前內務省ヨリ免許ヲ得タル製藥者ハ更ニ縣廳ヨリ免許鑑札ヲ下付スヘキヲ以テ來ル三
月十日迄ニ願出ヘシ

第十一條 明治九年五月本縣第八十九號製藥免許手續同十五年一月本縣甲第三號藥舖並藥種商規
則ハ此細則施行ノ日ヨリ廢止ス

第十二條 此細則ハ本年三月一日ヨリ施行ス

群馬縣告示第四十四號 明治三十年四月一日

明治三十年三月法律第二十七號阿片法第五條ニ依リ阿片卸賣人左ノ通り指定ス

- 前橋市本町二十二番地 藥劑師 飯塚 政吉(三十二年告示百一號ニテ指定)
- 藥劑師 黑崎 長左衛門
- 群馬郡高崎町大字九藏町二十七番地
- 藥劑師 飯塚 政吉(三十二年告示百一號ニテ指定)

利根郡沼田町四百五十番地

藥種商 桑原 三之助

佐波郡伊勢崎町三百八番地

藥劑師 膳 淺次郎

同 郡境町五十九番地

藥種商 中澤 莊左衛門

新田郡太田町百六十九番地

藥劑師 武川 六太郎

北甘樂郡富岡町大字富岡町二百二十三番地

藥劑師 伊藤 寅吉

前橋市桑町九番地

藥種商 馬場 常七(三十二年告示百一號ニテ追加)

群馬縣告示第二十一號 明治十五年六月二十四日

石炭酸其外劇藥ニシテ傳染病流行ノ際豫防藥調製候分ハ藥種商ニ於テモ明治十三年五月太政官第
二十三號布告ニ準據出願不苦候條此旨告示候事

群馬縣令第七十一號 明治二十二年十一月十三日

何人タリトモ格魯兒酸加溜謨(コロルガール)鹽素酸加溜謨(エンソルガール)又ハ鹽酸加里(エンサンカリ)ヲ賣買授受スルトキハ豫メ其斤量及需
用ノ目的ヲ詳記シ賣買授受者連署シ賣主授主所轉ノ警察署警察分署ニ届出認可ヲ受クヘシ

但警察官ハ臨時其現品ヲ検査スルコトアルヘシ
前項ノ手續ニ違背シテ賣買授受ヲ爲シタルモノハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料又ハ三日以上
十日以下ノ拘留ニ處ス

●群馬縣令第十號 明治二十三年二月十二日

明治二十二年十一月群馬縣令第七十一號中何人タリトモトアレトモ醫師獸醫藥劑師藥種商製藥者
ニハ同縣令ヲ適用セサルモノトス(二十六年縣令四十六號
ニテ獸醫ノ二字追加)

賣藥

●群馬縣乙第六號 明治十年三月二十六日 「正副區長」「醫務取締世話役」

本年一月太政官第七號賣藥規則公布相成候ニ付テハ左ノ手續書及書式雛形ニ照準可取扱旨今般内
務省ヨリ達有之候ニ付賣藥營業者並請賣行商等ノ者ニ至ル迄條目相心得已ニ「本年二月本縣第四
十號」「本月乙第一號達」ニ據リ受賣鑑札出願候者ト雖モ更ニ書式雛形ノ通引直シ出願可致旨營業
ノ者共ヘ可相達候事

一昨明治八年七月以降内務省ニ於テ下附候賣藥鑑札ハ追テ相達候迄免許發賣共當分書替爲願出ニ
不及規則公布後相渡候鑑札同様相心得ヘシ

「一前條ノ鑑札所持ノモノ營業免許年季ハ其鑑札ニ記載ノ月ヨリ起算スヘシ」最税金ノ儀ハ本年分
ヨリ徵收スヘキニ付昨九年マテノ分ハ納メシムルニ及ハス

但鑑札料ハ總テ上納爲致定期納附ノ節勘定帳ニ其區分ヲナスヘシ

一前條營業鑑札所持ノ賣藥ヲ請賣又ハ行商業致シ居候分來ル四月卅日迄ニ悉皆爲願出鑑札交附取
計フヘシ

一明治八年七月以降本年一月規則發行前ノ營業鑑札所持ノモノニ限り本年一月ヨリ六月マテノ内
廢業届出タルモノハ其税金月割ヲ以テ徵收スヘシ最其課勘定帳ニ明記スヘシ

一賣藥營業者並ニ請賣者免許看版ハ左式ノ通製セシムヘシ

堅三尺

寸法同上

許賣藥營業	出請
許賣藥請賣業	出請

一行商鑑札ハ各管廳ニ於テ之ヲ製シ願人ニ下附スヘシ最行商スル藥劑ハ其方名ヲ一々鑑札ニ記載
スヘシ

但一人ニシテ數人ノ藥劑ヲ行商スル時ハ方數ニ拘ハラズ營業者異ナル毎ニ鑑札ヲ別製シテ之
ヲ渡スヘシ

賣藥改正願書式 用紙美濃紙

賣藥改正願

府(縣)大小區國郡村(町)番地
營業人 族籍 氏 名

一方 名

藥品分量

製法

用法服量

功能

右者何年月日御檢査濟鑑札御下渡營業仕候處今般何々之廉左之通改正仕度御差支無之候ハ、鑑札御書替被下度此段奉願候也

一改正ノ廉ヲ詳記スヘシ

年月日

願人 氏 名 印
區長或 警務取締 氏 名 印

管轄廳長官氏名宛

賣藥請賣鑑札願書式 用紙同上

賣藥請賣願

一方名 一同 一同 一同

右營業人

府(縣)大小區國郡村(町)番地
族籍 氏 名

但營業者異ナレハ縱令一方タリトモ必ス各營業者ノ族籍住所氏名ヲ上ノ例ニ倣ヒ之ヲ區別シテ書記スヘシ

右之賣藥幾方今般請賣仕度依テ別紙營業者へ御允許之御指令寫並約定書相添此段奉願候也

年月日

請賣願人 族籍 氏 名 印
府(縣)大小區國郡村(町)番地

管轄廳長官氏名宛

賣藥請賣約定書

一方名 一同上 一同上 一同上

右者何某ノ官許ヲ得タル賣藥ニシテ今般何某請賣可致示談相整ヒ候ニ付請賣者ニ於テ請賣鑑札ヲ願受ケ營業者ノ製調シタル賣藥ヲ取次販賣致スヘシ然ル上ハ營業者鑑札免許期限内ハ總テ賣藥ニ關スル御規則及ヒ御達ノ趣旨ヲ遵守シ不正之所業致ス間敷候依テ約定書如件

年月日

同
賣藥營業人 族籍 氏 名 印
府(縣)大小區國郡村(町)番地

賣藥請賣人 族籍 氏 名 印

賣藥營業鑑札滿期書替願書式 用紙美濃紙 (消滅ニ付略ス)

賣藥營業鑑札並請賣鑑札^{遺失}紛失之節書替願書式 用紙同上

賣藥營業鑑札^{遺失}或^{毀失}賣藥請賣鑑札^{遺失}ニ付御書替願

一方名 賣藥營業人 族籍 氏 名
府(縣)大小區國郡村(町)番地

賣藥請賣鑑札ナレハ左之通認ムヘシ

一方 名

府(縣)大小區國郡村(町)番地
賣藥營業人 族籍 氏 名

右請賣人

同

族籍 氏 名

右者何年月確ト記憶セサレハ概略ヲ記スヘシ御下渡被下候賣藥營業鑑札何月日何々ノ事故ニテ遺失仕候間更ニ御下渡被下度此段奉願候也

年 月 日

管轄廳長官氏名宛

賣藥營業鑑札讓渡願書式 用紙同上

賣藥營業鑑札讓渡願

賣藥營業人 氏 名 印
或ハ請賣人 氏 名 印
區長ハ醫務取締 氏 名 印

府(縣)大小區國郡村(町)番地

營業人 族籍 氏 名

一方 名
藥品 分量
製法
用法 服量
功能

但賣藥數種アル時ハ上ノ例ニ從テ連書スヘシ

右者何年月御檢査濟鑑札御下渡營業仕候處今般府(縣)族籍何某ヘ示談ノ上讓渡申度依テ所持ノ鑑札返納仕候間御書替被下度此段奉願候也

年 月 日

府(縣)大小區國郡村(町)番地

賣藥鑑札主 族籍 氏 名 印

同

右讓受人 族籍 氏 名 印

鑑札主 區長 或 醫務取締 氏 名 印

所在ノ 區長 或 醫務取締 氏 名 印

讓受人ノ 區長 或 醫務取締 氏 名 印
但讓受人ノ管轄廳ニ出シ鑑札主ノ管轄廳ヘハ其旨ヲ届出ヘシ

管轄廳長官氏名宛

注意 (大小區、區戶長、醫務取締ニハ「」ヲ施スヘキ所略之)

●群馬縣乙第四號 明治十六年一月二十日

「戶長」役場

賣藥行商鑑札願書ニ遺失毀損之節鑑札書替願書式左之通相定候條該營業ノ者へ無漏通達可致此旨相達候事

賣藥行商鑑札願書式 用紙美濃紙

賣藥行商鑑札願

(營業者願書式)

(鑑札番號)

(賣子ヲ派出シテ行商ノ分ハ)

第何號 年號月日營業御免許
 一何丸
 第何號 全
 一何散 全
 第何號 全
 一何丹 全

(請賣者願書式)

賣子ヲ派出シテ行商ノ分ハ前ニ做ヒ其賣子ノ住所族籍氏名每一人列記スヘシ

(請賣鑑札番號)
 第何號 年號月日(何府縣ニ於テ)營業御免許
 一何圓 年號月日請賣御免許
 第何號 全全
 一何湯 全全
 第何號 全全
 一何膏 全全

(營業者異ナルトキハ一方タリトモ之ニ做ヒ列記スヘシ)

右營業人
 何府(縣)何郡(區)何町(村)番地(寄留)
 族籍 氏 名

賣子
 國郡町村番地(寄留)
 族籍 氏 名

右之賣藥何方今般行商仕度候間鑑札何枚御下渡被下度此段奉願候也

國郡町村番地(寄留)

族籍 願人 氏 名 印
 「衛生委員 氏 名 印」
 「戶長」 氏 名 印

年 月 日

何郡長何某殿

賣藥行商鑑札^{遺失}之節書替願書式 用紙同上

賣藥行商鑑札^{遺失}ニ付御書替願

一何丸 一何散
 一何丹 一何圓
 一何湯 一何圓

賣子ヲ派出シテ行商スル分
 ハ其賣子ノ住所族籍氏名ヲ
 此ニ記スヘシ

(請賣者ハ其營業人ノ住所族籍氏名ヲ此ニ記スヘシ)

右ハ何年月御下渡被下候賣藥行商鑑札何月日何々ノ事故ニテ^{遺失}損仕候間更ニ御下渡被下度此段奉願候也

年 月 日

國郡町村番地(寄留)
 族籍 願人 氏 名 印

何郡長何某殿

「衛生委員 氏 名印」
「戸長」 氏 名印

●群馬縣告示第三十三號 明治二十四年六月十六日

賣藥營業者發賣ノ方劑禁止或ハ廢業候節ハ其請賣行商者住所姓名藥名番號等詳記即日届出ツ可シ又請賣行商無之モノハ其旨届出ツ可シ

●群馬縣令第三十六號 明治二十五年六月十六日

賣藥營業免許鑑札料登記印紙貼付方ハ願書ニ印紙ヲ貼用セス鑑札下付ノ際印紙ヲ貼付シタル鑑札領收證ヲ差出スヘシ

●群馬縣丙第三十三號 明治十四年五月十三日

郡 役 所

賣藥請賣ノ儀先般委任候ニ付テハ該鑑札番號ハ各郡役所ニ於テ新タニ起號候儀ト可心得此旨相達候事

但番號ノ上ニ郡役所ノ頭字ヲ冠記シ且東西南北ノ稱アル處ハ之ヲ區別スヘシ即東群第何號南勢第何號等ノ如シ

●群馬縣訓令甲第六百六號 明治二十二年八月二十三日

郡 役 所

賣藥請賣人及ヒ行商人ハ自今別紙書式ニ倣ヒ調製翌月五日限リ其郡所轄「檢稅派出所」ニ通知スヘシ

請賣與ノ部

明治何年何月中賣藥請賣人行商人與廢調

許可月日	鑑札番號	名	製藥人住所氏名	請賣人住所氏名

全 廢ノ部

許可月日	鑑札番號	名	製藥人住所氏名	請賣人住所氏名

行商與ノ部

許可月日	鑑札番號	名	製造人又請賣人住所氏名	行商人住所氏名

全廢ノ部

許可月日	鑑札番號	藥名	製造人又住所氏名 ハ請賣人住所氏名	行商人住所氏名

●群馬縣訓令甲第百五號 明治三十二年十一月二十四日 警察部 郡市役所

自今賣藥營業ヲ聞届ケタルトキハ該鑑札ハ郡市役所ニ回付シ其旨所轄稅務署ヘ通知スヘシ

●群馬縣訓令甲第三號 明治三十年一月十六日 郡役所 市役所

賣藥請賣及行商鑑札ニ記載スヘキ方數ハ混雜ヲ生セサル限リハ便宜幾方ニテモ記載スルコトヲ得

●群馬縣訓令甲第二十九號 明治二十七年四月十二日 郡役所 市役所

賣藥請賣及行商鑑札ハ本年四月以降地方稅衛生費ヲ以テ製作候條本廳ヘ請求スル儀ト心得ヘシ

但明治十四年五月丙第三十五號ハ廢止ス

賣藥規則外製劑

●群馬縣甲第八號 明治十年三月三十日

從來燐製ノ鼠取藥ヲ以テ賣藥トナシ内務省ヨリ鑑札下渡候向有之候處右ハ毒藥ニテ到底民間誤用ノ虞ナキヲ免レヌ殊ニ本年太政官第二十號毒劇藥取扱規則公布相成取締上ニモ關係係ニ付自今一切禁止候條右營業者有之府縣ハ其旨相達速ニ鑑札返納且請賣ノ者モ同様賣藥規則ニ照シ禁止ノ處分可取計旨今般内務省ヨリ達有之候ニ付自然請賣行商等ノ者有之候ハ、差止置キ最寄警察署及分署ノ内ニ可申出此旨布達候事

●群馬縣甲第四十九號 明治十八年七月四日

賣藥規則外製劑販賣取締規則別冊之通相定ム

但從前已ニ許可ヲ得タル者ハ本月三十一日迄ニ願出更ニ免許鑑札ヲ願受クヘシ
右布達候事

(別冊)

賣藥規則外製劑販賣取締規則

第一條 賣藥規則外製劑トハ藥品ヲ配伍シ製造シタル鼠取蚤除虱除蚊除蠅取染髮料涅齒料防臭劑防腐劑毛生劑脫毛ヲ云フ(廿三年縣令十七號ニテ改正)

第二條 此製劑ヲ販賣セントスル者ハ第一號又請賣セントスルモノハ第二號書式ニ倣ヒ願出免許鑑札ヲ受クヘシ

但藥味分量製法用法功能書ヲ改正セントスルトキハ製劑相添更ニ其旨縣廳ヘ願出ヘク又方名

ヲ改正セントスルトキハ舊鑑札ヲ返納シ更ニ新鑑札ヲ願受クヘシ

第三條 製劑營業者ニ於テハ容器又ハ包紙ニハ其製造シタル年月日及住所氏名ヲ記載スヘシ(廿五年令六十九號ニテ三、四條道加以下順序標下第十條改正)

第四條 請賣營業者ニ於テハ容器又ハ包紙ニ其製造ノ年月日及製造者ノ住所氏名ヲ記シタル藥劑ニアラサレハ之ヲ販賣スルコトヲ得ス

第五條 製劑營業者ニ於テハ容器又ハ包紙ニハ其製造シタル年月日及住所氏名ヲ記載スヘシ

第六條 請賣營業者ニ於テハ容器又ハ包紙ニ其製造者ノ住所氏名ヲ記シタル藥劑ニアラサレハ之レヲ販賣スルコトヲ得ス

第七條 製劑者又ハ請賣者ニ於テ自ラ行商シ或ハ賣子ヲ派出シ行商ヲ爲サシメント欲スルトキハ第三號書式ノ願書ヲ所轄郡役所ヘ差出シ行商鑑札ヲ受ケ行商ノ際ハ必ス之ヲ携帯スヘシ

第八條 免許ノ藥劑ト雖トモ有害品ナル事ヲ發見スルトキハ直ニ鑑札ヲ取上ク發賣ヲ禁止スルコトアルヘシ(十八年甲九十八號ニテ但書ノ二字刪除)

第九條 製藥者廢業スルカ又ハ禁止セラレ、トキハ速ニ請賣行商者ニ通知シ請賣行商者ハ直ニ販賣ヲ止メ鑑札ヲ返納スヘシ

第十條 警察官吏衛生官吏ハ臨時店舗又ハ行商者ニ就キ製劑ヲ檢査スルコトアルヘシ但檢査ノ爲メ消費シタル製劑ハ其代價ヲ請求スルコトヲ得ス(廿三年縣令十七號ニテ追加順次標下)

第十一條 諸鑑札ハ廢業死亡又ハ他府縣下ヘ轉籍寄留スルトキハ之ヲ返納シ管内轉籍寄留又ハ改

姓名ニ係ル者ハ書換ノ儀出願スヘシ

第十二條 水火盜難等ニ依リ鑑札ヲ毀損シタルトキハ其由ヲ詳記シ更ニ之ヲ願受クヘシ

第十三條 本則第二條第三條第四條第五條第七條ニ違背シタルモノハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ二十錢以上一圓二十錢以下ノ科料ニ處ス

第一號書式 (用紙半紙正副二通)

賣藥規則外製劑營業願

一何 藥

一配合品

一製 法

一用 法

一功 能

何 藥(分量)

何 藥(分量)

何 藥(分量)

右調製發賣仕度候間御檢査ノ上鑑札御下付被下度依テ製劑相添此段奉願候也

郡町村番地(寄留)

族籍

年 月 日

願 人 氏

名 印

戸長與書ヲ要ス

群馬縣令何某殿

「衛生委員 氏

名 印」

第二號書式 (全上)

賣藥規則外製劑請賣願

一方名 一方名 一方名

國郡町村番地(寄留)

族籍

右製劑者 氏

名印

(製劑者異ナルトキハ右ノ例ニ依リ列記スヘシ)

右藥今般營業人ト示談ノ上請賣仕度候間御檢査ノ上鑑札御下附被下度依テ營業人へ御下附相成候鑑札(御免許相成候御指令寫)並ニ約定書寫相添此段奉願候也

郡町村番地(寄留)

族籍

願人 氏

名印

年 月 日

群馬縣令何某殿

戶長與書ヲ要ス

「衛生委員 氏

名印」

第三號書式 (全上)

賣藥規則外製劑行商願

一方名 一方名 一方名

一方名 一方名

請賣者ニ於テ行商願出ルトキハ此所ニ製劑者ノ住所族籍氏名ヲ記スヘシ又製劑者異ナルトキハ方名コトニ記載スヘシ

賣子ヲ派出シ行商セシムルモノハ

郡町村番地(寄留)

族籍

氏

名

賣子

右之藥劑自分(又ハ賣子ヲ派出)行商仕度候間鑑札御下附被下度此段奉願候也

郡町村番地(寄留)

族籍

(右製劑者)

氏

名印

年 月 日

何郡長何某殿

戶長與書ヲ要ス

「衛生委員 氏

名印」

◎群馬縣丙第四十九號 明治十八年七月二十日

郡 役 所

本年(七月)甲第四十九號布達賣藥規則外製劑販賣取締規則第三條ニ依リ下付スヘキ行商鑑札ハ別紙雜形ニ倣ヒ調製スヘシ

(別紙雛形)

竪三寸五分 厚三分

五百五十八

規則外製劑行商免許之証

縣府族籍

製劑營業何誰賣子

苗字名

一藥名 一同 一同

一同 一同

右行商免許候事

裏

年月日

烙印

群馬縣
何郡役所

番號

但木札

●群馬縣訓令甲第六十九號 明治二十四年六月五日

警察署 警察分署

規則外賣藥(鼠取、蠅取、蚤取、虱取)行商者ニシテ往々有毒藥ノ配伍セルモノヲ賣捌キ是カ爲メ
人跡ニ危害ヲ及ホセシモノ其例少ナカラス右等行商者ハ果シテ鑑札ヲ携帶スルヤ否ヤヲ平素注意
シ一層嚴重ノ取締ヲナスヘシ

藥品巡視

●群馬縣訓令甲第八十二號 明治二十五年六月二十五日

藥品監視員

藥品巡視手續左之通相定ム

藥品巡視手續

第一條 監視員ハ巡視ノ際先ツ其證票ヲ示シテ検査ニ着手スヘシ

第二條 藥品ハ可成現場ニ於テ検査ヲナスヘシ若シ持歸リ検査ヲ要スル場合ニ於テハ必要ノ分量
ヲ分チ取り自餘ノ殘品ハ所有主ト立會ノ上共ニ檢印シテ之ヲ所有主ニ交附シ退テ何分ノ通知ア
ル迄其儘預ク置クヘキ旨ヲ示スヘシ

第三條 持歸リタル藥品ハ速ニ検査ヲ遂ケ其適品ナルトキハ直ニ所有主ニ通知シ販賣自由ノ旨ヲ
知ラシムヘシ

但シ不適品ナルトキハ所轄警察署長又ハ警察分署長ニ通知スヘシ

第四條 監視員藥局ヲ巡視スルトキハ藥品巡視規則(明治二十二年內) 第二條ニ規定シタル外左ノ各項
ヲ調査スヘシ

一 藥局ニ於テハ藥局主支局ニ於テハ管理者ノ氏名、年齡、免狀ノ番號下附ノ年月日

二 助手員數及藥學大意ヲ修ムルヤ否及兼業ノ有無

三 光線入射並氣空流通ノ良否及清潔ナルヤ否

四 毒劇藥ノ販賣授與ハ藥品營業並藥品取扱規則(明治二十二年法) 第三十條ニ適スルヤ否

五 藥品ノ容器ニ記載スヘキ條項ハ藥品營業並藥品取扱規則第三十二條ニ適スルヤ否

六 毒劇藥調劑用器ノ處置正確ナルヤ否

七 調劑用必須ナル器具ヲ供ヘ置クヤ否

八 處方箋ニ關スル件ハ藥品營業並藥品取扱規則第十四條第一項及第十七條ニ適スルヤ否

醫藥產婆鍼灸

藥品巡視

五百五十九

- 第五條 監視員藥種商ヲ巡視スルトキハ藥品巡視規則第三條ニ規定シタル外左ノ各項ヲ調査スヘシ
 - 一 舖主ノ氏名、年齢、鑑札ノ番號及下附ノ年月日
 - 二 毒劇藥ノ販賣授與ニ關スル件ハ第四條第四項ニ同シ
 - 三 藥品容器ニ記載スヘキ條項ノ件ハ第四條第五項ニ同シ
 - 四 醫療用外ニ供スル藥品ハ藥種商製藥者取締細則(明治二十三年縣令第十三號)第五條ニ適スルヤ否
- 第六條 監視員製藥者ノ製藥所ヲ巡視スルトキハ藥品巡視規則第三條ニ規定シタル外左ノ各項ヲ調査スヘシ
 - 一 舖主ノ氏名、年齢、鑑札ノ番號及下附ノ年月日
 - 二 毒劇藥ノ販賣授與ニ關スル件ハ第四條第四項及藥品營業並藥品取扱規則第二十五條ニ適スルヤ否
 - 三 藥品容器ニ記載スヘキ條項ノ件ハ第五條第四項ニ同シ
 - 四 醫療用外ニ供スル藥品ハ第四條第五項ニ同シ
- 第七條 監視員病院及醫師ノ調劑所ヲ巡視スルトキハ藥品巡視規則第四條ニ規定シタル外左ノ各項ヲ調査スヘシ
 - 一 藥品ノ貯藏ハ藥品營業並藥品取扱規則第二十八條ニ適スルヤ否
 - 二 毒劇藥ノ配置ハ藥品營業並藥品取扱規則第二十九條ニ適スルヤ否

- 三 天秤ノ銳鈍
- 四 調劑器具ノ整否
- 第八條 監視員藥品巡視規則第五條ニ規定セル場所ヲ巡視スルトキハ左ノ各項ヲ調査スヘシ
 - 一 醫療用藥品ハ藥品營業並藥品取扱規則第二十六條第二十七條ニ適スルヤ否
 - 二 藥品ノ貯藏ハ第七條第一項ニ同シ
 - 三 毒劇藥ノ配置ハ第七條第二項ニ同シ
 - 四 藥品ノ容器ニ記載スヘキ條項ノ件ハ第四條第五項及藥品營業並藥品取扱規則第三十六條第三十七條ニ適スルヤ否
- 第九條 衛生官吏警察官吏ハ左ノ各項ヲ調査スヘシ
 - 一 藥品巡視規則第二條第三項ノ件
 - 二 同規則第三條第二項中第二十二條ノ件
 - 三 藥品巡視手續第四條第一項第二項第三項第四項第八項ノ件
 - 四 同手續第五條第一項第二項第四項ノ件
 - 五 同手續第六條第一項第二項第四項ノ件
- 第十條 藥劑師ハ左ノ各項ヲ調査スヘシ
 - 一 藥品巡視規則第二條第一項第二項ノ件
 - 二 同規則第三條第一項第二項中第二十八條第二十九條第三十六條第三十七條ノ件

- 三 同規則第四條ノ件
- 四 藥品巡視手續第四條第五項第六項第七項ノ件
- 五 同手續第五條第三項ノ件
- 六 同手續第六條第三項ノ件
- 七 同手續第七條ノ件
- 八 同手續第八條ノ件
- 第十一條 監視員ハ其檢査セシ事項ヲ錄取シ意見アルトキハ之ヲ附記シテ巡視ヲ終リタル後報告スヘシ

但事ノ緊急ニ係ルモノハ其都度直ニ報告スヘシ

●群馬縣告示第八十六號 明治二十二年十二月十九日

明治二十二年三月法律第十號第三十八條ニ隨ヒ監視員巡視ノ節携帶スル證票左ノ如シ

紙製

曲尺二寸二分

表 藥品監視員之證 〆〆〆	裏 群馬縣 印
---------------------	---------------

產 婆

●群馬縣令第三十四號 明治三十二年九月十三日

產婆試驗受験人心得左ノ通り相定ム

產婆試驗受験人心得

第一條 產婆試驗願出ノ期日舉行ノ期日及場所ハ三ヶ月前之ヲ告示スヘシ

第二條 產婆試驗ヲ受ケントスルモノハ產婆試驗規則第五條ニ據リ其願書ヲ所轄郡市役所ヲ經テ

縣廳ニ差出スヘシ

第三條 前條ノ願書ヲ受理セラレタル者ハ告示シタル期日ノ前日試驗舉行ノ地ニ到着シ宿所氏名

ヲ試驗場ニ届出ツヘシ

第四條 產婆試驗ノ學說試驗ハ筆記試驗トス(明治二十二年縣令五十二號ニテ但書刪除)

第五條 產婆試驗願書ハ左ノ雛形ニ據ルヘシ

願 書 式 (用紙美濃紙)

住 所 (寄留地ナレハ本籍ヲ併記スヘシ)

族 籍 氏 名

年 齡

私儀何年何月御舉行ノ產婆試驗(又ハ實地試驗)相受度別紙書類相添此段奉願候也

年 月 日 右 氏 名 印

知事宛

●群馬縣令第十六號 明治三十三年二月二十三日
產婆規則第十九條產婆限地營業出願手續左ノ通り定ム

產婆限地營業出願手續

- 第一條 產婆規則第十九條ニ依リ營業免許ヲ得ントスルモノハ願書ニ開業地ノ地域ヲ記シ師又ハ營業產婆ノ保證アル履歷書ヲ添ヘ縣廳ニ願出ツヘシ
 - 第二條 前條願書ニハ其營業地域内ノ町村長連署スヘシ若シ意見アルトキハ其書面ヲ附スヘシ
 - 第三條 出願者アルトキハ關係アル郡長ニ於テ實際產婆ニ乏シキ地ナルヤ否ヲ取調其意見ヲ付スヘシ
 - 第四條 出願者アルトキハ關係郡役所ニ於テ其地ノ廣狹人口戶數^(最近一ケ年間ノ數)出產數^(最近一ケ年間ノ數)及他ノ營業產婆アル村落ニ至ル道路ノ險易里程ヲ記シ繪圖面ヲ添ヘ進達スヘシ
 - 第五條 產婆ニ乏シキ地ト認ムルハ營業產婆アル市町村ト二里以上ヲ隔絶シ往復ノ容易ナラサル場所ニ限ル
 - 第六條 限地營業ヲ願フ者曾テ營業產婆ニ就キ一年以上其補助ヲナシタルモノ又ハ產婆學ヲ修メタル履歷アルモノニ限ル
 - 第七條 限地營業產婆ハ區域外ニ出テ營業ヲナスコトヲ得ス
- 群馬縣廳達第八號 明治三十三年三月二十四日 警察部

產婆試驗委員組織權限左ノ通り定ム

產婆試驗委員組織權限

- 第一條 產婆試驗委員ハ知事ノ命ヲ受ケ產婆試驗ヲ行フモノトス
 - 第二條 產婆試驗委員ハ左ノ職員ヲ以テ組織ス

試驗委員長	主	事	試驗委員	書	記
-------	---	---	------	---	---
 - 第三條 試驗委員長ハ警部長ヲ以テ之ニ充テ試驗主事試驗委員書記ハ警察部職員及醫師ニ就キ任命スヘシ
 - 第四條 試驗委員長ハ產婆試驗一切ノ事務ヲ處理スヘシ
委員長事故アルトキハ主事之ヲ代理ス
 - 第五條 試驗委員長ハ試驗了ルノ后主事試驗委員ト與ニ其成績ヲ評定シ知事ニ報告スヘシ
 - 第六條 書記ハ產婆試驗ノ事務ニ關シ試驗委員長ノ指揮ヲ受ケ庶務ニ從事ス
- 群馬縣告示第七十四號 明治三十三年五月四日
- 本年四月三十日迄ニ本縣產婆名簿ニ登錄シタルモノ並ニ登錄取消願出ニ依リ取消タルモノ左ノ通り
- 右產婆規則第十五條ニ依リ告示ス
- (名稱等之)
- 群馬縣訓令甲第八十五號 明治二十一年四月二十四日 郡役所

産婆ノ業ハ産婦生兒ノ健否ニ關係シ衛生上忽諾ニ付スヘカラサル儀ニ付左ノ準則ニ據リ漸次講習會開設候様致サズヘシ

但設置候ハ、其會則組合及講師ノ氏名等縣廳ヘ届出サシム可シ

産婆講習會準則

- 第一條 産婆講習會ハ産婆ノ風習ヲ改良シ及産婆必要ノ學術ヲ講究スルタメ設クル者トス
- 第二條 本會組合ハ土地ノ狀況ニ從ヒ産婆營業人ニ於テ適宜之ヲ定ムヘシ
- 第三條 本會ハ毎年六回以上開クヘシ
- 第四條 新ニ産婆業ヲ營マントスル者ニシテ參會ヲ望ムモノハ其意ニ任スヘシ
- 第五條 本會講師ハ内務省ノ開業免狀ヲ所持スル産婆又ハ醫師ヲ以テ之ニ充ツヘシ
- 第六條 本會ニハ幹事若干名ヲ撰ミ會場ノ整理金錢ノ收支其他一切ノ事務ヲ掌ラシムヘシ
- 第七條 本會ノ講師ハ試験ノ上習熟セシト認メシ者ヘハ習熟証ヲ與フヘシ
- 第八條 本會ニ係ル經費ハ會員ニ於テ支辨スヘシ

鍼灸

●群馬縣令第二十一號 明治二十七年四月十六日

鍼治灸治營業免許規則左ノ通相定ム

鍼治灸治營業免許規則

第一條 鍼治又ハ灸治ノ營業ヲ爲サントスルハ者ハ二年以上修業セシ師ノ保證書ニ同業者一名ノ

保證書ヲ添ヘ縣廳ヘ出願許可ヲ受クヘシ

但シ師ノ保證書ヲ得難キモノハ同業者二名以上ノ保證アルヲ要ス

第二條 他府縣ニ於テ鍼治又ハ灸治營業ノ許可ヲ得タル者ハ其寫ヲ添ヘ出願スヘシ

第三條 廢業又ハ轉居改姓名ヲ爲シタルトキハ本人ヨリ死亡ハ親戚ヨリ十日以内ニ届出ヘシ

第四條 醫師治療中ノ患者ニハ其醫師ノ許諾ヲ經サレハ鍼治若クハ灸治ヲ施スコトヲ許サス

第五條 此規則第一條第四條ニ違背シタルモノハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ貳拾錢以上

壹圓貳拾五錢以下ノ科料ニ處ス

雜

衛生組合

●群馬縣令第四十六號 明治三十一年十一月十二日

衛生組合設置規則左ノ通相定ム

衛生組合設置規則

第一條 市町村ハ本則ノ規定ニ依リ衛生組合ヲ設置シ清潔方法、消毒方法其他傳染病豫防救治ニ關シ組合規約ヲ設ケ執行手續ヲ制定スヘシ

第二條 衛生組合ハ市ハ各町、町村ハ各大字毎ニ一組合ヲ設置スヘシ

但土地ノ狀況ニ依リ適宜之ヲ分合スルコトヲ得

第三條 衛生組合同規約ハ市ハ知事、町村ハ郡長ノ認可ヲ受クヘシ

第四條 衛生組合ハ組合員中ニ於テ左ノ役員ヲ撰舉スヘシ
但其撰舉方法ハ組合ニ於テ之ヲ定ム

一 組長 一名 一 副組長 一名 一 委員 若干名
組長及副組長ハ組合内ニ住スル公民ヲシテ市町村會議員タルヲ得ヘキ資格ヲ有スル者ヲ撰舉スヘシ

第五條 役員ノ任期ハ滿二ケ年トス

第六條 衛生組合ニ於テ役員ヲ撰舉シタルトキハ住所氏名ヲ市町村長ヘ届出ヘシ其異動ヲ生シタルトキ亦同シ

前項ノ届出ヲ受ケタルトキハ市長ハ知事ニ町村長ハ郡長ニ報告スヘシ

第七條 衛生組合ノ役員ニ撰舉セラレタル者ハ正當ノ事由ナクシテ就任ヲ辭シ又ハ任期中辭職スルコトヲ得ス

第八條 衛生組合ハ其組合員ニ對シ五圓以下ノ過怠金ヲ徴收スルコトヲ得

第九條 衛生組合同規約ハ左記ノ事項ヲ規定スヘシ

- 一 組合ノ區域
- 一 組長以下役員ノ職務權限
- 一 過怠處分ニ關スルコト

一 組合事務及共有財産ノ管理方法並組合費ノ收支方法ニ關スルコト

一 衛生ニ關スル法令ノ趣旨ヲ周知セシムルコト

一 種痘ノ普及ヲ圖ルコト

一 清潔法ノ持續普及ヲ圖ルコト

一 飲料水ノ良否及供給ニ注意シ之レカ改善ヲ圖ルコト

一 下水ノ疏通、芥溜、厠圍ノ位置構造ヲ改善スルコト

一 消毒方法ノ應用法ヲ毎年一回以上演習スルコト

一 傳染病ノ隱蔽ヲ防キ其發見ヲ速ニスル方法ヲ設クルコト

一 交通遮斷ノ視察ノ方法及遮斷中ノ患者ニ飲食物其他需用品供給ノ方法ヲ設クルコト

一 行旅人傳染病ニ罹リタル疑ヒアルトキ市町村ニ於テ救治ニ着手スル迄一時救護ノ方法ヲ設クルコト

一 其他傳染病豫防上必要ナル事項

第十條 衛生組合ニハ清潔方法、消毒方法施行ニ要スル器具藥品ヲ設備スヘシ

第十一條 傳染病流行ノ場合ニ於テハ郡市長ハ衛生組合ニ豫防事務所ヲ設置セシムルコトヲ得

第十二條 市町村長ハ衛生組合ヲ監督スヘシ

第十三條 衛生組合ニ於テ施爲シタル緊要ノ事項ハ市長ハ知事ニ町村長ハ郡長ニ報告スヘシ

衛生諸表

●群馬縣達衛第二十號 明治十九年十二月二日

公私立病院

明治十六年本縣丁第三十二號及十八年丁第十七號達ヲ廢シ更ニ病院患者表別表ノ通相定候條本年分ヨリ右準照調製翌年一月限り縣廳へ差出スヘシ

但明治十八年分ハ左様式ニ準シ調製來ル十一月廿五日迄ニ差出スヘシ

一治療ノ目的何々トハ内外科或ハ眼科等ト記スルノ類ナリ

一何年々々ハ假令ハ明治十九年ノ表ナレハ十八年十七年ト前年ニ溯リ四ケ年ノ事實ヲ記スルモノトス

一出張所ニ係ル事實ハ別ニ一表ヲ製スルモノトス

明治何年患者表

治療目的何々

病名	種別		本年		何年		何年		何年		何年	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
傳染性病												
發育的及榮養的病												

右之通候也		郡町村番地	
同	同	同	同
同	同	同	同
同	同	同	同
同	同	同	同
同	同	同	同
同	同	同	同
同	同	同	同
同	同	同	同
同	同	同	同

郡町村番地 何立病院長

年月日

知事宛

之誰印

●群馬縣達衛第二十二號 明治二十年二月二十八日 「戸長」役場

死亡表様式別表ノ通改正候條本年上半年分ヨリ右様式ニ照準調製差出スヘシ

但明治十八年本縣乙第百二十九號達ハ客年十二月分限り廢止ス

何郡何(町村)「聯合戸長」役場内死亡表 明治何年(上下)半期

病名及事故	男	女	別	生	年	號	月
何	男	女	別	生	年	號	月
何	男	女	別	生	年	號	月
何	男	女	別	生	年	號	月

合	計	
---	---	--

一本表ハハ埋火葬許証ヲ附與シタルモノヲ掲載スルモノトス
但行倒等ニテ假埋葬ノモノモ之ヲ掲ク

一死休ノ棄兒ハ欄外ニ其男女及推測ノ年齢ヲ記載スヘシ
一本表上半期分ハ七月限り下半年分ハ翌年一月限り所轄郡役所ヘ差出スモノトス

●群馬縣達第二十三號 明治二十年一月二十八日 郡役所
死亡者年齢區別表樣式別表ノ通改正候條本年上半年分ヨリ右樣式ニ照準調製差出スヘシ
但明治十八年本縣丙第六十九號達ハ客年十二月分限リ廢止ス

何郡死亡者年齢別表

明治何年(上下)半期

明治何年生	生		第一類 傳染性病	第二類 發育及榮養的病	第三類 皮膚及筋病	第四類 骨及關節病	第五類 血行器病	第六類 神經及五官病	第七類 呼吸器病	第八類 消化器病	第九類 泌尿及生殖器病	第十類 外變性死	第十類 中毒症	第十類 原因不詳	合計	第七類 肺病
	男	女														
明治廿年生	同	同														
明治十九年生	同	同														

同十八年生	同十七年生	同十六年生	同十五年生	同十四年生	同十三年生	同十二年生	同十一年生	同十年生	同九年生	同八年生	同七年生	同六年生	同五年生	同四年生
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同

衛生諸表

同 三年生	同 二年生	同 元年生	慶應 三年生	同 二年生	同 元年生	元治 元年生	何々 生	生年 不詳	合 計
同同	同同	同同	同同	同同	同同	同同	同同	同同	同同

一死體ノ棄見ハ欄外ニ其男女及推測ノ年齢ヲ記載スヘシ
 一本表上半期分ハ八月十五日限り下半期分ハ翌年二月十五日限り差出スモノトス
 一東群馬南勢多郡役所ニ於テハ前橋市街、西群馬片岡郡役所ニ於テハ高崎市街ニ係ル分ヲ別表ニ
 調製シテ差出スヘシ

●群馬縣丁第九十號 明治十七年十二月十日

公(私)立病院 開業醫師

種 別	男 女	職 業	年 齡	治 癒	死 亡	未 治	不 詳
眞性梅毒							
全							
全							
假性梅毒							
全							
全							
雜症							
全							
全							

自今梅毒患者取調ヲ要シ候條來ル明治十八年一月ヨリ毎半年(上半期一月ヨリ六月迄ノ分七月十日限下半期七月ヨリ十二月迄ノ分翌年一月十日限)別紙表式ニ照準調製所轄郡役所へ差出スヘシ
 (別表)

自何年何月梅毒患者表
 至同年何月梅毒患者表
 何郡公(私)立病院
 又ハ何郡何町(村)開業醫師
 之

通常患者總計	合計		
	男	女	合
何人内	男何人	女何人	
	治癒	死亡	未詳
	男何人	女何人	何人
	何人	何人	何人
	何人	何人	何人

釋 解

- 一 此表ハ梅毒諸症患者ヲ眞性假性雜症ノ三種ニ分チテ(病院ハ入院外來ヲ問ハス)每一人記載スルモノトス
- 一 假性梅毒トハ軟性下疳便毒ヲ云ヒ雜症トハ痲疾白帶下剝脫等ヲ云フ
- 一 全癒ノ後再ヒ此症ニ罹ルモノハ新患者ト見做シ記載スヘシ
- 一 前期患者ニシテ次期ニ涉ル(越人員)者ハ朱書スヘシ
- 一 通常患者トハ梅毒性諸症ヲ除クノ外都テ施治スル處ノ總人員ヲ記載スヘシ
- 一 半途廢療又ハ轉醫等ニテ終期ノ判然セサルモノハ不詳ノ欄ニ記入スヘシ
- 一 職業ハ各患者ノ現業(學生ナレハ學生茶屋女ナレハ茶屋女ト各自ノ現ニ從事スル業名)ヲ記載ス

ヘシ(十八年丁十三號ニテ追加)

一 梅毒性或ハ痲毒性ノ白帶下ハ本表ニ掲ケ其他ノ白帶下ハ掲載セサルモノトス(同上)

● 群馬縣令第二十號 明治三十三年三月二日

明治十七年十二月丁第九十號ニ依リ公立病院開業醫師ヨリ差出スヘキ梅毒患者表ハ自今一ケ年分テ取纏メ所轄市役所町村役場ニ差出スヘシ市役所町村役場ハ之ヲ統計シ三月十日迄ニ市ハ縣廳ニ町村ハ郡役所ニ進達スヘシ郡役所ハ更ニ之ヲ統計シ三月三十一日迄ニ縣廳ニ進達スヘシ

● 群馬縣令第八十五號 明治十八年十月十二日 公立病院 開業醫師

明治十六年本縣令第二十四號達ヲ廢シ更ニ脚氣患者取調様式別紙之通相定候條自今施療シ患者右様式ニ照准無遺漏取調前月分ヲ翌月五日限り所轄郡役所ヘ差出スヘシ

但施治ノ患者無之分ハ其旨届出ヘシ

(別紙)

明治何年何月何日脚氣患者調

何々ニ關スル業	現業者	男	年	齡
全上	非業者	女	年	齡
何々ニ關スル業	現業者	女	年	齡
何々ニ關スル業	非業者	男	年	齡
合計何人内	男何人内死亡何人			死亡
	女何人内死亡何人			

雜

衛生諸表

郡町村番地
開業醫 何 之 誰
(或ハ) 何 病 院

年 月 日
郡 長 養 苑
備考
一本式ハ毎月施療ノ患者ヲ掲載スヘキモノニテ例ヘハ一人ノ患者ニシテ十二ヶ月ニ渉ル者ハ之ヲ十二回届出ルノ類ナリ

職業細目要領ニ據ルヘシ

- 一 公務ニ關スル業トハ官吏其他諸官公廳ノ雇員給仕小使門衛牧場山野橋梁等ノ看守人ノ類
- 一 學術ニ關スル業トハ諸學校ノ教授教員生徒神佛敎導職著譯者新聞記者代言人測量家畫工筆耕等ノ類
- 一 醫事ニ關スル業トハ醫師製藥師產婆獸醫針灸按摩灸治看病人等ノ類
- 一 農事ニ關スル業トハ農作主農作人養蠶者炭燒牧畜家植木職獵師樵夫等ノ類
- 一 商賈ニ關スル業トハ凡百ノ商業ニ從事スルモノ及諸會社役員商店ノ番頭支配人雇人等ノ類
- 一 製造工作ニ關スル業トハ諸職工其他製造工作ニ關スル業務等ノ類
- 一 漁撈採藻ニ關スル業トハ漁夫海苔採等ノ類

- 一 舟楫ニ關スル業トハ舩長以下水火夫及舩中ニテ事業ヲ執ル者渡守筏乘等ノ類
 - 一 採鑛ニ關スル業トハ採掘夫熔鑛夫等ノ類
 - 一 力役トハ人力車及荷車挽土方米搗人足等ノ類
 - 一 其他諸業トハ以上十項ニ當ラサル者ヲ云フ
- 現業者トハ實際其業ニ従事セル者非業者トハ現ニ業務ヲ操ラサル家族ノ類ヲ云フ二業以上ヲ兼ヌル者ハ其主ナル業ヲ記ス

病死體解剖

- ◎ 群馬縣令第六十七號 明治二十九年七月九日
病死體ノ解剖ヲ爲サントスル醫師ハ願書ニ施術ノ場所日時ヲ記シ之ニ本人ノ承諾書又ハ近親二名以上ノ連署ヲナシタル書面ヲ添ヘ所轄警察官署ヘ出願許可ヲ受クヘシ
- ◎ 群馬縣訓令第七十五號 明治二十九年七月九日
警察署 警察分署
病死體解剖ノ許可ヲ爲スニハ患部ノ剖觀ニ限ル義ト心得ヘシ

監獄

官規

監獄名稱

●群馬縣告示第六十三號 明治二十三年十月十六日

今般地方官制改正ニ依リ監獄署ヲ設ケラレ候ニ付テハ從來ノ前橋監獄ヲ群馬縣監獄署ト名稱シ
高崎監獄ヲ群馬縣高崎監獄支署「太田監獄ヲ群馬縣太田監獄支署」ト名稱ス

採用

●群馬縣廳達第十號 明治二十七年二月十五日

明治二十六年十二月内務省訓令第二十六號看守採用規則第九條ニ據リ本縣看守採用規則施行細則
左ノ通り相定ム

(左記略ス)

●群馬縣訓令甲第十三號 明治二十七年二月十五日

監獄支署

明治二十六年十二月内務省訓令第二十六號看守採用規則第九條ニ據リ本縣看守採用規則施行細則
左ノ通り相定ム(同年廳達第十號ニ同シ)

●群馬縣達第四十二號 明治二十年二月九日

監獄「戸長役場」

押丁採用規則別冊ノ通り相定ム

押丁採用規則

- 第一條 押丁ハ試験ノ上定員ノ缺アルニ隨ヒ合格ノ者ヲ採用ス
- 第二條 試験ヲ別チテ体格試験及ヒ學術試験ノ二種トス
- 第三條 体格試験ニ合格セサル者ハ學術試験ヲ爲サス
- 第四條 左ノ各項ニ觸ル、者ハ押丁ニ採用セス
 - 一 年齢二十年ニ滿タサルモノ及ヒ滿三十八年以上ノモノ
 - 二 滿二年以上勤續ノ見込ナキモノ
 - 三 徵兵適齡ノモノ
 - 四 禁錮以上ノ刑ニ處セラレ又ハ禁錮以上ノ刑ニ該ルヘキ罪アリトシテ公訴ヲ受ケ嘗テ未決監ニ拘禁セラレタルモノ
 - 五 罰金ノ刑ニ處セラレタルモノニシテ刑法第二十七條ニ依リ換刑ノ處分ヲ受ケタルモノ
 - 六 舊法ニ依リ懲役又ハ禁獄ノ刑ニ處セラレタルモノ
 - 七 賭博犯處分規則ニ依リ懲罰ノ處分ヲ受ケタルモノ
 - 八 身代限ノ處分ヲ受ケ辨償ノ義務ヲ了ヘサルモノ
 - 九 本縣管内ニ居住スル丁年以上ノ男子ニシテ身元正確ナル保証人ナキモノ
- 第五條 試験ハ左ノ二項ニ該當スル者ヲ合格トス
 - 一 体格試験ニ在リテハ身幹曲尺五尺以上

二 學術試験ニ在リテハ左ノ如シ

- 一 法律規則ノ類ヲ讀ミ得ルモノ
- 二 普通往復文ヲ綴リ得ルモノ
- 三 加減算ヲ爲シ得ルモノ
- 四 身分不相當ノ負債アルモノ
- 第六條 左ノ各項ニ觸ル、モノハ試験合格ト雖モ採用セス
 - 一 酒癖アルモノ
 - 二 暴行ノ癖アルモノ
 - 三 素行修ラサルモノ
 - 四 身分不相當ノ負債アルモノ
- 第七條 志願者アルトキハ附錄第一號式乃至第五號式ニ準シ志願書ニ保證書履歷書誓約書ヲ添ヘ本縣監獄課ニ出願セシムヘシ
- 第八條 保証人他府縣ヘ移轉シ又ハ死亡シタルトキハ更ニ保証人ヲ立テ附錄第六號式及ヒ第七號式ニ準シ保証人引換届並ニ保証人引換証書ヲ三日以内ニ差出サシムヘシ

(附錄)

第一號式 用紙半紙

押丁志願書

何府縣何國何郡(區)何町(村)何番地士族(平民)
(何某方同居又ハ附籍)(何某長(次)男又ハ兄弟)
當時群馬縣上野國何郡何町村何番地寄留(何某
方同居又ハ止宿)

氏

名

年號年月日生

私儀本縣ニ於テ押丁奉職志願ニ付御試験ノ上御採用被下度別紙保証書履歷書并ニ誓約書相添此段奉願候也

年號年月日

右

志願人 氏

名印

群馬縣上野國何郡何町(村)何番地士族(平民)(寄留)
(何府縣何國何郡(區)何町(村)何番地士族(平民))
官名又ハ職業

保証人 氏

名印

群馬縣知事氏名殿

前書保証人ハ本郡本町(村)在籍(寄留)ノ者ニシテ身元正確ナル者ニ相違無之依テ與書候也

群馬縣何郡何町(村)外何ヶ町(村)

「戸長」氏

名印

第二號式 用紙半紙印紙貼用

身元保証書

何府縣何國何郡(區)何町(村)何番地士族(平民)

(何某方同居又ハ附籍)(何某長(次)男又ハ兄(弟))

志願人 氏

名

右ノ者今般押丁志願ニ付御採用ノ上ハ本人身上ニ關スル一切ノ事項私ニ於テ擔當可仕且ツ官物賠償等ノ爲メ不都合有之候節ハ本人ニ拘ハラス私ヨリ速ニ辨償可致依テ保証候也

退テ私儀他府縣へ轉籍又ハ寄留ノ節ハ三日以内ニ其旨御届可仕候也

年號年月日

群馬縣知事氏名殿

第三號式 用紙美濃紙

履歷書

群馬縣上野國何郡何町(村)何番地士族(平民)(寄留)

(何府縣何國何郡(區)何町(村)何番地士族(平民))

官名又ハ職業

保証人 氏

名印

何府縣何國何郡(區)何町(村)何番地士族(平民)

(何某方同居又ハ附籍)(何某長(次)男又ハ兄弟)

氏

名印

(舊名アレハ記スヘシ)

年號年月日何所ニ於テ出生

年號年月日ヨリ年號年月日マテ

一何所何某ニ從ヒ(何學校ニ入り)何學修行

年號年月日

一第何軍管徵兵第何隊へ編入

年號年月日

一滿期解隊(何々ニヨリ除隊)

年號年月日

一 任何官(補何等出仕)

年號年月日

官省院廳府縣

一 何々申付候事

同上

年號年月日

一 (依願) 免本官

同上

年號年月日

一 (依願) 職務差免候事

同上

年號年月日

一 何々ニ付賞罰(賞罰トモ其全文ヲ記スヘシ)

年號年月日

一 何々

第四號式 用紙半紙

履歷ナキ者ノ書式

何府縣何國何郡(區)何町(村)何番地士族(平民)

(何某方同居又ハ附籍)(何某長(次)男又ハ兄弟)

氏名

(舊名アレハ記スヘシ)

年號年月日何所ニ於テ出生

是レ迄公務ニ從事候儀一切無之且兵役ニ關係無之候事

右

氏名印

第五號式 用紙半紙

誓約書

私儀

本縣押丁ニ御採用ノ上ハ左ノ件々確守可仕依テ誓約候也

一 職務上ノ規則及ヒ上官ノ命令ハ確ク之ヲ遵守スルハ勿論殊ニ在監人ノ囑託ヲ受ケ他人ニ通信シ

或ハ物件ノ贈答等ヲ媒介セサル事

一 正當ノ事由ナクシテ奉職滿二ケ年以内ニ辭職セサル事

一 職務上不都合ノ廉ニ因リ免職セラレ又ハ奉職滿二ケ年以内ニ自カラ辭職スルトキハ規則ニ依リ

被服其他ノ代價ヲ辨償スル事

何府縣何國何郡(區)何町(村)何番地士族(平民)

(何某方同居又ハ附籍)(何某長(次)男又ハ兄弟)

氏名印

年號年月日

群馬縣知事氏名宛

第六號式 用紙半紙

保証書引換御届

身元保証人 群馬縣上野國何郡何町(村) 何番地士族(平民)(寄留) 何府縣何國何郡(區) 何町(村) 何番地士族(平民) 何某今般何府縣へ移轉(死亡) 致候ニ付更ニ群馬縣上野國何郡何町(村) 何番地士族(平民)(寄留) 何府縣何國何郡(區) 何町(村) 何番地士族(平民) 何某ヲ身元保証人ニ相立申候依テ別紙保証書相添此段御届仕候也

私儀

年號年月日

押丁氏

名印

群馬縣知事氏名殿

第七號式 用紙半紙印紙貼用

保証人引換証書

何監獄(外役所)詰

押丁氏

名

右ノ者保証人 群馬縣上野國何郡何町(村) 何番地士族(平民)(寄留) 何府縣何國何郡(區) 何町(村) 何番地士族(平民) 何某儀今般何府縣へ移轉(死亡) 致候ニ付私儀右保証人ニ相立申候然ル上ハ本人身上ニ關スル一切ノ事項私ニ於テ擔當可仕且官物賠償等ノ爲メ不都合有之候節ハ本人ニ拘ハラヌ私ヨリ速ニ辨償可致依テ保証候也
 追テ私儀他府縣へ轉籍又ハ寄留ノ節ハ三日以内ニ其旨御届可仕候也

年號年月日

保証人 氏

名印

群馬縣知事氏名殿

前書保証人ハ本郡本町(村) 在籍(寄留)ノ者ニシテ身元正確ナル者ニ相違無之依テ與書候也

群馬縣上野國何郡何町(村) 何番地士族(平民)(寄留)
 (何府縣何郡(區) 何町(村) 何番地士族(平民))
 官名又ハ職業

群馬縣何郡何町(村) 外何ヶ町(村)
 「戸長」氏 名印

●群馬縣第九號 明治二十年二月九日

(全年達第四十二號押丁採用規則ト全文ニ付略之)

●群馬縣廳達第二十二號 明治三十一年十二月五日

看守教習細則別紙之通相定ム

明治二十六年三月廳達第十號同第十四號ハ之ヲ廢止ス

看守教習細則

- 第一條 看守教習所ヲ監獄署内ニ置ク
- 第二條 所長ハ典獄ノ命ヲ受ケ所務ヲ管理シ教習上ニ於テハ其實ニ任ス
- 第三條 教官ハ受業生ノ教授ヲ擔任シ兼テ受業生取纏ノ事ヲ掌ル
- 第四條 受業生ノ教習期限ハ二ヶ月トス

監獄署

但時宜ニ依リ期限ヲ伸縮スルコトアルヘシ

第五條 教習成績ノ試験ハ定期及卒業ノ二種トス

但定期試験ハ每半ヶ月ニ一回トシ第七條ニ準シ評点ヲ付シ卒業試験ノ參考ニ供スルモノトス

第六條 學術試験ハ筆記及口述ノ二種トシ筆記試験ハ豫定ノ時間内ニ答案ヲ出サシメ口述試験ハ即時口頭ヲ以テ答ヘシム

第七條 卒業試験ノ成績ハ各科百点ヲ最高点トシ平均六十点以上ヲ及第トシ其六十点ニ滿タサルモノヲ落第トス

第八條 卒業試験ニ及第シタルモノハ其成績ヲ詳記シ所長之レヲ典獄ニ具申シ卒業證書ヲ授與スルモノトス

但試験成績優等ニシテ平均点数九十点以上ニ至ルモノハ證書ニ優等ノ二字ヲ朱記スルモノトス

第九條 卒業試験ニ落第シタルモノハ尙ホ一ヶ月以上復習セシメ再試験ヲ行フヘシ

第十條 受業生ノ心得ニ關スル規程ハ典獄之ヲ定ム

附 則

第十一條 受業生教習時限ハ別表ニ之ヲ定ム

(教習時間表略)

給 與

●群馬縣訓令甲第十八號

明治三十二年三月十五日

内務部

監獄署

監獄支署

看守給與品及貸與品細則左之通相定メ明治三十二年四月一日ヨリ施行ス

明治三十一年訓令甲第四十四號看守被服屬具支給規則ハ本法施行ノ日ヨリ廢止ス

看守給與品及貸與品細則

第一條 看守給與品及貸與品支給ノ方法ハ明治三十一年勅令第三百三十二號ニ基キ左ノ條項ニ依リ取扱フヘシ

第二條 給與品ハ保存期限滿チタルトキ之ヲ給與スルモノトス

第三條 給與品中左ノ物品ハ代料ヲ以テ之ヲ給與ス

新任者其他定期外臨時ニ給與スル場合ハ月割ヲ以テ給與ス

一 冬襦袢袴下 十月渡 一 夏襦袢袴下 六月渡 一 下襟 四月六月渡以下隔月

一 手套 四月七月渡以下準之 一 靴下 毎月渡

第四條 貸與品又ハ保存期限内ノ給與品ヲ亡失若クハ毀損等ノ爲メ再渡又ハ引換ヲ請求スルトキ

ハ凡テ看守長ノ証明ヲ要スルモノトス

第五條 前條ノ場合ニ於テ賠償ニ係ルモノハ當該年度ノ豫算額ニ依リ之ヲ徴收ス

但給與品ハ經過シタル保存期限ヲ控除シ月割ヲ以テ計算ス

第六條 給與品貸與品ハ互ニ交換貸借スルコトヲ得ス

第七條 看守部長外套ノ釦ハ貸與品トス

附 則

第八條 本規定ハ押丁給與品貸與品ニモ亦之ヲ準用ス

◎群馬縣訓令甲第二十三號 明治三十二年三月二十九日 内務部 監獄署 監獄支署
本年三月訓令甲第十八號看守給與品及貸與品細則ニ依リ給與スル代料給與月額並返納額月割別表ノ通相定ム

(附屬表一枚畧)

◎群馬縣廳達第二十八號 明治二十五年六月九日

内務部 監獄署

囚人外役護送旅費支給規則左ノ通相定メ來ル十六日ヨリ實施ス

囚人外役護送旅費支給規則

第一條 監獄署又ハ監獄支署所在地ヨリ近傍片道三里未滿ノ町村ヲ外役囚人護送看守押丁ノ持區トス

第二條 持區内出張ハ通常旅費ヲ給セス左ノ月額ヲ支給ス

一金參圓 看 守

一金貳圓拾錢

押 丁

第三條 持區内ノ出張ニシテ道路ノ都合ニ依リ持區外ニ涉ルコトアルモ月額ノ外ニ旅費ヲ給セス

第四條 持區内ノ出張日數一ヶ月ニ滿タサルトキハ其月現日數ニ依リ日割ヲ以テ支給ス

第五條 旅費月額ハ翌月五日以内ニ請求スヘシ

但日額給與ニ係ルトキハ其事由ヲ付記スヘシ

第六條 前數條ノ外ハ總テ一般旅費規則ニ依ルヘシ

◎群馬縣訓令甲第六十六號 明治二十五年六月九日

監獄支署

囚人外役護送旅費支給規則左ノ通り相定メ來ル十六日ヨリ實施ス

(前掲廳達第二十八號ト同文ニ付畧ス)

◎群馬縣訓令甲第一百五號 明治三十三年九月二十八日

監獄署 監獄支署

女監取締授業手及押丁俸給支給規則左ノ通り相定メ來ル十月一日ヨリ施行ス

女監取締授業手及押丁俸給支給規則

第一條 女監取締授業手及押丁ノ俸給ハ毎月末日ヲ以テ支給ノ定日トス

但シ休日ニ當ルトキハ繰上クトス

第二條 新任増俸減俸轉任免職若クハ死亡ノトキハ左ノ區別ニ依リ支給ス

一 新任者ハ發令ノ當日ヨリ日割ヲ以テ支給ス

二 増俸減俸ノトキハ發令ノ翌日ヨリ支給ス

三 轉任免職若クハ死亡ノトキハ日割ヲ以テ發令若クハ死亡ノ當日マテニ係ル俸給ヲ其際支給ス

第三條 私事ノ故障若クハ豫備後備ノ軍籍ニ在ル者召集ニ依リ又ハ徵兵検査等ノ爲欠勤シタルトキ

ハ日割計算ヲ以テ其ノ間俸給ヲ支給セス

但シ忌引ハ本文ノ限ニ在ラス

第四條 明治三十三年三月訓令甲第三十四號ハ本則施行ノ日ヨリ廢止ス

●群馬縣訓令第四百四十五號 明治三十三年十月十八日 監獄署 監獄支署
教誨師女監取締授業手ノ旅費ハ明治三十年内務省令第二十七號警察官吏其ノ他内國旅費概則ニ依
リ甲號表ノ額ヲ支給ス

處 務

●群馬縣達第百六十二號 明治二十年六月二十七日 監獄署

監獄ニ關スル事務ノ中左ニ記載スル事項ハ典獄ニ委任シテ之ヲ專行セシム

委 任 條 件

- 一 書記以下ニ分掌ヲ命スル事
- 一 看守以下ニ在勤交代ヲ命スル事
- 一 教誨師醫師調劑生及ヒ看守以下ニ除服出仕ヲ命スル事
- 一 教誨師醫師調劑生及ヒ看守以下ノ歸省并ニ出療願ヲ許可スル事
- 一 書記以下ヲ管内各監獄及ヒ外役所ニ出張セシムル事
- 一 書記以下ノ諸願届ヲ區處スル事
- 一 押丁志願者試験ノ事
- 一 監獄費日給雇以下ヲ進退スル事
- 一 看守ニ看守長代理心得ヲ命スル事
- 一 監獄定期會議開閉

監獄署

- 一 看守女監取締及ヒ押丁ニ慰勞休暇ヲ與フル事
- 一 工業種目ノ興廢ニ關スル事
- 一 工業上官民ト一時ニ屬スル契約ヲ爲ス事
- 一 署中所要ノ備品消耗品及其他炊所監房等ノ備品ニシテ金額貳拾圓以下ニ係ルモノヲ購入修繕スル事
- 一 囚徒賄用ノ米麥薪炭金額五拾圓以下ニ係ルモノヲ購入スル事
- 一 工業用ノ器械及ヒ素品購入修繕ノ事

●群馬縣應達第七十四號 明治二十三年十二月二十二日 監獄署

監獄支署處務規程別冊之通相定ム

但別冊ハ訓令第四百八十七號之通

(別冊零)

●群馬縣訓令第四百八十七號 明治二十三年十二月二十二日 監獄支署

監獄支署處務規程別冊之通相定ム(二十五年訓令第四百四十三號ニテ一部改正)

(別冊零)

●群馬縣訓令第四百八十八號 明治二十三年十二月二十二日 監獄支署

監獄支署處務順序別冊之通相定ム

(別冊零)

●群馬縣應達第十九號 明治二十六年三月二十二日
監獄署當直看守長勤務方左ノ通改定ス

監獄署

當直看守長勤務方

- 第一條 當直看守長ハ警守課看守長中典獄ノ指名ニ依リ四人ヲ以テ之ニ充ツ
- 第二條 當直看守長ハ二部ニ分チ二人ツ、一晝夜ノ勤務ニ服スルモノトス
但勤務時間ハ當日昇廳時限ヨリ翌日昇廳時限マテトス
- 第三條 當直看守長ノ中病氣其他ノ事故ニ依リ欠席シタルトキハ臨時他ノ看守長ヲシテ補勤セシムヘシ
- 第四條 當直看守長ハ在監人服役時間内ニ在テハ便宜交代シテ一名ハ間斷ナク監内ヲ巡視シ其監房閉鎖後ヨリ翌朝開監マテノ時間ニ在テハ時々監内ヲ巡察スヘシ
- 第五條 看守女監取締押丁等ノ勤惰ヲ監督シ及ヒ在監人ノ役業ヲ督勵シ若クハ其非違ヲ按檢查理スルハ專ラ當直看守長ノ責任トス
- 第六條 當直看守長ハ看守押丁勤務配置ノ箇所ヲ指定シ其朝夕交代ノ際ニ於ケル點檢及ヒ職務上ニ付テノ訓示ヲ爲スモノトス
- 第七條 當直看守長ハ総テ在監人ノ点檢及ヒ喫飯時監房搜檢其他放請席等ニ臨監スルモノトス
- 第八條 當直看守長ハ監房閉鎖後在監人点檢済ヨリ翌朝開監マテハ各半夜交代ヲ以テ一名ハ監内ノ勤務ニ服シ一名ハ廳中ニ於テ休憩スルヲ得其交代時限ハ午後十一時トス

第九條 前條ノ場合ニ於テ當直看守長ハ輪番ヲ以テ交々前後半夜ノ勤務ニ服スルモノトス
但前半夜ノ勤務ニ服シタルモノハ翌日正午十二時ヲ限リ警守課ノ事務ニ從事シ後半夜ノ勤務ニ服シタルモノハ一般官吏ノ昇廳時限ヨリ退出スルヲ得

第十條 當直看守長交代ノ際ハ前日勤務中ノ事故ハ細大トナシ日記簿ニ記載シ引繼ヲ爲スヘシ

第十一條 當直看守長ハ監内ノ取締ヲ保持及實行シテ直接ニ看守女監取締押丁ヲ指揮監督スルノ職務ヲ有ス故ニ臨時監内ニ發出シタル事件ニシテ事大体ニ關シ不注意ニ原因シタルモノハ其實ニ任スヘシ

●群馬縣訓令甲第二十一號 明治二十六年三月二十三日 監獄支署

監獄署當直看守長勤務方左ノ通改定ス

(前掲應達第十九號ト同文ニ付略之)

●群馬縣訓令甲第三百三號 明治三十年九月十八日 監獄署 監獄支署

看守實務成績考査表別紙ノ通り相定ム

但本表記入ノ手續ハ典獄ニ於テ之ヲ定ムヘシ

(表式略)

●群馬縣訓令甲第百八號 明治三十一年十二月二十八日 監獄署 監獄支署

明治二十八年十一月訓令甲第百五號看守休暇規則左ノ通り改正ス

看守休暇規則

第一條 看守ノ休暇ハ概則第二條各項ノ割合ニ依リ半ケ年間皆勤シタルトキハ典獄(支署ハ支署ニ於テ別紙様式ノ休暇証ヲ附與スヘシ)(様式略之)

半ケ年間皆勤シタルモノノ休暇ヲ爲サス尙ホ引續キ皆勤シ一ケ年ニ至ル者ハ前附與ノ休暇証ヲ訂正附與スルモノトス

五ケ年皆勤シ休暇ヲ爲シタル者引續キ皆勤十ケ年ニ至ル者ハ之ヲ十ケ年ノ皆勤トス

第二條 休暇ヲ爲サントスルモノハ二十四時間以前ニ休暇証ヲ以テ典獄ニ申出承認ヲ受ケ典獄ハ相當欄内ニ休暇ノ日數及承認ノ年月日ヲ記入捺印ノ上下附スヘシ

但隔日勤務ノ者ニ在テハ二日以上ニアラサレハ與ヘサルモノトス

第三條 休暇ハ定員十分ノ一ノ割合ヲ以テ之ヲ與フルモノトス

但典獄ハ事務ノ都合ニ依リ臨時休暇ヲ停止又ハ日數ヲ制限スルコトヲ得

第四條 皆勤日數ハ滿日ヲ以テ計算シ半ケ年及一ケ年皆勤ノ者ハ其滿日ノ翌日ヨリ起算シ一ケ年以内ニ五ケ年及十ケ年皆勤ノ者ハ十ケ年以内ニ於テ休暇ヲ與フルモノトス自己ノ便宜ニ依リハアラスシテ本條ノ期限ヲ經過シタルモノハ期限經過後三ヶ月以内ニ於テ之ヲ與フルモノトス

第五條 概則第三條ノ外尙左ニ掲クルモノハ皆勤日數ニ算入ス
職務上感染セシ傳染病療養ノ日數

第六條 左ニ掲クルモノハ欠勤及皆勤日數ニ算入セス
一 点呼復習及休職
二 忌引及慰勞休暇
三 傳染病者ノ爲メ遮斷又ハ隔離施行中

第七條 他廳府縣巡查看守又ハ本縣巡查ヨリ本縣看守ニ轉任シタル日數ハ前后相通算スル者トス

第八條 本則ハ其施行以前ノ皆勤者ニ對シテモ亦適用ス

●群馬縣訓令第七十九號 明治三十三年七月三日

女監取締授業手押丁休暇規則左ノ通相定ム

但本則ハ施行以前ニ係ル皆勤者ニモ適用ス

女監取締授業手押丁休暇規則

第一條 女監取締授業手押丁ニシテ半ケ年以上皆勤ノ者ニハ特ニ慰勞ノ爲メ左ノ割合ヲ以テ休暇ヲ與フ

一 一ケ年皆勤者 十五日 一 半ケ年皆勤者 七日

第二條 前條皆勤者ニハ典獄(支署長)ニ於テ別紙様式ノ休暇証ヲ附與スヘシ(別紙様式略)

第三條 皆勤日數ハ滿日ヲ以テ計算シ其滿日ノ翌日ヨリ起算シ一ケ年内ニ於テ休暇ヲ與フルモノトス

但自己ノ便宜ニアラスシテ本條ノ期限ヲ經過シタルモノハ期限經過後三ヶ月以内ニ於テ之レヲ與フルモノトス

第四條 看守休暇規則第二條第三條第五條第六條ハ本則ニモ適用ス

文 書

●群馬縣已第六號 明治十七年八月二十二日

監獄署

從前縣廳名ヲ以差出候文書ハ自今總テ「縣令」名ヲ用ユヘシ
右相達候事

●群馬縣已第二號 明治十三年七月五日 「獄 司」

監獄署「懲役署」在勤之「巡查」「獄丁」雇等任免辭令ハ自今及送付候條傳達方取計受書可差出此旨相達候事

●群馬縣已第六號 明治十三年九月二十一日 監獄本署「獄 司」

監獄署詰「巡查」「獄丁」等進退ノ義ハ「獄司」ヨリ直チニ申出候様可致此旨相達候事

●群馬縣已第三號 明治十三年七月二十四日 監 獄 署

「巡查」雇昇等増給及解職等都テ進退ニ關スル事故ハ必ス長官宛親展ヲ以テ具申可致此旨相達候事

●群馬縣丁第四號 明治十九年二月十九日 監 獄 署

郵便物取扱方ハ節ニ注意セサレハ經濟上大ニ影響ヲ來スノ恐アルヲ以テ自今左ノ方法ヲ以テ取扱フヘシ

一 諸用紙狀袋ハ可成薄紙ヲ用ユルコト

一 短文ノモノハ勿論其他可成細字ニ認メ半紙野紙ヲ用ユルコト

一 機密ニ涉ラサル文章呼出等ハ葉書ヲ用ユルコト

●群馬縣甲第六號 明治十八年一月二十八日

從來人民ヨリ差出ス願届ハ渾テ「縣令」宛ニテ可差出旨豫テ布達ノ趣モ有之處自今左之項目ニ限リ典獄名宛ニテ差出スヘシ

「一在監人へ差入物願」(二十二年告示第四十四號ニ依リ消滅)

「一在監人面接願」(同上)

一無籍者ニシテ主刑滿期ノ後チ監視ニ附スヘキ者へ就籍ノ上引受願

一在監人死亡遺骸引取願

一 外役所與廢ヲ除クノ外役業ニ關スル諸願届

●群馬縣告示第四十四號 明治二十二年七月十九日

在監人へ面接及ヒ物品ノ贈與ハ自今願書ヲ要セス名刺ニ其物品又ハ面接ノ事項ヲ記入シ差出スヘシ

●群馬縣訓令甲第七十六號 明治三十三年六月二十九日 監獄署 監獄支署

文書整理保存規程別冊之通相定ム

但從來ノ文書モ本規程ニ據リ整理スヘシ

(別冊略之)

●群馬縣已第九號 明治十三年十二月二十日

三大節賀表ノ義郵送ノ分ハ自今美濃紙ヲ可相用此旨相達候事

●群馬縣訓令甲第一百四十四號 明治三十三年九月二十六日 監 獄 署

其ノ署作業場ニ於テ明治三十三年九月農商務省訓令甲第三十一號ニ該當スル災害事故ヲ生シタル
トキハ右報告方ニ準シ直ニ報告スヘシ

◎群馬縣應達第四十號 明治二十五年六月二十八日 監獄署
會計検査院法第十六條ニ據リ左ノ物品出納計算ノ検査及責任解除ヲ明治二十五年度以降本應ニ委
托セラレタルニ付計算書提出方訓令甲第九十一號之通り心得ヘシ

一監獄則ニ依リ典獄ノ領置スル在監人所持品
◎群馬縣應達第三十五號 明治二十六年七月五日 監獄署
會計検査院法第十六條ニ據リ歳入歳出外現金出納計算ノ検査及責任解除ヲ明治二十五年度以降本
應ニ委託セラレタルニ就テハ該計算書提出方ハ訓令甲第四十七號ノ通心得ヘシ

禮式及服裝

◎群馬縣訓令甲第五十九號 明治二十二年五月二十一日 監獄署
押下禮式別紙之通相定ム

押下禮式

第一條 凡ソ禮式ヲ行フニハ姿勢ヲ整肅ニシ氣息ヲ靜屏シ敬意ヲ表スルヲ以テ主トスヘシ

第二條 天皇三后皇太子皇族内閣總理大臣各省大臣正式勅使及所屬知事ニ對シテハ凡ソ五步前ニ
於テ正而ノ方向ヲ採リ直立シテ兩足ヲ整ヘ右手ヲ以テ帽ヲ脱シ其儘兩手ヲ垂下シ帽ヲ袴ノ縫目
ニ當テ稍上体ヲ前ニ傾ケ敬禮スヘシ

第三條 所屬第二部長典獄副典獄書記看守長看守副長ニ對シテハ凡ソ五步前ニ於テ稍正面ノ方向
ヲ採リ直立シテ兩足ヲ整フルト同時ニ兩手ヲ垂下シテ少シク首ヲ領スヘシ

第四條 看守及同僚相互ノ禮式ハ凡ソ五步前ニ於テ兩足ヲ整フルト同時ニ左手ヲ垂下シ右手ヲ舉
ク五指ヲ整閉シ其第一關節ヲ帽ノ肩庇右端ニ當テ其人ニ注目スヘシ

第五條 第二條行禮ノ際ハ其人ノ通過シ了ルヲ俟テ後ヲ進行シ第三條第四條行禮ノ際ハ其間一所
ニ止マルニテラス禮了レハ即チ當ニ進行スルモノトス

第六條 看守禮式第八條第九條第十條第十二條第十四條第十六條ハ押下禮式ニモ亦タ之ヲ適用ス

◎群馬縣訓令甲第五號 明治三十一年十二月二十六日 監獄署
女監取締ノ服裝ハ黒地ノ羽織袴ヲ着用セシム
但其地質ハ適宜トス

囚徒

◎群馬縣應達第三十號 明治二十六年五月十二日 監獄署
明治二十四年一月應達第一號ヲ以テ高崎監獄支署ニ拘禁スル刑事被告人刑ノ言渡ヲ受ケ裁判確定
シタルトキハ其署ニ押送セシム可キ旨達置候處右ハ輕禁錮又ハ拘留ニシテ其刑期十日ヲ超ヘサル
モノハ自今同支署ニ於テ直ニ刑ノ執行ヲ爲サシム可シ

◎群馬縣應達第一號 明治二十四年二月二十三日 監獄署
高崎監獄支署ニ拘禁スル囚人ハ來ル三月三十一日限り其署ニ移送シ爾後刑事被告人ニシテ刑ノ言

渡ヲ受ケ裁判確定シタルトキハ其都度其署ニ押送セシム

●群馬縣訓令甲第八十四號 明治三十一年十月十四日

監獄署 警察署 警察分署 監獄支署
來ル十月十八日ヨリ囚人及刑事被告人押送ノ儀ハ瀛車瀛舩ノ便アル地方間ニ限り其目的地又ハ目的の地最近ノ場所迄直接押送シ且ツ他應府縣ヨリ他應府縣ニ亘ル押送ハ總テ本縣下ニ於テ受繼カサル儀ト心得ヘシ

●群馬縣訓令甲第九十七號 明治三十一年十一月二十八日

監獄署 警察署 警察分署 監獄支署

本年十月訓令甲第八十四號瀛車瀛舩ノ便アル地方間ニ於ケル囚人及刑事被告人押送ノ件ハ戒護者若クハ費用等ノ都合ニ依リ直送シ能ハサル場合ニ於テハ遞傳ニ付スヘシ又他應府縣ヨリ右ノ如キ場合ニ於ケル遞傳アリタルトキハ之レカ受繼ヲ拒絕スルヲ得サル儀ト心得ヘシ

●群馬縣訓令甲第十號 明治三十一年二月五日

警察署 警察分署

囚人及ヒ刑事被告人ノ押送ハ別表ニ據リ取扱フヘシ

(表式略)

●群馬縣訓令甲第二百一十一號 明治三十三年十二月二十六日

監獄署 監獄支署

司獄官吏ニシテ私設鐵道ニ依リ囚徒ノ護送ヲ爲ス場合ハ本年十二月訓令甲第九十八號ニ準據スヘシ

但鐵道通券發行擔任者ハ監獄署ニ在リテハ典獄監獄支署ニ在リテハ監獄支署長トス
(訓令甲第九十八號ハ追録中警察ノ部ニ登載ス)

雜

件

●群馬縣已第一號 明治十三年六月二十六日

監獄署

監獄署内ニ於テ囚人反獄ヲ企ツ時及内出火之時該署ニ於テ「盤木」打方之儀信號之通相定メ候條此旨相達候事

●群馬縣已第八號 明治十三年十月二十八日

監獄署

已第一號達中盤木ノ二字ヲ半鐘ノ二字ニ改メ左之通り更ニ信號相定メ候條此旨相達候事

反 獄 信 號

○ ○ ○ ○

獄内出火信號

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

此符號ヲ急打ス

●群馬縣已第二號 明治十五年一月十六日

「戸長役場」

明治九年二月本縣第二十二號ヲ以懲役人外役貸渡ノ儀ニ付雇主心得書添告諭致置候處本月一日ヨリ監獄則ニ依リ囚徒數名ヲ凡一組ト爲シ看守押丁等付添便宜外役セシメ候條望ノ者ハ監獄本署又ハ外役所へ可申出旨町(村)内へ告知スヘシ此旨相達候事
但使役上ノ都合ニ依リ其需メニ應セサルコトモ可有之事

●群馬縣第二十二號 明治九年二月二十四日

懲役人外役出張ノ節雇主ト役囚ト無謂談話致シ甚々敷ニ至リテハ看守ノスキヲウカ、ヒ密々懲役人ヨリ宿元等エノ音信ヲ引受又ハ金錢等授與侯者モ間々有之趣ニ相聞不都合ノ至ニ候畢竟懲役ノ方法タル現犯罪科ヲ懲ラシ將來ヲ戒メ候爲ニ被設候事ニ有之然ルヲ前顯ノ如キ所爲有之候テハ懲戒ノ御主意ニ相悖リ甚以不相濟儀ニ付自今右様心得違ノ儀決テ不相成候間別記懲役人雇主心得書相添此旨及告諭候條毎戸無洩懇切ニ可通達者也

懲役人雇主心得書

一懲役人ヲシテ農業其他ニ相雇度者ハ雇入ノ前日午后五時迄ニ各出張所へ所用ノ人員及使業ノ大略申出ヘシ當日午前七時迄ニ其出張所へ人足迎トシテ罷出午后六時迄ニ召連再出張所へ引渡スヘシ

但使業ノ便宜ニ應シ刻限遅速ハ其出張所ニ打合セ不都合無之分適宜タル可シ

一雇錢錄懲役人ニ渡シ置キ有之ニ付其日ノ雇錢ヲ記シ本人ニ還付スヘシ

但雇錢ハ出張所へ相納メ人足食料等ハ各所平均相場ヲ以出張所ヨリ受取可申最手賄ノ分ハ此例ニアラス

一懲役人ヲ雇ヒ轉借スル事ヲ禁ス

一飲酒類ハ勿論尋常飲食ヲ除クノ外自己ニ授與スル事ヲ禁ス

一附添ナク郭外へ差出候ハ勿論附添アルト雖モ一里外へ差出ス事ヲ禁ス

一懲役人ト無謂談話シ且犯人ノ請托ヲ受ケ信書ハ勿論總テ贈答ヲ禁ス

但シ使役筋ニ付テノ談話等ハ格別之事

右之通厚相心得不都合無之様堅可相守事

●群馬縣甲第六十一號 明治十三年五月三十一日

懲役人雇主心得ノ儀ハ明治九年第二十二號告諭ノ旨モ有之候處近來雇主親戚朋友等外役先或ハ途中ニ於テ該役囚ト無謂談話シ金錢物品ヲ與ヘ宿元へ通信等ヲ取次候モノモ有之哉ニ相聞ヘ甚以不都合ノ儀ニ候條自今右様ノ儀決シテ不相成候條此旨布達候事

現行 群馬縣令達大全終

追 録

(印刷渡及印刷濟後發布ノ分)

警察署

●群馬縣令第四十號 明治十七年八月二十一日
從前縣廳名ヲ以差出候文書ハ自今總テ「縣令名」ヲ用ユヘシ

●群馬縣令第五十二號 明治三十年十二月十一日
縣特別會計農工銀行株式管理方法縣會ノ議決ヲ經左ノ通相定ム

縣特別會計農工銀行株式管理方法

第一條 農工銀行補助法ニ依リ縣引受ノ株式會社群馬縣農工銀行株式ハ七千九百五十四株トス

第二條 前條ノ株式ハ縣知事之ヲ管理シ縣特別會計トス

●群馬縣訓令甲第三十五號 明治三十一年三月二十五日

內務部 警察部 警察署 警察分署

明治三十一年三月訓令甲第二十六號 巡查給與品給與及保存規程第四條ニ依リ下付スヘキ金額及明治三十年九月勅令第三百三十九號 巡查給與品及貸與品規則第五條ニ依リ返納スヘキ金額別表ノ通相定ム(別表略)

●群馬縣訓令甲第七十二號 明治三十三年六月二十六日
縣會議員選舉調別紙ニ依リ選舉終了後三十日以内ニ報告スヘシ

郡市役所

縣會議員選舉被選舉調

舉行月日

郡(市)役所

議員數	選舉權被選舉	有効	成規ノ用紙 モ川非ナル	以上ノ被選舉 人ヲ記載 シタルモノ	何々	何々	何々	合計	投票セ サル者
	ヲ有ス権ヲ有 ル者								

●群馬縣令第百號 明治三十三年十二月二十五日
 明治三十二年六月縣令第二十五號中左ノ道改正シ明治三十四年一月一日ヨリ施行ス
 第一條中「工場」ノ上ニ「職工徒弟十人以上雇使スル」ヲ加ヘ「負傷者アルトキ」ノ下ニ「並疾病負傷
 ノ爲メ解雇ヲ爲サムトスル者及休業三十日以上ニ渉ル者アルトキ」ヲ加フ
 第二條中「寄宿舎又ハ社宅アル工場」トアルヲ「職工徒弟十人以上ヲ雇使シ且寄宿舎又ハ社宅アル
 工場」ト改メ「患者數」ノ下ニ「死者數」ヲ加ヘ同條第二項「疾病負傷」ノ上ニ「死者及」ヲ加ヘ「疾病
 負傷ノ爲メ」ノ下ニ「解雇ノ者及」ヲ加フ
 第三條中「報告スヘシ」ノ下「第二條第二項ノ病傷者アルトキ亦同シ」ヲ削ル
 別表雛形(備考)中「疾病負傷ノ爲メ」トアルヲ「死者及疾病負傷ノ爲メ解雇ノ者及」ト改ム
 ●群馬縣訓令第百七十六號 明治三十三年十一月二十三日 警察署 警察分署
 輕禁鋼拘留或ハ拘留狀ヲ發シタル刑事被告人ヲ拘禁スル警察署及警察分署ニ於テハ明治三十四年
 一月一日ヨリ左ノ統計小票ヲ調製シ毎月二日迄ニ其前月ニ係ルモノヲ監獄署ニ送附スヘシ
 但拘禁者ナキ場合ニ在テハ其ノ旨通知スヘシ(表式略)

●群馬縣訓令第百九十八號 明治三十三年十二月二十一日 警察部 警察署 警察分署
 私設鐵道乘車手續左之通相定メ明治三十四年一月一日ヨリ之ヲ施行ス
 明治二十年七月達第一七一號私設鐵道乘車手續ノ件ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス
 私設鐵道乘車手續
 第一條 私設鐵道法第六十九條第七十條ニ依リ公務ヲ以テ旅行スル警察官吏及護送ノ囚徒ハ私設
 鐵道會社ノ鐵道列車ニ賃金ノ半額ヲ以テ乘車スルコトヲ得
 第二條 警察官吏公務旅行又ハ護送ノ囚徒タルコトヲ證スル爲メ鐵道通券ヲ發行ス
 第三條 鐵道通券ヲ分チテ左ノ三種トス
 一 警察官吏鐵道通券
 二 囚徒鐵道通券
 第四條 第一條ニ依リ乘車セントスルトキハ乘車前賃金ノ半額ト共ニ鐵道掛員ニ差出シ之レト引
 換ニ乘車切符ヲ受取ルヘシ
 第五條 鐵道通券發行擔任者ハ警務課長トス
 警察部ニ在リテハ警務課長警察署ニ在リテハ警察署長警察分署ニ在リテハ警察分署長通券保管
 ノ責ニ任ヌ(三十四年訓令第十九號
 五條第五條第七條改正)
 第六條 鐵道通券發行擔任者ハ官氏名及印鑑ヲ鐵道會社ニ交付スヘシ
 第七條 鐵道通券發行擔任者ヨリ各保管者ニ送付シ各保管者ハ所屬官吏ノ請求ニ依リ所要ノ記入
 ヲ爲シ交付スヘシ
 各保管者ニ於テ所要ノ事項記入ノ際加筆、改竄等ヲ施シタルモノハ取廻メ發行擔任者ニ返送ス

發行擔任者及各保管者ハ左ニ掲ケル様式ニ倣ヒ帳簿ヲ備ヘ其出納ヲ明カニスヘシ(様式略)

第八條 警察官吏鐵道通券ニハ旅行スル官吏ノ官氏名ヲ記シ一人一枚囚徒鐵道通券ニハ囚徒何名及監守官吏ノ氏名ヲ記入シ數名一枚ヲ用ユヘシ

第九條 鐵道通券ニ事項ノ記入ヲ爲ストキハ總テ墨汁ヲ用ヒ鉛筆ノ使用ヲ禁ス又加筆改竄等ヲ施シタルトキハ必ス其箇所ニ發行擔任者ノ認印ヲ捺捺スヘシ

第十條 囚徒ヲシテ乘車セシムルトキハ他ノ乘客ト隔居セシムヘシ

第十一條 第三條ノ鐵道通券ハ附錄第一號第二號ノ雛形ニ依ルヘシ(雛形略)

●群馬縣訓令甲第四號 明治三十四年一月十八日 警察署 警察分署

警察官吏ノ囚人及刑事被告人ヲ押送スルニ當リ押送ノ途次往々被押送者ニ逃走セラレ甚キニ至リテハ押送官吏ノ殺害セラレタルコトアリ就テハ向後押送官吏ヲ付スルニ方リ被押送者ノ性行罪質腕力及行路ノ難易等ヲ參酌シ之ニ適應セル人員及人物ヲシテ押送ノ任ニ當ラシメ押送上不都合之レナキ様一層注意スヘシ

●群馬縣訓令甲第十號 明治三十四年一月二十五日 警察署 警察分署

他管ヨリ他管ニ護送スヘキ囚人及刑事被告人ノ傳遞ヲ受ケ其ノ押送中逃走シタル者アルトキハ囚人及刑事被告人押送細則第十二條ニ依リ通報ヲ爲スノ外尙左ノ事項ヲ本縣監獄署ヘ通報スヘシ

一 原籍姓名 一 刑事被告人ニ在テハ被告事件囚人ニ在テハ罪名刑名刑期 一 押送ノ事由 一 逃走ノ場所

(備考) 本書中本年四月八日ニ至ル迄ニ改廢セラレタルモノヲ簡宜取調タルモノナリ(内)ハ内務部(警)ハ警察分署ナリ

警 消防組部分區域	廿七年告示第百七十一號	三五	三十四年縣令第十號ニテ一部改正
内 牛羊豚等輸入停止ノ件	廿八年縣令第百九十八號	一〇三五	三十四年縣令第十五號ニテ廢止
内 蠶種檢査法施行手續	廿九年縣令第百九十九號	九二	三十四年縣令第十三號ニテ改正
内 社寺等觀覽料徵收ノ件	卅一年告示第百九十九號	七四	三十四年縣令第十六號ニテ改正
警 消防組部分區域	卅二年縣令第百七十七號	三五	三十四年縣令第十七號ニテ一部改正
内 前橋中學校規則	卅三年縣令第百七十七號	九三七	三十四年縣令第十九號ニテ一部改正
内 新田中學校規則	卅三年縣令第百七十七號	九三三	三十四年縣令第二十號ニテ一部改正
内 郡市立尋常小學校本科准教員講習所規則	卅三年縣令第百七十七號	九〇六	三十四年縣令第二十三號ニテ一部改正
内 郡市長委任條件	卅四年縣令第百七十七號	五〇九	三十四年縣令第二十五號ニテ一部改正
警 屠獸及賣肉取締規則	卅四年縣令第百七十七號	四七	三十四年縣令第二十七號ニテ改正
警 消防組部分區域	卅七年告示第百七十七號	二五五	三十四年縣令第三十一號ニテ一部改正
警 消防組部分區域	卅七年告示第百七十七號	二五五	三十四年縣令第三十一號ニテ一部改正
内 群馬縣高等女學校規則	卅八年縣令第百九十九號	九六	三十四年縣令第三十三號ニテ一部改正
内 蠶種檢査所職制及所員服務心得	卅八年縣令第百九十九號	九六	三十四年縣令第三十三號ニテ一部改正
内 蠶種檢査所處務規程	卅八年縣令第百九十九號	九六	三十四年縣令第三十三號ニテ一部改正
内 學事年報取調條項及様式	卅九年訓令甲第百四十八號	八三	三十四年訓令甲第四十九號ニテ改正
警 警察官吏持區内日當月額支給細則	卅九年訓令甲第百四十八號	五	三十四年訓令甲第四十九號ニテ一部改正

内 保存金社入金取扱順序
 内 沒收物件取扱順序
 内 沒收物件ノ報告等ノ件
 内 警察官吏保管物品取扱順序
 内 土木係員派出所規程
 内 物品會計官吏出納シ得ル物品ノ件
 内 物品出納順序物品取扱順序
 内 物品取扱規程
 警 警察官吏受持區内日常月額支給細則
 内 縣會議員選舉調
 内 地方森林會議員旅費及手當支給規則
 警 阿片卸賣人
 警 巡查定員表

第三十一年訓令甲第七十九號	七四	三十四年訓令甲第叁三號ニテ一部改正
第三十一年訓令甲第七十八號	一〇六三	三十四年訓令甲第七十八號ニテ廢止
第三十一年訓令甲第七十七號	一〇六四	全
第三十一年訓令甲第七十六號	一〇六五	全
第三十一年訓令甲第七十五號	八〇四	三十四年訓令甲第九十二號ニテ廢止
第三十一年訓令甲第七十四號	一〇九五	三十四年訓令甲第九十三號ニテ廢止
第三十一年訓令甲第七十三號	一〇九五	全
第三十一年訓令甲第七十二號	一〇八八	全
第三十一年訓令甲第七十一號	五	三十四年訓令甲第叁九號ニテ一部改正
第三十一年訓令甲第七十號	二	三十四年訓令甲第壹號ニテ一部廢止
第三十一年訓令甲第六十九號	一〇八	三十四年告示第三十九號ニテ廢止
第三十一年訓令甲第六十八號	五〇	三十四年告示第五十三號ニテ一部改正
第三十一年訓令甲第六十七號	一八	三十四年訓令甲第七十七號ニテ改正

明治三十四年四月十五日印刷
 明治三十四年四月三十日發行

非賣品

編纂兼發行人

群馬縣前橋市立川町第九號
 鎗 居 龜 太 郎

編纂兼發行人

群馬縣前橋市清王寺村第六十七番地
 谷 民 平

編纂兼發行人

群馬縣前橋市曲輪町對岳館内
 葛 城 衛

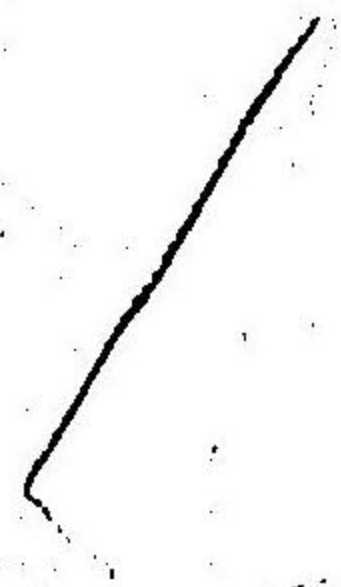
印刷人

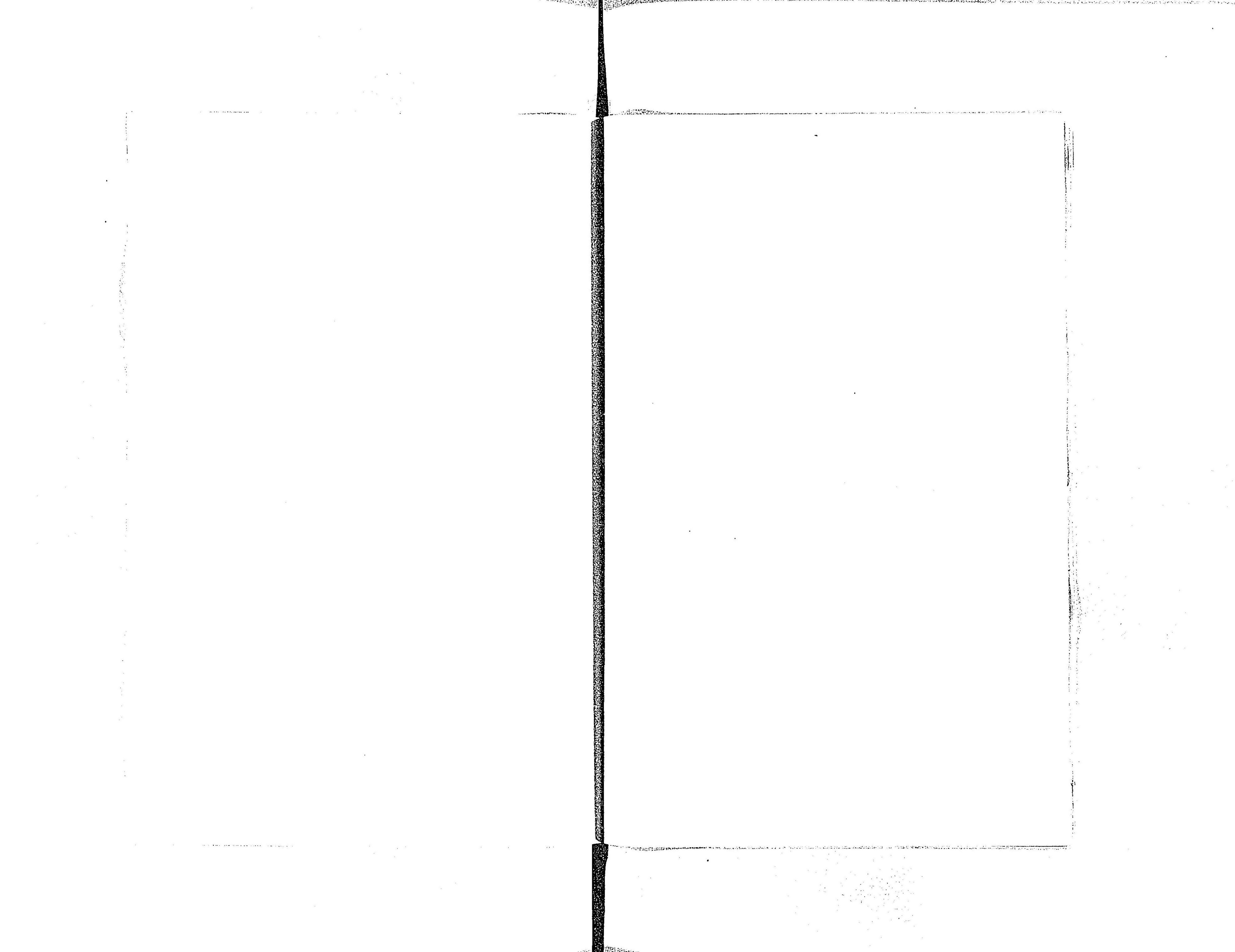
靜岡縣靜岡市吳服町四丁目三十番地
 小 池 直 次 郎

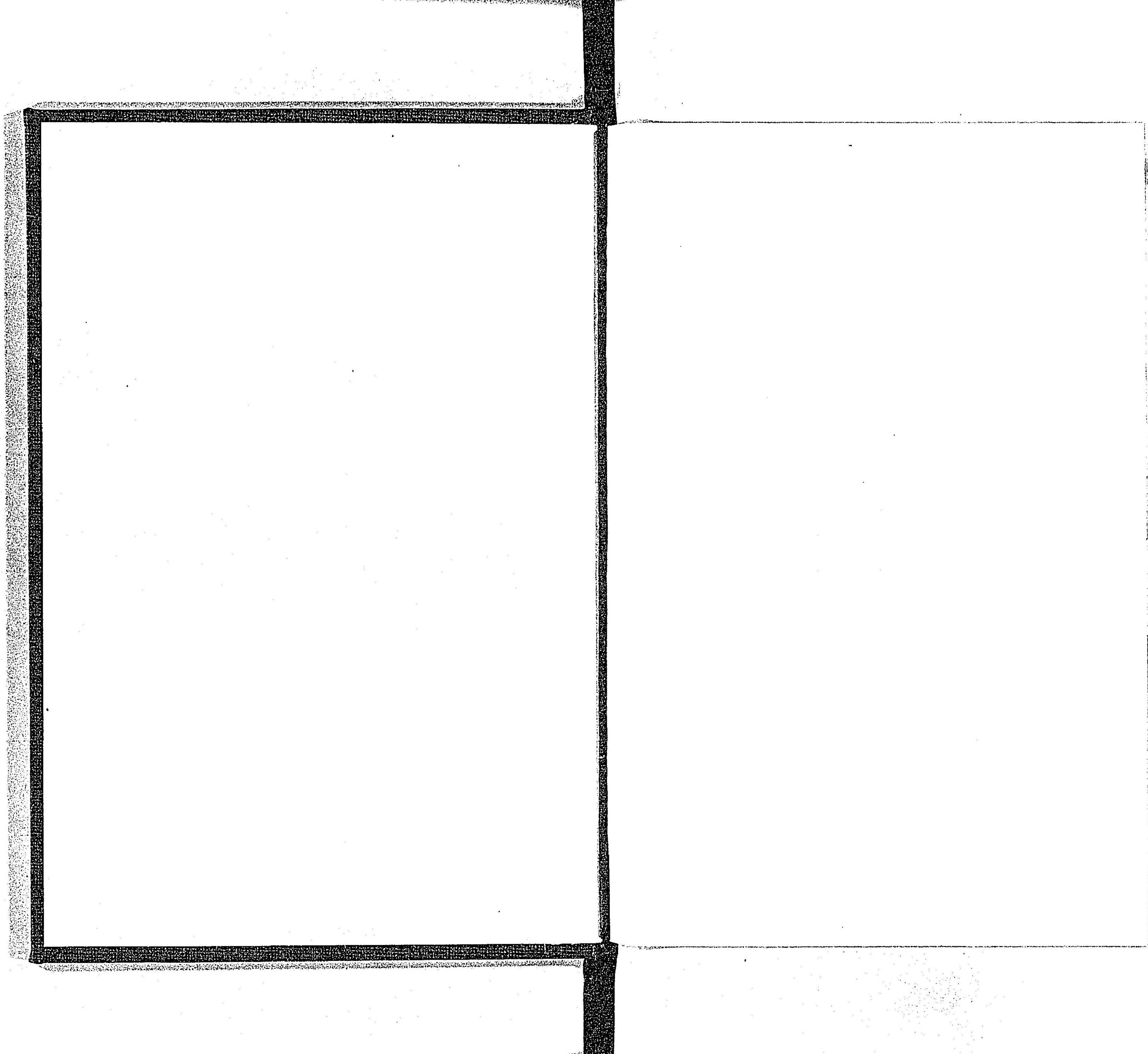
印刷所

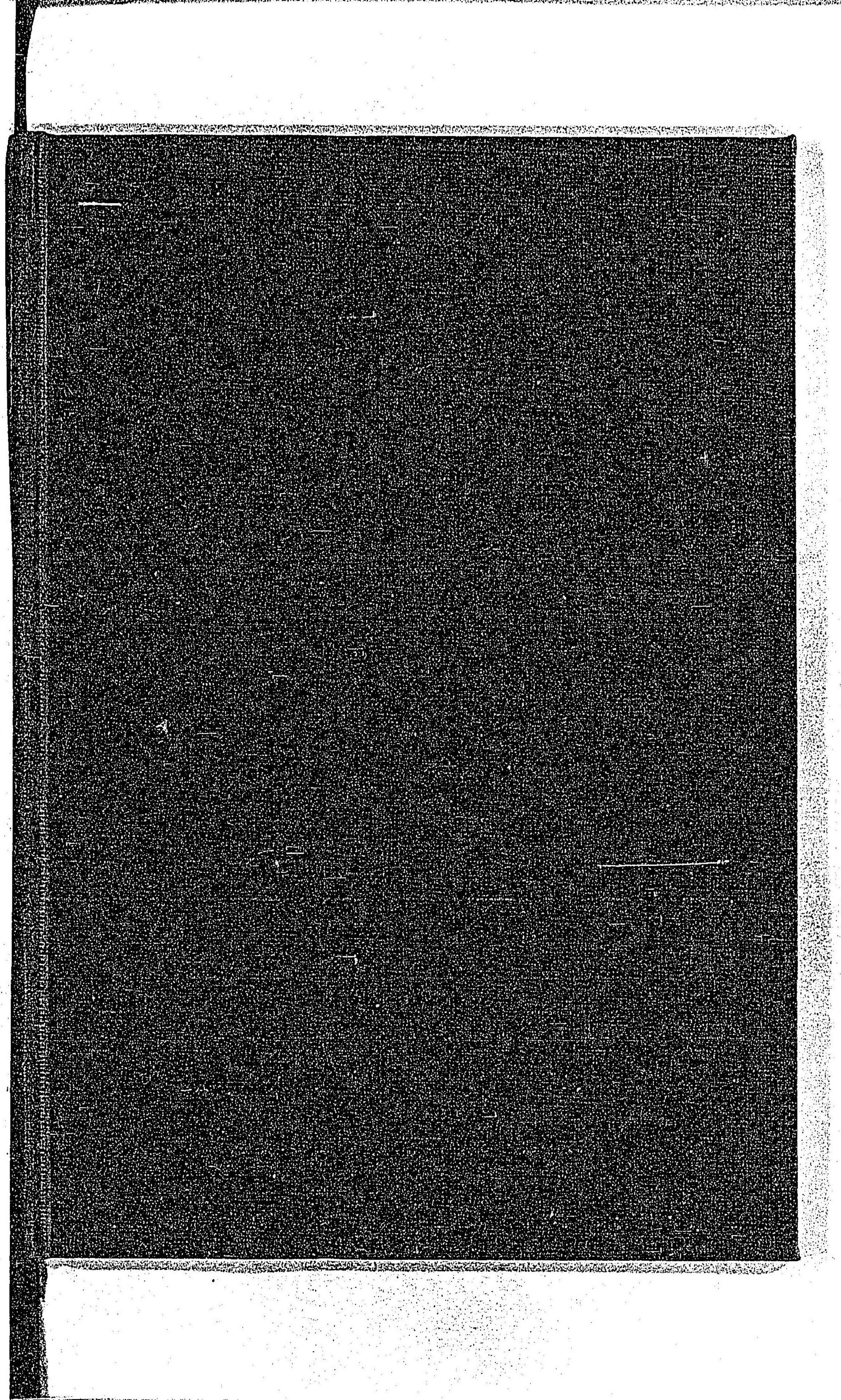
靜岡縣靜岡市吳服町四丁目三十番地
 小池商店活版部

9#7109









031268-000-2

CZ-1113-31-06

現行群馬県令達大全

鎗居 亀太郎 / 等編

M34

BBD-0382



